

會議員、市參事會員に就任して、専心當市の發展伸張に寧日なき活動を續けてゐる。

更に氏は繁忙を極むる市政の傍ら、また漁業組合長も兼ね、地方自治産業の爲めに勝れたる識見手腕を發揮してゐる。

石川、七尾市所口町

縣會議員 三井 耕作
市會議員

氏は舊矢田郷村の出身にして、明治二十年十月に呱聲を擧げ、のち三井家の養嗣子となり、早くより公共事業に參與して、七尾



町の發展に盡力した功勞者である。曩に七尾町々會議員(二期)、助役等を歴任し、昭和十四年縣會議員に當選、並びに市制施行と共に市會議員の重責を擔ひ、寢食

を忘れて社會公共に眞摯の努力を續け、市民の感謝するところとなつてゐる。

其の卓拔せる識見手腕は素より、温厚にして圓満の人格は、温容且大度の風格と共に、氏をして今日の大成に至らしめた所以であり、大七尾市建設に大いに期待されてゐる。

現在、家庭には淑徳の譽れ高き萬夫人との間に三男があり、和氣溢れる圓満な一家である。

石川、七尾市藤橋町

市會議員 南 乙吉

現下産業界の活潑なる進展と共に、日本の要津七尾港の股賑は、日を次いで盛んなるものがある。其の中に、内外移出問屋南商店の活躍は、實に目醒しき經營振りを發揮してゐる。

當商店が今日の隆盛にあるは、經營者南乙吉氏の並々ならぬ苦心努力による。氏は明治二十三年一月に呱聲を擧げた。

大正四年に至り現在の商店を開業し、



爾來一意専心、斯業の開發向上に盡瘁し、米穀、肥料

精米、建等を専門に取引をなし、また仁壽生命保險株式會社代理店を併業して、益々發展の一途を辿つてゐる。殊に堅實の經營と、親切に終始する奉仕的態度は、業者間に多大の信用を博し機宜即應せる勝れた商才と、圓満なる人と爲り、益々氏をして盛大に至らしむるは必然で、其の前途は實に洋々たるものがある。

氏は家業の傍ら、市會議員、市參事會員、商工會議員、區總代等幾多の要職を兼ねて獻身的努力を續けてゐる。

なほ家庭には、嚴父喜久松氏、富子夫人、長男吉男君のほかに二女があり、常に和氣溢るる圓満の一家と謳はれ、目下

吉男君は、七尾商業學校に在學中である

石川、七尾市石崎

市會議員 達 吉之丞

氏は、明治二十二年一月に呱聲を擧げた。二十五歳の時獨立して精米業を經營し、爾來幾多の困難と損失に遭遇したが、克く當初の素志を貫徹して、誠實と努力に終始し、日夜斯業の發展に奔走し、終



に今日の大成を見るに至つた。

寔に事業の成功

は運に俟つもの多しと雖ども、機宜即應以て商機を捌み、致々營々として寸暇も倦まざる努力は、成功の要訣と云ふも過言ではない。

氏の如き堅實の經營方針を信念とし、親切に奉任するは、蓋し氏を今日にあら

しめたる所以である。

更に氏は繁忙極むる事業經營の傍ら、村會議員、消防組頭、青年團長等幾多の公職を歴任して勝れたる手腕を示し、市制施行となるや、推されて市會議員に當選し、また方面委員、學務委員、警防團石崎分團長等を兼務して、日夜公共の爲め獻身的活動を續けてゐる。

資性温厚にして篤實、高潔圓満の人格は、共に卓拔せる識見手腕と相俟つて、衆庶の信頼を一身に聚めてゐる。

なほ家庭には、婦徳の閑え高き夫人との間に、長男嘉吉氏がある。

石川、七尾市若林町

市會議員 林 亮一

市會議員とし卓越せる識見手腕を謳はれ、市政に活躍する林亮一氏は、先代太郎氏の長男として、明治三十九年十月に呱聲を擧げた。

嚴父太郎氏は、早くより村會議員、

産業組合専務理事等を勤め、自治産業の

圓満なる發達に多大の貢献を爲した、當材の長老であり、殊に當地産業組合創立當初より、組合の伸展に盡瘁し、縣下屈指の模範優良組合に列せしめた、稀れに見る努力家であつた。

當主亮一氏も亦先代に劣らぬ公共に盡



す志厚く意志鞏固なる少壯新進の逸材で、事に當りて

は飽くまで素志を貫徹せずば止まらぬ燃ゆる如き信念は、高潔清廉の人格と相俟つて、衆庶の信頼を一層深めてゐる。

其の勝れたる手腕識見は、若き潑刺たる意氣と共に、凡ゆる問題に才腕を發揮し、殊に養蠶組合及び農事實行組合には氏の貢献する所極めて多く、此度市制を施かれるや、推されて市會議員に當選し今日に至つてゐる。

今や新體制下に少壯新進の人材を要望する時に當り、氏の如き偉材の存在は、寔に心強き次第で、今後氏の活躍は一層大いに期待せられ、其の前途は洋々たるものがある。

現在家庭には、今なほ健在の、とみ母堂を始め、温雅なる百合子夫人との間に長男實君、長女和子さんがあり、常に和氣溢るる圓滿な一家を営み、周囲の羨望の的となつてゐる。

石川、七尾市檜物町

市會議員 春木 藤兵衛

當家は累代春木屋と稱し、四代前より七尾に呉服商を經營する老舗にて、昭和十二年株式會社の組織に改め、店舗を擴張して近代的百貨店に面目を一新し、益々堅實なる發展を示してゐる。

常主藤兵衛氏は明治三十二年二月、永井正三郎氏の四男として呱呱を擧げ、長じて金澤商業學校に學び、拔群の成績を

もつて卒業した秀才で、のち請はれて先



代藤兵衛氏の養子となり、家督を相続し襲名した。

嘗て舊能登銀行専務取締役として、銀行界に敏腕を揮ひ、地方金融界の有力者として重きを爲してゐたが、のち期するところありて昭和十二年當銀行を辭し、百貨店經營に着手して多年の経験と勝れた商才を發揮し、家運を隆盛に導いてゐたが、株式會社に改め専務取締役に就任した。

更に氏は繁忙なる事業の傍ら、公共にも參與し、幾多の貢獻を爲し、現に市會議員、七尾商工會議員、呉服雜貨小賣商業組合理事長等の要職を兼任してゐる。

其の卓拔せる識見手腕は素より、圓滿高潔の人格は、衆庶の畏敬するところである。燃ゆる如き固き信念と、愛市の精神は常

に市民の感謝となり、七尾市發展の爲め日夜献身的努力を續けてゐる。

なほ家庭には、健在のとみ母堂と、文子夫人との間に、七尾高女及び實踐高女各出身の佳子さんがあり、平和な一家と謳はれてゐる。

石川、七尾市今町

警防團長 南 吉郎

南家は、當地有数の酒造家として知られ、當主吉郎氏は明治二十年九月呱呱を擧げた。

勤勉にして熱心なる氏は、克く家運を隆盛に導き、堅實の經營方針の下に、従業員と渾然一體になり、事業の伸展を圖ると共に、品質に於いても研究を積み、毎年多量の清酒を醸造し、縣下に其の品質の優秀を誇つてゐる。

更に氏は、家業に精勵する傍ら、公共事業にも盡力し、警防團長、商工會々頭、縣酒造組合聯合會長等の要職を兼任する

ほか、加能合同銀行を始め各會社重役として、事公共となれば寢食を忘れ、献身的努力をなし、温厚篤實、清廉の人格は共に衆庶の感謝と尊敬を一身に集め、其の卓越せる手腕識見は、今後大いに期待せられてゐる。

家庭には、れい夫人との間琴瑟和し、子實に恵まれ、長男鐵夫氏は、縣立七尾中學校出身の俊英である。

石川、七尾市古府

市會議員 中村 吉平

中村家は當地方切つての舊家で、四代前の祖は舊藩時代の名主として、八百三十七石の取締役を勤め、累代村政に盡した家柄である。

代茂八氏は、舊矢田郷村の初代村會議員として永らく公共に盡力し、圓滿な人格と共に、地方自治の長老と謳はれてゐた。

當吉平氏は、嚴父茂八氏の長男にして

明治二十一年二月に生れ、先代に劣らぬ



公共に盡す志厚く、巽に矢田郷村村會議員(五期)、農

會長等の重任を果して、昭和十四年市制施行となるや、市會議員に當選して今日に至つた。

燃ゆるが如き郷土愛の精神は、不撓不屈の固き信念と相俟つて、氏の前には如何なる難問題も氷解し、快力亂麻を斷つ敏腕は、齊しく市民の認むるところで、高潔清廉の人格と共に、衆庶の支持と信頼を一身に聚めてゐる。

更に氏は多忙を極むる市政の傍ら、氏子總代、水利組合議員、學務委員等を兼ね、馬耕練の際、一等賞を贏ち得て、石川縣農會長より表彰を受けた經歷の人であり、市政の上に今後の活躍が期待されてゐる。

石川、石川、犀川村

保嬰院長 作本 初三郎

當家は代々村公共のために、寄與貢獻せる家柄として聞えてゐる。

即ち先々代は郡會、村會等自治に參與盡瘁せる有力者として、今なほその遺業を欽慕されてをり、先代も亦幾多の公名譽職を歴任した功勞者である。

氏は先代孫三郎氏の男として生れ、夙にその才腕を顯はれ、巽には青年學校の指導員として當村青年の教導訓練にあたり、また郡聯合分會長として多年に亘り盡瘁した。現に、助役、人事調停委員、方面委員として公共に奉ずること篤く、殊に特筆すべきは療養所の設立にして、正に斯界の一大福音であり、その眞勢なる經營振りは普く縣下に知られてゐる。

資性温厚にして、度量宏潤、その識見また衆庶に秀れ、今や名助役としてよく村政を變理し、村民の期待は愈々大であ

る。
家庭には母堂ゆき刀自今なほ健在にして、貞淑なる、とよ子夫人との間に長男孫一君をはじめ、五人の子女に恵まれ、和氣溢るるばかりの團樂をなしてゐる。

石川、江沼、鹽屋村

村會議員 玉谷 久太郎

玉谷家は本村有数の舊家にして、先代熊太郎氏の代に分家して、一家を創立した。

常主久太郎氏は、熊太郎氏の長男として明治二十四年九月に呱呱を擧げた。

早くより公共に盡す志厚く、區長を永く勤め、また消防組小頭として六年、更に消防組頭として六年を歴任して、本村消防に幾多の貢献を爲し、昭和十四年警防團に改組されるや、鹽津分團長の要職に就任し、村會議員の重責も兼ねて本村自治警防に寧日なき活動を續けてゐる。其の勢れたる手腕と、高潔圓滿なる人

格は、村政指導の中堅として、名實共に恥ぢなきものがあり、村民の支持は絶大である。

石川、石川、湯涌谷村

湯涌温泉 あたらしや旅館

當温泉は金澤市より二里二十町、淺野川上流高尾山の麓にあつて、加賀白山系に屬し、醫王、戸室の翠巒に圍まれ、四季折々の自然に恵まれ、理想的な温泉場である。

其の發見は養老年間にして、泉質は無色透明、ラヂウム・エマナチンを含むし、此れを數年間汲取り置いても腐敗の虞れなく、また効力にも變化なき靈湯であることは古來より世に知られてゐる。あたらしや旅館は、當温泉發祥の頃より經營された古き傳統を誇り、其の建築の純日本式典雅と共に、従業員一同の家族的懇切なる奉仕は、夙に定評あるところ、清潔なる浴場、客室が設備され、



全 景
な 玉 水 瀧 の 瀧 が あ つ て 其 の 清 流 は 當 館 の 湯 桶 を 溜 め 山 岳 美 を

其の地大廣間、水洗式便所、娯樂室、室内電話、ラヂオ等が完備されてゐる。また館の後に藥師山あり、前には清冽

味ふと共に、浩然の氣を養ふことができ。山紫水明寔に美しき環境にある當館は今や廉價にして親切な奉仕のもとに、湯治に、清遊に、來浴せんとする人々を待つてゐる。

經 營 主 宇野半次郎

氏は明治二十九年三月呱呱を擧げた。夙に當温泉地帯の

發展に盡力し、湯涌温泉が今日の繁榮を見るに至つたのは、氏の献身的努力奔走によるものである。

氏はまた公共事業にも參與して多大の貢献をなし、現に村會議員の重責にありて、日夜活動を續け、當温泉地の有力者として衆望頗る高きものがある。

石川、石川、湯涌谷村

村會議員 後 米 間

當家は本村屈指の舊家にして、累代篤農の譽れ高き家柄である。

氏は夙くより土木請負業を經營し、本村縣道の難工事には、勝れたる手腕を發揮し、卓越せる技術と堅實な經營に依り益々業績を擧げ、現に白雲樓の土木建設を一手に引受けた業界の有力者である。また氏は多忙を極める事業の傍ら、寸

刻も公共に盡すことを怠らず、燃ゆるが如き熱意のもとに本村の進展に盡瘁し、村會議員、土地價格調査委員等を歴任して、現在、村會議員(三期)、負債整理委員、産業組合監事等の重責を擔つて、自治産業の中樞的人物として、寧日なき活動を續けてゐる。

資性温厚にして篤實、人に接しては懇切なる態度を持し、内には烈々たる進取剛毅の精神を藏し、寔に圓滿達識の士として、村民の支持と信頼は絶大なるものがあり、今後氏の活動は、一般の期待してゐるところである。

家庭には、内助の聞え高きツル夫人との間に六人の子女があり、和氣溢るる幸福の一家として羨まれてゐる。

石川、石川、湯涌谷村

助 務 委 員 水 上 庄 太 郎

當水上家は三百年の永き家系を傳ふる舊家にして、代々農業に従事し、また區

長として村の伸展に多大の貢献を爲し、村民から極めて信望厚きものがあつた。當主庄太郎氏も先代に劣らず、公共の志厚く、燃ゆるが如き奉公の誠を以て、村會議員を五期に亘つて勤続し、村内の平和を圖り、村治諸般に勝れたる手腕を發揮してゐる。

曩に産業組合理事、氏子總代等を勤め、卓拔せる識見手腕は圓滿熱達せる人格と共に、當村々政の巨星として衆望を一身に浴び、今後の活躍に多大の期待をもたれてゐる。

家庭には内助の聞え高き、りゆ夫人との間に愛息正雄氏があり、目下正雄氏は家業に精勵してゐる、眞面目なる青年である。

石川、石川、湯涌谷村

村 會 議 員 山 根 孫 次 郎

當家は代々本村に居住し、その舊き家柄を傳承されてゐる、村内屈指の素封家

である。

氏は明治十七年八月の誕生。嘗て日露戦役の砲、勇躍出征して、赫々の武勳を擲つて凱旋した、輝かしい経歴の勇士である。

若き頃より、公共に奉ずるの念篤く、曩に消防組頭、在郷軍人分會長として、永きに亘り精勵した。

現在は村會議員として村政に參與し、非常時局下の村政刷新に専心努力をし、傍ら養蠶實行組合長として農村副業を奨励して、村民の福利増進を圖つてゐる。なほ陪審員として二期に亘り奉公し、現にその任にある。

資性温厚明朗にして、大度に富み、村民の信望が頗る厚い。

家庭は夫人との間に、長男富雄氏があり、静穩和樂の家風をなしてゐる。

石川、石川、山島村

兼封家 西田 助門

西田家は本村有数の由緒正しき名門を誇る家柄で、畏くも大正七年十月、東久通宮殿下の當地に御立寄りの節、御壹食を召されし光榮を有し、更に昭和十三年久邇宮若宮殿下が陸軍の演習御見學の砌り再び御宿泊の光榮に浴した。

先代助雄氏は、慶應二年に生れ、村長



先代助雄氏
郡會議員(三期)
村會議員(一期)

めて、永らく村治に貢献し、村民の信望厚き人であつた。

當主助門氏は、その長男として明治二十三年四月に呱呱を擧げ、先代に劣らぬ徳望家で、早くより公共に盡す志厚く、在郷軍人分會長、用水議員等を歴任し、現在は村會議員の要職にある。

資性温厚にして高潔、清廉の人と爲りは、勝れたる識見手腕と共に、村民の信

望を一身に聚め、日夜寢食を忘れて村務仲展に、眞摯の活動を續けてゐる。家庭には、今なほ健在の嚴父助雄氏、並にこゝろ母堂をはじめ、婦徳の閑え高き志津夫人との間に、長男助嗣氏、長女敏子さん、次女昌子さんがあり、常に春風の如き和氣溢るる一家として、美望の的となつてゐる。

石川、鹿島、金ヶ崎村

金ヶ崎 信用販賣組合

聖戰將に四春秋、時局愈々重大を加へてゐる秋、農村産業の堅實なる發展こそ刻下の急務である。而して産業の伸張は一に組合の活潑なる機能運営に俟たねばならぬ。

當組合は大正十二年三月、村内有志の奔走により、當村産業の樞軸機關として設立をみた。爾來組合員一同の自覺により、よく組合精神を發揮して、願調なる過程を辿り、今やその金融に於て、また

販賣に於て目覺ましきものあり、縣下優良組合と稱せられてゐる。

當組合發展の上に功勞ありし歴代組合長は、橋本安八、黒詰松孝、岡村小左衛門の諸氏であり、岡村氏は目下組合長として、時局下多端な折、よく組合役員を督勵して一意産業報國に盡瘁してゐる。

組合長

岡村小左衛門

氏は明治十三年七月の誕生である。夙に村政に參與し

て、その高邁なる抱負見識は、普く村民の認むるところである。即ち曩には村會議員として活躍し、推されて収入役となるや一意村政財務を執掌し、更に累進して村長の榮職につくや、よくその重任を果して名村長の譽高く、村民の信望絶大なるものであつた。今や後進にその椅子を譲り、第一線を退いたとは云へ、高齡なほ矍鑠として倦むことなく、現に産業組合長として壯者を凌ぐ活動をなしてゐる。なほ氏は、村會議員、學務委員等も兼任して名實共に村内の重鎮である。

石川、河北、内灘村

内灘村役場

本村は郡の西端に位し、東部は河北潟、西部は日本海に挟まれたる砂丘にして、縣道南北に通じて諸所に部落が點在し、南東端は大野川貫流し、對岸に弓取村がある。

産業は主に米、藪が營まれ、村内總親和を益々固めて、産業に、文化に、自治に、村長以下全村民結束して、産業報國の大旗のもとに、發展の一途を驀進してゐる。

村内には村立圖書館、縣社小濱神社を始め、眞宗四ヶ寺があり、名勝地として粟ヶ崎遊園地がある。

また河北潟は一に蓮湖、或ひは大清湖とも云ひ、加賀・能登方面の貨物運輸の便を圖ると共に、其の明媚なる風光は、金澤市民の遊覽する所である。

現村長は勳八等(旭日章)佩用の出山長

太郎氏にして、村政の進展に献身的努力を捧げてゐる。

石川、鹿島、中島村

中島村役場

本村はその昔、能登郡熊木郷中に屬せしも、町村制施行の際單一部落を以て中島村を建て今日に至つてゐる。

西灣の西北岸に位置し、西南川の流域は土地平坦にして稍々耕地開けど、地勢概して山林地に屬し、東北は西岸村、西に熊木村と境を接してゐる。

村民は淳朴にして農業を主とし、殊に今次事變以來、舉村一致、自治に産業に職域奉公の實踐をなしてゐる。

なほ村内には淨覺寺、定林寺、蓮淨寺の寺院ありて、信仰普及し、村立圖書館の設立と共に教育の向上にも目醒しいものがある。交通は穴水へ四里、和倉へ二里、富來へ三里半にして縣道通じ、バスの便がある。

村長
山本善四郎

當家は代々酒造業を営んでゐる。本村切つての素封家である。

氏は明治三十四年三月の出生。七尾中學校出身の英才で、少壯三十歳にして村長の要職に就き、在職中偶々日支事變勃發するや、應召出征して赫々の武勇をばせ、昨年目出度く歸還した。

而して再度村長の重責に任じ、更に郡農會長、郡聯合軍人分會長、産業組合長、村農會長、商工會長等の公名譽職を兼ねて、大童の活動をなしてゐる。

資性、敏活にして、才學共に衆に拔んで、壯氣盛んにして春秋に富み、その將來は實に洋々としてゐる。

家庭は千里夫人との間に、長男林作君長女芳子、次女里枝、三女いさをの三嬢があり、和風溢れた團樂をなしてゐる。

石川、鹿島、中島村
郵便局長
橋本 哲太郎
従六位勳六等

當橋本家は地方屈指の舊家、素封家として著聞し、先代壽六氏は生前縣下切の政治家として、自由黨華やかなりし頃代議士としてその名聲を轟はれた。また縣會議員として縣政史上に不滅の足跡を印し、退いては村長として一意村政の發展に盡瘁した地方稀れにみる偉材であつた。

氏はその男として、明治七年四月に呱聲をあげた。嘗て縣水産技手として水産界に活躍し、當時の縣知事藤澤氏の命により、二府十六縣の水産状況を視察し、幾多の見聞、知識を得て以て縣水産會に寄與するところがあつた。殊に牡蠣養殖奨励に於ける氏の功績は甚大である。

明治三十八年職を辭して歸郷し、中島郵便局長の榮職に就き、爾來通信事業に一身を捧げ、事務取扱の整備を期し、大正十一年能登三等郵便局長として従六位勳六等に叙せられた。

資性濃厚篤實にして村民の信望頗る厚く、名實共に當村の長老的存在である。

石川、石川、犀川村
犀川村 役場

本村は郡の東部、金澤市の東南部に位し、東は富山縣西礪波郡太美山村及び本郡湯涌谷村に接し、西は内川村に、南は吉野谷、河内の二村に、北は河北郡淺川村及び金澤市の一部に、それと隣接してゐる。

村内は常に和氣満ち溢れ、村政指導者の熱意ある活動に依り、産業、教育、行政、財政等全般に亘つて村民の福祉に多大の貢献をなし、整然たる組織下に、今や戦時下農村に加重される諸問題に對し積極的な諸施設がなされ、更に堅實の發展を圖るべく、村民は打つて一丸となり高遠なる諸計畫に向つて舉村一致の實を擧げてゐる。

村内に、村立圖書館、犀川郵便局があり、犀川施業土工森林組合を有して、産業の發展を期してゐる。

村長
勳七等
荒井 榮吉

氏は明治十七年十月の生れである。弱冠にして小學校に教鞭を執り、初等教育

に貢献した。日露戦役には勇躍出征、赫赫たる武功を樹てて勳八等を賜つた勇士で、後明治四十年新潟縣にて巡查を拜命し、専心を治安の維持に捧げて、衆民の感謝を受けた。

明治四十三年當村役場に入り収入役、助役を経て、昭和三年村長の榮職に就き爾來今日まで十餘春秋を、只管村政に盡瘁し、村民の信望愈々篤きを加へた。

曩に自治功勞者として勳七等に昇叙の光榮に浴し、また滿洲事變に於ても、賞勳局より表彰された。

溫厚にして寛宏大度の資性は、よく村長の職に適し、銃後の完璧に専心し、熟慮斷行をもつて益々自治の實績を擧げ、名實共に當村の重鎮として、衆庶崇敬の的となつてゐる。

なほ長男耕治氏は、今事變に應召し、

各地に奮闘を續けてゐたが、昭和十二年十月、上海戦線に於て名譽の戦死を遂げ、勳七等功六級に叙せられた、輝く武門の家である。

収入役
作田 松造

當家は本村屈指の舊家で、氏は明治三十二年一月生れである。夙に公共心に富み、村治に關與すること二十餘年に亘り、昭和十二年収入役に任ずるや、これが完職を期して活躍し村民の信賴を受けてゐる。

石川、石川、犀川村
區長 山下 一雄

當家は本村の草分けとして傳へられる舊家にして、代々自治公共の爲めに盡瘁せる家柄である。

殊に先代孫次郎氏は區長、村會議員、産業組合長等を歴任して、村政産業の上にも多大の功績を擧げ、現に産業組合監事として、豊饒壯者を凌ぐ活動を續け、名

實共に本村の長老的存在である。



氏郎次孫父尊

氏はその男として明治三十一年十月に

呱呱を擧げた。

嘗て模範青年としてその名を轟はれ、推されて青年團長となり、なほ幾多の公名譽職を兼ねて、青年の指導者と仰がれた。現に區長、耕地整理組合長、統計調査委員、司法調停委員等の要職を兼任して、一意村治



産業の發展に盡瘁してゐる。資性濃厚篤實にして、端正、謹直の人は、村民の普く信望するところにして、其の前途を期待されてゐる。

家庭は尊父、母堂共に健在にして、たか夫人との間に、二男二女を恵まれ、和氣霽々たる團欒は、近隣の羨望を集めてゐる。

石川、石川、林村

林信用販賣組合

電話一六二番

戦時體制下に於ける當組合は、幾多の事業的困難に遭遇したが、克く當村の伸展に寄與し、農村經濟の圓滑を期すと共に、組合精神の徹底に邁進して今日に至つた。

創立は大正四年にして、現在殆ど全村の加入者を見て、益々固き結束を爲し、共存共榮の實を擧げてゐる。

殊に盡忠報國、人格陶冶、齊家治産、共存共榮、八紘一字の五ヶ條を組合員の精神綱領として、堅實なるその經營方針は、縣下の優良組合を誇る所以である。現在役員は、組合長に田村市造、専務

理事に大田字信、理事に小柳又五郎、西田伊作、中西長松、西田信二、作田作次郎、阪田常二、監事に西納榮作、村上正次、小倉勝治、塚達次、織田又次、村田重作の諸氏が、その任に當つてそれら活躍してゐる。

組合長

田村市造

當家は累代村治に貢献せし家柄にて、先代武範氏は村長、

村會議員、郡會議員等を勤めて、敏腕を謳はれた自治功勞者であつた。

當主市造氏はその男として、明治二十二年七月に呱呱を擧げ、長じて東京都文館中學校に學び、優秀の成績を以て卒業後、本村の自然産業に盡瘁し、現在、組合長の他に村會議員を兼ねて、縦横に俊敏の手腕を示してゐる。

家庭には、婦徳の聞え高き夫人との間に、長男茂君があり、目下、松任農學校に在學中である。氏の圓滿なる人格を反映して、常に幸福な一家として羨望の的となつてゐる。

石川、石川、鶴來町

鶴來町役場

往昔、劍と云つたが、寛永年間鶴來と呼び、延寶中劍渡と改め更に鶴來となした、これ當町名稱の由來である。

手取川を廻りて平野の盡きんとする白



役場全景

山谷の關門にあたり、能美郡山と相対し、流域土地平坦にして、田地よく拓け、各種の農産物が

豊富である。

金澤市及び寺井町、小松町に電車が通じ、更に手取川に沿うて金名鐵道通じ、加賀の雲峯白山の山麓、白山下驛に至つてゐる。

山地と平野との境に立つ當町は、地方物産の集散地として繁榮し、毎月一、六の市日には露店が開かれ、金澤の日用品、美川方面の魚類、附近平野の米穀、野菜、山地からは木炭、苗木等が夥しく集められ、之れ等取引の爲めに人馬の雑沓を極める。

衛生、教育、會社、官衙等、その近代的設備を誇り、當地方唯一の商業地として、縣下にその名を謳はれてゐる。

町長

敷八等

松尾佐久郎

當家は代々篤農家の聞え高き舊家にし、氏は明治四年四月生れ、久兵衛氏の

長男である。夙に家業たる農耕に精勵し模範的農村青年として、その勤直なる態度は村民の推すところとなり、遂に町會

議員に任じたのである。また助役として



ひとたび町政に當るや、直ちにその政治的才腕は發揮

され、町勢は日を逐うて發展した。

現在三期目の町長の榮職にあり、多端な事務の處理に繁忙を極める傍ら、農會長として農産報國に盡瘁し、また鶴來運輸倉庫株式會社々長の重任にもある。

曩に文部省教育會より表彰された。俳句、園芸、生花を趣味として餘暇を樂しんでゐる。

家庭には、りつ夫人との間に、長男久雄氏、長女初枝さんを恵まれ、多幸な營みをなしてゐる。

石川、石川、湯涌谷村

湯涌温泉 かなや旅館 安藤乃婦

當温泉は養老年間に發見され、爾來諸病に特效ある靈泉として湯治客絶えず。昭和六年鑿井を施したところ、以前に數倍する溫度、泉量を得、理想的な温泉場として、縣下に普く知られるに至つた。



かなや旅館全景

が通じて交通の便良く、四季折々の自然に恵まれ、盛夏と雖も八十度を越すことなく、四圍閑靜にして、清遊に、保養に最も適してゐる。

當かなや旅館は、此の山紫水明の温泉の勝地を占めて、昭和七年に創業した。最も近代的なる新建築に依り、木の香も新しき客室二十數室を備へ、徹底した家族的親切を以て経営方針となし、従業員一致して湯治客に奉仕してゐる。殊に浴室は清潔にして、閑雅の氣分横溢し、消化器病、皮膚病、糖尿病、神経痛、貧血症、火傷等に特効あり、新装を誇る諸設備と親切なる奉仕は、來浴せんとする人々を待つてゐる。

石川、石川、犀川村

區長 中村 利吉

中村家は天池郷の舊家として、村屈指の家柄である。先代壽三郎氏は、區長、柳澤用水議員等を勤績して、村治に功勞のあつた徳望家である。

當主利吉氏はその次男として、明治四十年十月に呱呱を擧げた。夙に公共に盡す志厚く、村内の融和と



産業進展の爲めに衆庶に率先し、特に養蠶業の發達改良に力を致して、理想的模範村となすべく、村内の中堅として眞摯なる活動を續けてゐる。

昭和十三年一月に區長に就任し、其の他、養蠶實行組合事務理事、在郷軍人分會監事、柳澤用水理事を兼任してをり、特に本村消防に盡力するところ多く、表彰の榮を受けてゐる。

資性高潔清廉にして、懇切なるその人と爲り、村民の信望極めて厚く、其の前途を囑望されてをり、今後の熱意ある氏の活動こそ、期して待つべきである。家庭には、嚴父壽三郎氏夫妻健在し、初子夫人、長男幸雄君、長女ふよ子、次女みち子、三女みゆきの三嬢があり、幸福な一家として羨望の的となつてゐる。

石川、河北、淺川村

村會議員 山本 常次郎

當家は由緒正しき家柄で、代々名主として村治に努めて來た。先代は最も村民の信望厚く、其の高邁なる人格を繼はれた。



當主常次郎氏は明治二十一年八月に呱呱を擧げ、先代に劣らず公共心に富み事に當りては誠實を以て終始する熱意至誠の人である。曩に消防組小頭を二十數年の永きに亘つて勤績し、現に農會議員(十年)、村會議員(三年)を勤めて、益々村内の改善、融和を圖り、寧日なき活動を續けてゐる。氏はまた敬神崇祖の念深く、今より六年前、村社の腐朽せるを慨嘆し、率先こ

れが再建を提唱した。如何に天候悪しくとも、興亞奉公日に至れば、早朝參詣して村の平和を祈願するなど、寔に村民の師表とするに恥ぢない人格者である。資性の明朗闊達、濃厚篤實なるは既に知られるところであり、今後本村の伸張には、氏の敏腕こそ期待すべきである。昭和四年、消防組功勞者として、縣知事より表彰の榮を受けてゐる。家庭には、おこう夫人及び五人の愛兒があり、圓滿なる一家と謳はれてゐる。

石川、河北、宇ノ氣村

宇ノ氣村役場

本村はもと、中世の頃加賀郷に屬し、のち更に河北郡英太郷に屬し、明治二十二年町村制實施の際には金澤、西英兩村をして自治制を布いたが、同四十年に至り郡區劃改正の時兩村合併して、宇ノ氣村と稱し、今日に及んでゐる。郡の西北部に位し、西南部は土地平坦

にして田地拓け、水路の便良く、南端は河北潟に面し、北東部は緩傾斜面をなして、高松町、英田村に接してゐる。村民の質實剛健なる氣風は、産業、自治の上にも顯れ、物心兩方面に亘つて堅實なる施政方針と共に、着々業績を擧げてゐる。

石川、河北、淺川村

村會議員 田賀 孫太郎

當家は村内に閑えた由緒ある家柄で、孫太郎氏は先代伊助氏の長男として、明治七年八月に呱呱を擧げた。夙くより農事、養蠶、及び副業たる製紙等の家業に勵む傍ら、村の爲めにも大いに力を注ぎ、消防組頭として實に三十年の永きに亘つて、村の警防治安の重き

任務を果し、縣當局より消防功勞表彰を授けられた。



現在、村會議員(二期)に就任し、また耕地整理副組合長を兼ねて、専心村治、産業兩方面の向上發展のために、獻身的努力を傾けつつある。今や饒後の國力充實の爲めには、農村の振興が一段と緊切なる秋、氏の如き誠私奉公の念に篤い、努力力行の人物が、村のために盡してゐることは、誠に頼もしい限りである。濃厚篤實にして、頗る情誼に厚く、村民齊しく敬慕して歎まぬ人格者である。

石川、羽咋、南大海村

村會議員 竹本 重城

當家は米穀並に荒物雜貨商を營み、氏

は先考宗次郎氏の息として、明治二十年四月に呱呱を擧げた。

夙に家業に精勵し、家運の隆盛を圖つてゐたが、圓滿なる人格は氏をして遂に村會議員の要職に就かしめた。爾來家業の傍ら、大いに村政に竭し、更に當村農會に設立當初より役員として活躍し、以て農蠶の發達に多大なる寄與を致して、衆人の感謝を受けてゐる。

家庭には母堂と刀自健在し、まつゑ夫人との間に長男重夫君ほか三女を惠まれ、長女、次女は良縁を得て嫁し、三女幸枝さんは、目下羽咋高等女學校に在學中である。

なほ氏の令兄宗信氏は、現在軍用船特務中尉として國防の重責にあり、同一章氏は大阪にて土木請負業を經營し、竹本一家の繁榮は近隣の羨望を集めてゐる。

石川、羽咋、千里濱村

千里濱村役場

東井平治

東井家は村内屈指の舊家にして、氏は明治十四年二月二十四日、先考平太郎氏

の四男として呱呱を擧げた。令兄故金右衛門氏は村長を勤め、大いに村治に盡した人であつた。氏は郷校を卒業し、海軍に入つて軍務に精勵してゐたが、日露戰役起るや勇躍征途に就き、皇國の爲め華々しき奮闘を致し、輝く凱旋をした勇士である。公其心に富める氏は、夙に村民の崇敬を集め、大正十年推されて助役となるや、よく村長を輔けて村政の實を擧げ、昭和四年には村民の懇望に依り、遂に村長の榮職に就き、爾來十餘年の間村政を執掌し、只管村勢の伸展を圖つて、涙ぐまじき努力を續けて來た。

助役

氏は先考金藏氏の長男にして、明治二十五年十一月二日の

生れである。夙に村政に參畫し、村會議

本村はもと、天慶年間の頃、本村の東北に少數の人家を建てて部落を爲したるに始まり、其の後人口増加して一村をなし、散濱また塵濱と稱し、村民は漁撈に依り生活を營み、漸時發達したもので、村制實施に當り、千里濱と稱するに至つた。

地勢は羽咋町に南接する漁村にして、南は粟ノ保村に隣し、西は日本海に面してゐる。

村内に能登織物工場、養蠶實行組合、漁業組合等があり、産業は順調なる發展を示し、工産、水産、農産等もなかく盛である。

東井平治

東井家は村内屈指の舊家にして、氏は明治十四年二月二十四日、先考平太郎氏

助役

氏は先考金藏氏の長男にして、明治二十五年十一月二日の

生れである。夙に村政に參畫し、村會議

員を五期勤続した自治功勞者で、漁業組合長も兼任し、産業の發展に手腕を振つた。

現在、名助役として村民の信頼を集め、曩に自治功勞表彰を受けた。

家庭にはテル夫人との間に、第四高等學校在學中の長男知男君、羽咋中學校在學中の次男利男君、及び三男照夫君があつて、多幸な一家である。

なほ夫人は、村方面委員、縣方面委員聯合會囑託、出征軍人遺家族相談員等の公名譽職に任ぜられ、夫君と共に銃後の固めに繁々日々を過してゐる。

石川、能美、湊村

湊村役場

手取川の河口に當り、前岸は石川郡美川町と相對し、夏季は風浪少なく、小船の碇泊に適してゐる。

明治十一年郡町村編制法實施により、吉原釜屋、福島、吉原、朝日、橋新の五

字を合して湊村戸長役場を設けたが、同二十二年右五字を分離して單立湊村となつた。

米、滿の産出

竹文庫を有して、村民は新知識の吸収に努めてゐる。北陸本線小舞子驛に依つて交通は便をなし、名勝小舞子の濱は、風光絶佳で、多數の來遊客がある。

村長

氏は明治六年一月本村の舊家として傳承されてゐる魚住家

に生る。夙に當村書記、收入役、村會議員、助役等幾多の公名譽職を歴任して、甚大の功績を擧げ、現に村長として非常時局下の村政を執掌し、高齢なは矍鑠として、専心村治の伸展に資してゐる。

氏こそ、自治功勞の第一人者として、當村の誇るべき存在にして、先般二十年以上勤続自治功勞者として表彰された。

收入役

當家は本村の舊家として謹はれてゐる。氏は明治十九年三

月の誕生。大正八年助役となるや、引續き今日まで村財政を執掌して、その卓越せる手腕と、寧日なき恪勤振りは、夙に村民の敬稱するところである。

石川、石川、藏山村

藏山村役場

往昔、白山衆徒の文化を傳へる由緒ある村にして、石川郡井手郷に屬し、字に月橋あり、月橋とは槻橋とも作り、往時富樫の家臣に槻橋氏あり、此の地に住み藏山を以て要塞とした、村名はこれに由来してゐる。

鶴來町の北部に位し、西南手取川を隔てて能美郡山上村と相對し、土地平坦にして田地耕地拓け、東部は山地に屬し、風吹峠をもつて内川村、鶴來町と境してゐる。

日御子、明島、月橋、小柳、森島の各字よりなり、縣道は鶴來町、野々市町へ通じ、金澤電軌鐵道南北に縦貫し、また松任町及び鶴來町へバスの便があり、甚だ地の利を占めてゐる。

村民は農耕に従ひ、米の産額壓倒的にして、養蠶其の他の副業も盛んである。

村民は淳朴にして、勤儉貯蓄の美風村内に徹底し、事變以來銃後農民としての自覺昂まり、農業立國の國是を體して一致協力、村政の發展に邁進してゐる。

村長 氏は本村の名望家
前田 觀 基助氏の長男として
明治二十一年六月二十四日に誕生した。軍籍に入り騎兵曹長に任ぜられた。



業組合長 在郷軍人 分會長、
郡農會副會長、農會長の權職を歴任して

幾多の功績を挙げた。

現に村民の推戴により、村長の榮職にあり、村會議員、産業組合理事、軍友會長等を兼任して、村政諸般の上に盡瘁し、名實共に村内の重鎮として好評噴々たるものがある。

なほ家庭は千代夫人との間に、養女喜代子さんを迎へ、醇謹な家風をなしてゐる。

石川、石川、金石町

町會議員 **能木場與兵衛**

金石町に手廣く材木問屋を營む能木家は、由緒深き家柄で、材木問屋を創始したのは先代與兵衛氏である。

當主は先代の長男として明治二十三年に呱聲を擧げ、家督を相續し襲名した。

長じて嚴父の遺業を繼承するや、俊敏の商才を發揮し、凡ゆる事業的困難と障害を克服して、益々家運を泰山の安きに置き、なほ一層の發展を圖るべく、精勵

努力してゐる。

其の勝れた經營振りは素より、親切と責任をモットーとする率仕的態度は、常に業者間に名譽を博し、現在齊森枡材、及び和田杉材の北陸特約店を兼ね、當地方有数の材木商として、前途洋々たるものがある。

氏はまた家業に勵む傍ら、社會公共にも盡力し、幾多の公職を兼任して、夙夜眞摯の努力を續け、現に町會議員、學務委員、所得稅調査委員、方面委員、商工會顧問等の要職にある。

資性濃厚篤實、高潔清廉の人格は、然ゆるが如き愛郷精神と共に、衆庶の畏敬するところにして、今後縱横の活躍は全町の大きな期待となつてゐる。

石川、江沼、大聖寺町

町會議員 **白橋與三兵衛**

當大聖寺町に堅實の經營を誇る白橋家は、由緒正しき家柄で、材木商を創始し

たのは先代與三兵衛氏である。

氏は機敏の商才を振ひ、誠實と信用を營業の方針として、寸暇も倦まず、營々と努力を重ね、終に今日の基礎を築き、稀れなる努力家として、土地の人々より信望厚き人であつた。

當主與三兵衛氏はその男として、明治二十五年四月二十五日に呱聲を擧げ、父君の遺業を受繼ぐ。

一意専心家業に精勵して、家運を益々隆盛に導き、當地屈指の材木商として、名實共に恥ぢなき經營振りを示し、氏の熱心と努力は、常に業者の間に多大の名譽を博してゐる。

氏はまた公共に盡す志厚く、區長、商工會幹事、國勢調査員等を勤め、現に町會議員(二期)、都市計畫委員の要職に、縦横の活躍を續けてゐる。

當町政の中堅として氏の今後は大なる期待を持たれ、圓滿高潔の人格は堅忍不拔の努力と相俟つて、町民の支持絶大なものがある。

石川、江沼、東谷口村

東谷口村役場

本村は郡の東南部に位し、北部は勅使村、東は那谷村、南は東谷奥村、西は山代町を境とし、東西は概ね山嶽重疊し、中部は動橋川貫流し、その流域は地味肥え、農耕に適してゐる。

水田丸、二ツ屋、小坂、横北、柏野、須谷、塔尾の七字よりなり、村民は概ね農業に従事してゐる。

なほ近時、畜産、工業に飛躍を遂げ、年産額は莫大にして、村經濟を露ほし、また織物界の寵兒たる富士絹の産に於ても、他に比を見ないものがある。

従つて、村内諸機關の設備整ひ、耕地整理組合、土工森林組合等の活潑なる機能は、縣下の模範とされてゐる。

村長 常家は代々本村の
勲 六 等 素封家として聞えて
本川 進 ゐる。



氏は明治二年の誕生。夙に地方政界に活躍し、曩には縣會議員として縣政界に雄飛し、その卓越せる手腕、識見は幾多縣政の上

に貢献し 地方に誇るべき人物である 現在、

村長の要職にあつて一意村政を執掌し、更に、那町村長會々長、郡立(自治會)病院理事長、郡自治會會長、其他幾多の公名譽職を兼任して、高齢にも拘らず、よくその職責を果し、地方自治の父として村民の仰慕絶大なるものがある。

資性溫容大度にして情誼に軟く、常に公事に盡すを念とし、家庭また圓滿にして近隣に範をたれてゐる。

石川、江沼、勅使村

勅使村役場

本村は郡の東部に位し、動橋川に跨がり、東部は那谷村に接し、南は東谷口村に接し、北部は分校村及び動橋村と境し、西は丘陵を隔てて山代町に接してゐる。

附近には名所、温泉地を控へ、殊に山代温泉の發展は、本村の經濟、交通、日常生活等と密接な關係を保ち、村民の多くは山代町陶工場に勤務し、將來是等の方面と益々緊密なる關係を結ぶべく、更に温泉の發達は本村各般に多大の影響を齎らしその利益甚大なるものがある。

勅使、河原、清水、上野、二子塚、森字谷、榮谷、松山、山本、津波倉の各字よりなり、村民淳朴にして、勤儉貯蓄の美風村内に溢れ、農業を主業とする者多く、近時工業の發展につれ、機業場に働く者逐年その數を増し、商業、鑛業之れに次いで盛である。

村長 東 精一

氏は明治三十一年五月、本村の舊家である東家に、先代小太郎氏の長男として風聲を擧げた。從來

農業に専念しつつも、常に公共事業には身を挺して當り、その手腕見識は、夙に村民の認むるところであつた。

曩に推されて収入役となり、村財政を執掌して、その恪勤振りを謳はれ、昭和十四年村長の稱職に就くや、一意専心、村政百般の運営に夙夜盡瘁し、その功績多大なるものあり、なほ傍ら警防團長、農會長の要職を兼ねて、大童の活動を續け、名實共に村内の重鎮として、村民の信望絶大なるものがある。

家庭にありては、母堂に仕へて孝心深く、夫人との間に五人の子女を恵まれ、和氣藹々、近隣に模範を垂れてゐる。

石川、鹿島、金丸村 郵便局長 春本 弘

當家は代々本村の素封家として榮えて来た家柄で、先代正平氏は、村長、郡會議員として、地方自治の上に偉大なる足跡を遺してゐる。

金丸郵便局も、實に先代の提唱努力によつて、明治四十年開局された。

氏は正平氏の男として、明治三十四年十一月十日に生れた。縣立七尾中學校出身の英才にして、大正十四年、二十四歳の弱冠にして、局長の要職に就いた。

爾來専心、通信事務を執掌して、局長一同を督勵し、事務整然、來局者には親切丁寧を以て臨み、村民の信望甚だ厚く現に村會議員、學務委員、農會代議員、産業組合理事等、幾多の公名譽職を兼任して寧日なく、名實共に村内の重鎮として、今後一層の活躍が期待されてゐる。

石川、能美、吉田村 信用販賣組合 吉田村 購買利用 組合

家庭また至極圓滿にして、とみ夫人との間に長男正一君、長女博子さん、次女しづかさんがあり、近隣に羨望されてゐる模範家庭である。

本組合は大正八年二月十日、初代組合長西田甚太郎氏等の主唱發起によつて創設されたもので、逐年順調なる發展をなし、現在に於ては全村全加入といふ隆盛を呈してゐる。

今や我國は聖戰茲に數歳を閲し、更に新東亞建設の大使命に向つて、國を擧げて邁進しなければならぬ秋、切に緊要なるは産業諸部門の發展に因る國力の充實である。而して農山漁村の振興は、一に産業組合の發達に俟たねばならぬ。

本組合はこの主旨を體して、農産物の増收助成、肥料その他生活必需品の購入並びに配給の圓滑化、貯金の奨励、及び必要資金の融通、或は精米、製粉等の作業設備の施設等に全力を竭し、殊に組合員使用の醬油の醸造配給をなしてゐることは、本組合の特色として誇るところである。

かくて銃後農村の經濟更生に組合員一致協力して精勵し、目覺しき實績を擧げつつあつて、陛下屈指の優秀組合として

聞えてゐる。

現在の役員は、組合長に熊本元作氏、理事に本多潤一、新地亮、村田太郎、元田重作、北野八三の諸氏が當つて、盡瘁してゐる。

組合長 熊本 元作

熊本家は當村屈指の舊家にして、氏は明治二十年に出生し



を傾け、村民の信望を鍾めて、多年村會議員、區長、學務委員等の要職に就いて盡力し、現在は當組合長として、銳意村産業の開發のために奮闘し、大なる貢獻をなしてゐる。

政府當局より數次に及ぶ功勞表彰を受けた。 寔に氏は滅私奉公の念に篤く、至誠一貫の人格者である。

石川、能美、鳥越村

鳥越尋常高等小學校

巍々として聳ゆる加賀白山の靈峯を遙かに眺め、流れも清き大日川のはとり、鳥越城址のある處、史蹟豊かに、自然の環境に恵まれた別宮の一廓に、悠容として美觀を誇つてゐる鳥越校は、明治六年の創立である。

その教育方針としては、飽くまで教育勅語の聖旨を則り、皇民としての強い信念を扶殖し、健實にして純美な農村兒童を育成すべく、校長以下職員一同、協力一致してその天職に邁進してゐる。

いまや校風頓に整ひ、勤勞流汗の美風は全學童に徹底し、いよく農村教育の理想を實現しつつある。 なほ特筆すべきは、事變以來の海外發展に率先して、青少年開拓移民を奨励し、少年義勇滿洲移民團の成績は、斷然全國的に群を抜いてゐる。

校長 上出 徳之

氏は明治三十年十一月の誕生、大杉谷村の出身である。夙に縣下教育界にあつて、兒童の訓育にあたり、將



來農村民として有爲な人材を涵養すべく専念してゐる。

現に校長として恪勤の傍ら學務委員、郡教育研究会支部長、郡教育會幹事等を兼任して、一意育英の天職に身を捧げてゐる。

資性明朗豁達にして、教育精神に徹した人格は、兒童はじめ村民の信望を贏ち得てゐる。

石川、能美、吉田村

吉田村役場

本村は手取川の左岸、粟生村と湊村との間にあり、西は日本海に臨んで風光明媚な平和境である。

米、繭を産し、交通は松任町及び小松町へ国道貫通して、バスの便がある。

「村の成行知らない人は時代後れと笑はれる。村の趨勢よく知る人は自治の華ちやと持てはやす」の村の標語をよく體して、村長はじめ全村民一丸となつて、村勢の伸展に盡してゐる。

村長

中谷平三郎

氏は本村の舊家として、その由緒を語られてゐる中谷家に

明治二十四年十一月呱聲をあげた。石川縣師範學校出身の學徳高き人格者として村内に比肩なき信望を蒐め、現に縣町村長會幹事、郡町村長會副會長、石川縣地主會評議員、その他多數の公名譽職を兼任し、滅私奉公の誠を致してゐる。資性濃厚、謙讓の美德に富み、村民一同よりその將來を期待されてゐる。家庭は、貞淑溫雅なちよ夫人との間に

一子あり、目下中學校に在學中である。

収入役 北村 友吉

氏は明治十三年の誕生、夙に村政に深き關心を有し、公共事業には率先してあたり、その人格と熱意は昔く村民の畏敬するところである。推されて収入役の重任に就くや、一意本村の財政を執掌して寧日なく、當村隨一の財務通として、名實共に許すところである。

石川、能美、川北村

川北村役場

川北村は其の名の如く手取川の北岸にあり、東は鶴來町に連り、西は美川町に接してゐる。勤勉なる村民はよく家業たる農事に従ひ、米、蠶繭の産出は頗る多く、益々農村一致、村の發展に邁進してゐる。

社寺に乘願寺、淨秀寺、靜泉寺、淨福寺、本明寺、郷社土室白山神社のほか、

村社があり、衆民の敬信を集めてゐる。また村立及び私立中島圖書館のほか、會社工場等があり、産業方面も活況を呈してゐる。

村長

村上市右衛門

當家は本村切つての舊家として、また素封家として

村内外にその名を知られてゐる。氏は明治十年の誕生、天正二年村會議員として村政に參與して以來、今日に至るまで一意公共全般の向上發展に意を用ひ、同六年村長に推されるや、よくその職責を完うして着々村政の機構を改革し、面目を一新せしめた、名實共に本村自治の重鎮である。

資性明朗潤達にして大度、昨年全國町村長會より、多年の貢獻を表彰された。なほ地方改良功勞により、また教育功勞者として當局よりも表彰されてゐる。家庭はまた、英才、才媛の令息、令嬢に恵まれ、一家、その材幹を謳はれてゐる。

助役

山田 善治

氏は明治三十一年六月の生れ、曩に當村収入役として六年間を恪勤し、今日助役に榮進して、よく村長を輔佐し、また方面委員、金錢債務調停委員、農會副會長等を兼任して、大童の活動を續けてゐる。

濃厚篤實なる資性は村民の信賴を得、家庭また圓滿にして、長男義寛君（昭和十年生）を恵まれ、多幸な一家である。

石川、能美、久常村

久常村役場

本村は手取川の左岸に位し、南は寺井野町、東は山上村、西は粟生村と相隣接してゐる。

徳久、高座、秋常、米寺、河原新保、上清水、下清水、北市の八部落よりなり、村民は概ね農業に従ひ、地味肥沃にして米の産出多く、繭之れに次ぐ。

本村の特徴としては、婦人の老若を問

はず、作業用のモンペを着して、男子に協力し、全村民よく新體制下農村の使命を自覺して専心農事に精勵し、淳朴勤勉の美風村内に横溢してゐる。殊に近年産業組合の活潑なる動き、道路の改修、耕地整理の完成、自給肥料の増加指導等、從來の面目を一新し、村民協力一致して着々農業立國の實を擧げてゐる。

村長

勲 八 等

東方 義正

氏は明治三十年二月十六日の出生。海軍機關學校高等科機關術練習生の卒業にして、第一次歐洲大戰に参加し、海軍一等機關兵曹長に昇進した。

鳳に自治に功勞あり、また曩には區長、助役等を歴任してその手腕力量を示し、推されて村長の榮職につくや、滅私奉公よくその職責



を完うし、現に農會長、郡農會幹事、宮竹用水普通水利組合會議員、並に常設委員、土地賃貸價格調査員等を兼任して、寧日なき活動を續け、更に村災害耕地整理組合副組長、北市耕地整理組合長、上清水第三耕地整理組合長の要職にあつて産業の發展を圖り以て本村の福利増進に専念してゐる。

資性、豪放磊落にして、而も周密果斷非常時局下の名村長として、村民の信望厚く、今後一層の活躍が期待されてゐる。なほ家庭は、夫人、養女の靜謐な一家である。

石川、能美、山上村

山上村 役場

山上村は郡の東北隅に位し、二十字より成り、東は鳥越村及び石川郡鶴來町、西は久常村、寺井野町、南は國府村、北は手取川を界して川北村と對峙し、東南に山脈連なり、北西は平坦なる耕地で、



氏は明治二十年一月、尊父助右衛門氏の長男として、呱呱を擧げた。

現在、村民の推戴により、村長の榮職に就き、傍ら村農會長、山上第一産業組

地味は肥え、村民は勤勉純朴にして村長を中心として村勢の發展に努めてゐる。名勝として天狗壁、辰の口鑛泉（リウマチス、皮膚病、胃腸病に卓効あり）があり、遊山客、療養客で股賑を極めてゐる。交通は灯口より小松町へバスの便があり、米、藪の農産物がある。

村 長

氏は明治二十年一月、尊父助右衛門氏の長男として、呱呱を擧げた。

青年團長、山上村書記、同助役を歴任

助 役

氏は先考五兵衛氏の五男として、明治九年五月に呱呱を擧げた。

曩に村役場書記、同收入役等を歴任して、その熱心なる勤務振りを認められ、推されて助役の地位に就いた。爾來村治村政に貢献し、併せて村農會副會長を兼ね、一意村の向上發達に意を用ひてゐる。溫和の資性にして、村内の信望厚く、貞夫人との間に長男致君があり、和氣溢るる模範家庭である。

石川、鹿島、西島村

西島郵便取扱所

當郵便所は明治十二年一月二十六日の開局で、其の古き歴史は堅實の經營と共に、當地の重要通信機關として、多大の貢獻をなした。

昭和十四年十月、内外電信事務及び電話交換を開始し、從來の郵便取扱と併せ益々完全の諸設備をなして衆民の便宜を圖り、以て通信一般事務に萬全を期してゐる。

局 長

神木 稔夫

當家は由緒深き家柄にして、先代榮松氏は村會議員、村長、産業組合長、其の他幾多の公職を歴任して、本村自治産業に盡瘁し、勝れた手腕を發揮すると共に懇篤の態度行爲は常に村民の長敬するところとなつてゐた。



當主稔夫氏は、明治四十二年九月十一

日、當家は由緒深き家柄にして、先代榮松氏は村會議員、村長、産業組合長、其の他幾多の公職を歴任して、本村自治産業に盡瘁し、勝れた手腕を發揮すると共に懇篤の態度行爲は常に村民の長敬するところとなつてゐた。

日に呱呱をあげた。

昭和十二年同郵便所長となり、爾來一意専心當所の強化充實に努力を重ね、當地通信事務の確保に献身的活動を續けて村民の感謝を一身に浴びてゐる。

現在家庭には、嚴父榮松氏、スイ母堂、艶子夫人、長男恒夫君、長女桂子さんがあり、氏の圓滿高潔の人格を反映して、常に和氣霽々とした幸福な一家を謳はれてゐる。

石川、鹿島、能登部町

能登部郵便局

當局は明治三十二年九月一日の創局にして、現在能登部町、久江村、御祖村の一町二ヶ村を區域とする、三等集配郵便局である。

開局と同時に集配事務及び爲替事務を開始し、明治四十年、電信事務を開始し更に同四十年電話事務を開始した。爾來、當地の通信事務機關として、公

衆の便益を圖り、歴代局長に其の人を得て、戸部現局長に及んでゐる。

局 長

當家は地方切での名門として聞え、祖考は初代村長として



本村の村政の草創を劃し、更に縣會議員、郡會議員等を歴任し、地方政界の大立物として、自治

の功績あまりにも大きく、また當郵便局の初代局長として、輝かしい事績を擧げてゐる。

なほ先考達六氏も亦英敏にして、次代局長を受け繼ぎ、從六位勳六等に敘せられた名譽ある人格者である。氏は先考の次男として、大正二年十月の誕生、金澤第二中學校の出身にして、夙に父の志を繼いで東京中央郵便局に勤務し、精勵恪勤その模範を讃へられた。

昭和九年歸郷し、尊父の後を繼いで郵便局長の椅子に就いた。青年局長として前途なほ遼遠、加ふるに資性、濃厚敏活にして事務的手腕に富み、名局長としての名を擅にし、來局者は勿論、郷民一同の好評噴々たるものがある。

石川、鹿島、熊木村

産業組合長 木山 與一

一代にして巨富を積める人として、また公共心の頗る篤き人として、近郷にその名治き氏は、明治六年の出生である。夙に鑛山方面に着眼し、若くして臺灣に渡り、異郷にあつて永年金鑛に就き眞摯なる研鑽を續け、遂にその努力は酬いられて、朝鮮、北海道の各地に金山鑛區を有するに至つた。

爾來、粉骨碎身の熱意を以て斯業に竭

し、本邦に埋藏せる天然資源の開発に心を注いで、大いに鑛業報國の誠を致してゐる。

その圓滿なる人格は、衆庶の信望を蒐め大正四年には推されて名譽村長となりまた田鶴濱銀行の頭取となつて、金融方面にも大いに活躍した。

近時産業組合の設立に際しては、涙ぐましく貢献を致し、現在組合長の重職にあつて統後産業の發達、及び組合員の福利増進の爲めに盡瘁してゐる。

石川、鹿島、能登部町

能登部町役場

當町に式内社能登姫神社があり、その名を附して能登部町と稱してゐる。

慶安二年四月より六月まで、吉見伊豫入道が能登部城に於て合戦した歴史を有し、徳丸には城址があり、天正十二年の頃、長連龍の居城となつたと言ひ傳へられてゐる。

郡の南西に位し、東半部は土地平坦にして田地拓け、西は山林地帯にて、羽咋郡下甘田、相馬の二村と接してゐる。

順良にして勤直なる町民は、町長以下吏員の意を體してよく協力し、専心を家業に捧げて精勵し、米、繭の増産に努めてゐる。

能登部郵便局、及び町立圖書館があつて、町民の文化向上に資し、能登部銀行金澤商業銀行に依つて貯蓄は増加し、金融方面も自から圓滑なる運びを見せてゐる。

七尾線能登部驛があり、縣道にはバスが通じて交通の便は良好である。

村長

從七位 高木與四郎

氏は夙に村政に深い關心を有し、不斷に意を用ひてきたが村民の信望を擔つて村長に就任するや、その卓越した識見と手腕をもつて、鋭意村治及び村産業方面の重要施設に力を盡し、著しい功績を擧げてゐる。

石川、鹿島、金ヶ崎村

警防團長 西崎 秀雄

當家は代々酒造業を營む村内有數の舊家にして、尊父宇助氏は村會議員、助役等幾多の公名譽職を歴任した、村治村政の重鎮である。氏はその長男として、明治三十三年九月二十三日呱呱を擧げた。夙に穎悟聰明の聞え高く、七尾中學校を卒へるや、よく父君を扶けて家業に精勵し、また村治に深き關心を致し、常に隠れたる指導力となつて、村勢の伸張に盡して來た。

なほ特筆すべきは、氏の警防治安に對する熱心なる態度であつて、曩には消防組組頭として本村の防火に滅私奉公の努力を致し、今また推されて初代警防團長の要職に就いてゐる。

國家非常時の際、防空、防火、防諜の緊急須要事は言を俟つまでもなく、従つて警防思想の普及、並に施設の完備こそ

剩下の急務である。

かゝる折、氏の如き眞摯にして、公共に奉ずるの念厚き高潔の士を、警防團長として頂く本村の防災は、將に鐵壁の感がある。

而してまた氏は、現に村會議員として、その高き見識と、卓越せる手腕とを以て、常に中樞的指導力となり、村民の信望絶大なるものがある。

家庭は尊父宇助氏、母堂とよさん共に健在にして、夫人アサノさんとの間に長男昇君、次男哲雄君、長女直枝さんを恵まれ、和氣溢るる團樂をなしてゐる。

石川、江沼、大聖寺町

町會議員 吉竹 卯三郎

京都市左京區に手廣く石材商を經營する吉竹家に、五男として呱呱を擧げた卯三郎氏は、明治三十一年十一月三十日の誕生である。

昭和三年、當大聖寺町に別家して石材

商を開業し、爾來、一意専心斯業の發展に努力を重ね、寸暇も倦まざる熱心なる經營は、終に今日の大成を築くに至つた。

その濃厚なる人格と、眞摯の奉仕は、當商店を益々繁榮に導き、町内外に於いて大いなる信用を博してゐる。

氏はまた幾多の公共事業に關係して、警防團本部長、町會議員、氏子總代等を兼任して活動を續け、殊に消防組部長の常時より警防團に改組の今日まで、氏の献身的盡力により、當町警防の萬全を期してゐるが、今後なほ氏の勝れた指導は全町民の期待するところとなつてゐる。

現在家庭には、婦徳高き千代夫人との間に、長男博、次男晋、三男庄三の三君及び長女宇紗美さんがあり、常に和氣溢れた圓滿な一家をなしてゐる。目下博君は東京高等師範學校に學び、秀才として謳はれ、晋君も亦大聖寺中學に勉學中。

石川、江沼、西谷村

西谷村役場

本村は往昔山中谷の奥地に西谷、片谷、九谷等の字があり、九谷は舊くより世に賞美愛玩せられて来た九谷焼の本場として、あまりにも有名である。慶應年中大聖寺藩に属した時、物産役所を設けて是れの奨励をし、爾來逐次發展の一途を辿つて来たが、近時は更に進んで他地方の特産品を模して、種々の精美品を産出し益々噴々の好評を博してゐる。

明治二十二年もと管谷村はか十二區をもつて西谷村と稱した。郡の最南端に在つて福井縣坂井郡と接し、全村は殆ど山地にして、大聖寺川の流域にのみ平坦地があり、諸部落が點在してゐる。

村民は農耕に従ふもの多く、「自治は興仁の誠義に基く」との村の標語を掲げて、各自よくこれが實踐躬行に努めてゐる。當村の柏野の大杉は天然記念物の指定を受けてゐる。

村長 氏は明治十七年の出生にて、夙に區長或ひは村會議員等に

就任して村政に盡瘁し、昭和六年には衆望を擔つて遂に村長の重任に當り、幾多の功績を擧げて退職したが、昭和十四年再び推されて村長となり、更に産業組合理事をも兼ねて、統後農村の發展のために、献身的努力を傾けてゐる。

今や國家新體制に入つて、農村の更生作興は一段と緊要なるとき、氏の如き高邁なる識見と、卓絶した行政的手腕を有する士が、村長として働いてゐることは洵に心強い極みである。

石川、石川、河内村 河内村 役場

本村は北陸に有名なる國幣中社白山比咩神社の所在するところ、その靈驗の顯示あらたかなるを以て、常に參拜者が絶へない。

上古は味智郷に屬し、道君一族の本據たり、道君は白山比咩神社を崇祀して、加賀國造、加賀郡司となつた大豪族にして

て當時本村は非常な殷盛を極めた。現に多くの古記傳説等の由緒を傳へてゐる。位置は郡の南部手取川に沿ひ、北は鶴來町に接し、東南は高峻なる山岳によつて占められ、西北部に手取川を挟んで、能美郡山上村鳥越村と相對してゐる。

産業は米、麥、大豆、小豆、甘藷、馬鈴薯等の農産物の外、煙草は古くより鶴來葉の名稱を以て頗る盛である。養蠶又見るべきものあり。杉桐の用材、薪炭材等も多く、木炭の如きは年七萬俵に上る。特殊なものに和紙の製造がある。

非常時局下農村産業の伸長と、愛農國本の信念樹立は最も緊要にして、村長以下各役職員、學校當局その他各種産業團體等の協和と相俟つて、顯著なる成果を擧げてゐる。殊に滿洲分村計畫等は本縣屈指の優秀な成績を示してゐる。

村長 當家は本村屈指の舊家にして連綿たる家歴を誦はれてゐる。氏は明治二十年一月呱呱の聲を擧げた。



夙に村政に參與してその手腕功績を認められた。即ち曩には村會議員として二期を勤め又、大

夙に自活に關與して功績多く殊に學務委員、村會議員、農會副會長等幾多の公名譽職を重任して、その手腕を顯し、現に助役として村政事務を執掌する傍ら、村會議員、農會長として寧日なき活動を續け、殊に分村計畫に就ては先驅實踐の態度を以て熱意を傾けてゐる。

資性濃厚にしてその圓熟せる人格手腕は、村内の重鎮として名實共に許されてゐる。

静岡、熱海市和田濱 瑞雲莊 大野屋旅館

電話三二一一—三二二五番

普ねく天下に喧傳される觀光溫泉都市熱海の代表的旅館として、熱海市和田濱に、昭和十二年初頭優美莊麗の大建築によつて創業した。爾來施設の完整と奉仕の懇切を以て、千客萬來の殷盛をなしてゐる。

客室百二十室、三百疊敷大廣間、五拾



疊敷廣間三室、娛樂機關として撞球室、ビン、ボ、室、音楽室、ホ、ル、ス、ポ、ラン、ド、等に互

り觀光浴客の意を充して完全とも云ふべき設備がなされてゐる。ローマ風呂のほか家族風呂八ヶ所あり、喫茶、賣店等も設けられてゐる。

芳澤元外務大臣、石渡元大藏大臣等顯官及び知名人士等の多數投宿あり、殊に當館の穿井湧出量は實に一日六千石にのぼり、正に熱海溫泉隨一の溫泉と稱され

現に村長として、既に二期目を迎へ、時局下緊急なる村政の更新、産業の伸長に専心努力を致してゐる。資性勤勉にして而も洒脫の一面あり、村民の信望を一身に鍾めてゐる。

助役 代々公共に盡瘁せる家柄にして村

岡田與三次郎 内屈指の名望家である。氏は明治十五年十一月生誕した。

てゐる。その効能は萬病に効能があると稱され、従業員は男女百九十名に上つて親切第一主義を以て接客してゐる。

經營者

氏は新潟縣長岡市の出身にして、嚴父富治氏は夙に旅館經營に當り、岡崎市その他各支店を統轄し

斯業鍊達の人である。市郎氏はその長男として、明治四十三年十一月に生れ長岡中學校を卒つて、神戸高等商業學校に入り、同校卒業後は箱根富士屋ホテルに於て三年間旅館經營の實際を研究修得した業界に於ける少壯經營家として、その手腕は既に定評あるところ、資性、濃厚篤實にして、殊に寛仁大度の人である。その經營理念たるや、温泉報國の志念を以て觀光泉都として、潤きたる雰圍氣の慰安と、之れにより明日への心氣更正に勵むることを經營の方針としてゐる。

氏の趣味は讀書。

家庭は欣子夫人(大正五年生)との間に長男英市君、長女和子さんを儲け、和

氣に富める一家である。

石川、石川、河内村

白山尋常高等小學校

本校は創立以來、教育勸諭の御聖旨を



校舎全景

教育刷新強調事項、即ち
一、國體の精華を明かにし忠君愛國の志氣を振作すべし
二、敬神崇祖の念を

培ひ孝道の顯現に努むべし
三、自他一如の念を養ひ感恩報謝の生活を勵致すべし
四、堅忍持久勤勉力行の美風を發揮すべし等の四ヶ條を教育の骨子となし、職員、児童共に渾然一體となり、智育、德育、體育に夫々萬全を期して、輝き業績を示してゐる。

殊に児童の養護施設には細心の注意を拂ひ、理論よりも體位向上、健康保全に努力し、現に二千六百年記念事業として一町歩の開墾を爲し、又敬神崇祖の念を高める爲め、毎週月曜の神社参拜、其の他祝祭日の参拜は職員と共に嚴肅に行はれてゐる。

校長

作原家は山島村の由緒深き舊家で氏は明治三十年十一月十七日に呱呱の聲を擧げた。

金澤師範學校實業學校教員養成所を卒業後、教育界に入り爾來、一意専心育英に努め、石川郡二塚小學校長を歴任、更に當校々長として就任し今日に至つた。



資性濃厚謹直、人に接しては懇切なる態度を持ち、己れには俊殿に終始する圓滿達識の人格

者で、兒童からは慈父の如く敬慕されてゐる。

現在、男女青年團長及び青年學校長を兼任し、教育界の爲めに寧日なき活動を續けてゐる。

尙ほ家庭には婦徳高き、つる夫人との間に令息二人令嬢一人があり、和氣満ち溢れ幸福なる一家を營んでゐる。

石川、石川、内川村

助役 城川徳三郎

城川家は當地方の豪族山尾三河守の後裔として連綿五百年來の舊き家柄を傳へ累代徳兵衛を襲名し村内有數の由緒正し

き素封家である。

先代徳兵衛氏は人格高潔にして村政に通曉した努力の人として衆望頓に厚く、村會議員たること三十年の永きを精勵し其の間一期も休まず、名實共に村政の長老として幾多の功績を擧げ、昭和十三年七十三歳の高齡を以て永眠されてゐる。

當主徳三郎氏は嚴父徳兵衛氏の二男として呱呱の聲を擧げ、先代に勝るとも劣らぬ公共心厚く、現に本村助役の重任を擔ふ傍ら村會議員、學務委員、赤十字正社員、産業組合監事、内川第一實行組合長等の公職を兼任、常に時局産業の圓滑なる運行と村内の融和協調に熱烈なる抱負を基調とし、村勢の進展に眞摯の努力を續けてゐる。

殊に皇紀二千六百年記念事業として、衛生設備の完全なる山上村水道の建設計畫は着々進められ、昭和十五年一月許可を受けて一段の進展を見たるは、偏に氏の盡力に負ふ處大いなるものがある。資性濃厚にして誠實、事公共に至れば

確固たる信念に一貫する態度は、燃ゆる如き愛郷心と共に凡て氏の行動に反映し村民から深き信望を寄せられ、今後の活躍こそ期待すべきである。

石川、石川、内川村

村會議員 高野 權二
實行組合長

當家は代々五郎兵衛家と稱して、本村に連綿の家系を傳承せる當別所の草分けともいふべき舊家で、既に數百年を経てゐる。先代五郎兵衛氏は村會議員、學務委員、その他村内の各公職を歴任して、多大の貢献をなし、濃厚圓滿の人格と共に、衆望極めて厚かつた人で、名實共に本村々政の重鎮として重きをなし、昭和三年惜しくも長逝した。當主はその長男として、明治二十八年一月三日に呱呱の聲を擧げ、尊父の遺鉢

を繼いで夙に公共に厚く、資性濃厚篤實



仁慈の人
格者であ
る。曩に
區長たる
こと二回

現在經濟更生委員、村會議員、實行組合
長として村治産業の上に寧日なき盡瘁を
傾けてゐる。幾多の反對にも拘はらず同
志を糾合して組合を創立し、現在確固不
拔の業績を示し、また竹林と筍の副業的
伸展に努むること實に眞摯なる努力をな
し、日夜を別たぬ念慮は、遂に實行組合
にて筍の罐詰を行ふに至り、大なる成果
を擧げてゐる。實に本村筍栽培加工の創
始者として郷黨に於ける代表的功勞者で
ある。衆望の厚きこと實に澎湃たるもの
がある。

家庭は母堂とん刀自(明治五年生)夫人
やう夫人、長男清氏現役志願入營中、次
男弘君石川縣立金澤商業學校在學中、三

男孝君、その他令嬢が二人あり、常に春
風の如き圓滿平和の一家をなしてゐる。

石川、石川、内川村

村會議員 藤田藤九郎
方面委員

當家は代々宗教に厚い家系にして、四
百年前に建立された光專寺の過去帳によ
つても、それ以前より當地に傳承された
舊家なることは明確である。

祖父藤右衛門氏は多年區長たりし人、
先代太三郎氏は、村會議員、區長等とし
て村治産業に多年貢獻し、衆望極めて厚
いものがあつた。代々公共に盡す名望の
家門である。



當主は
その長男
として、
明治二十
四年九月
十九日に
呱呱を擧げた。青年時代より夙に自治産

業の發展と、精神的融和を希念して、當
に不言實行、寡黙實踐の態度を以て、獻
身的勞力を惜しまぬ人である。青年時代
には、青年團長、消防組小頭、區長等に
推されて盡瘁貢獻し、現在は、縣方面委
員、村會議員、農事實行組合長、社會教
育委員等を兼任して、村治産業の樞要的
存在をなしてゐる。稟性濃厚篤實、殊に
公共に眞摯なる熱意を傾注し、衆望極め
て厚きものがある。

當地の特殊産業たる、筍の栽培、及び
その加工の關連的發展と、早栗栽培の顯
著なる成果等は、一々氏の先覺的農事改
良に端を發したものである。氏はまた佛
教講話等をなして、村民の精神生活の純
化と發揚に貢獻するところ極めて大であ
る。その寛容大度の風格と共に、本村の
中核的代表的材幹である。農業立國、農
村産業推進の實踐者として、眞に私を去
り公に就くの人と云ふべきである。

家庭はきく夫人との間に、長男徳次君
(昭和四年生)、長女つやさん(大正十五

年生)等三男一女に恵まれ、圓滿春風の
如き家風をなし、家宗は淨土眞宗を信仰
してゐる。

石川、石川、林村

林 村 役 場

本村は鶴來町と野々市町の間に在りて
道法寺、坂尻、會谷、熱野、荒屋、知氣
寺、部入道の七區より成つてゐる。西半
部は土地平坦にして肥沃、農耕地に適し、
米其の他の産出多く、東半部は傾斜面を
なせる山林地にして富樫村と相接し、南
方は藏山村に連つて一望果しなき平野で
ある。

村民は勤直にして、大半農業に従ひ、
また養蠶業も盛にして全村家族的協力の
もとに奢侈安逸を避け、勤儉貯蓄の美風
村内に徹してゐる。

戦時下農村の更生伸張、ひとしほ緊切
なる秋、全村民は舊來の勤勉を更に強化
して愈々自肅自戒し、村政諸機關に於て

も一切の無駄を排し、銃後農村の模範を
示してゐる。

助 役
藤田 庄次

氏は明治二十八年
一月五日の誕生にし
て、早くより自治に
關與した。若き頃より英俊の頭腦を以て



知られ、
元役場書
をして
實務に精
勵し後村
會議員に

推され又消防組頭となるや、村内消防の
ことに太く貢獻する處があつた。昭和十
一年遂に助役に推され、事變下村政の實
際に執筆し、熱心村内自治産業の顯揚に
精勵してゐる。その濃厚篤實にして、寛
仁眞摯の人格と共に、村樞主の重鎮とし
て、信望厚きものがある。

收 入 役
宮本喜太郎

氏は明治二十五年
一月二十九日に生る
若き頃より英明熱意

の人にして、元産業組合理事、富樫用水
議員となり、盡瘁する處大なるものあり。
昭和九年收入役に推され、村財政の一切
を執筆して、確固たる運営をなしつつあ
り、その濃厚清廉の人格と共に、村内の
衆望多大なるものがある。

静岡、熱海市熱海

熱海 信用購買 組合
販賣利用

電話二〇八五・二三二三番

本組合は明治四十三年八月の創業にし
て、當地金融機關であり、古き創立と堅
實の經營を以て、信用絶大なるものがあ
る。

大正十二年五月、有限責任の組織下に
熱海町信用購買販賣利用組合と改め、更
に昭和八年八月保證責任に改組し、同十
四年二月現在の名稱に變更して、面目を
一新し、今や名實共に兼備した模範的優
良組合として、産業經濟の圓滿な向上に
全力を發揮してゐる。

殊に時局を認識せる組合員の協力一致は、信用部を始め、各事業ともに飛躍的な業績を示し、役員諸氏の熱心な指導と共に、前途は益々有望視されてゐる。

現役員は組合長に岩下義雄、理事に神戸宇吉、芹澤弘、樋口修次、米倉清吾、藤間喜太郎、山田高次郎、久保田道雄、監事に山田豊次郎、鶴澤重利、岩下市太郎の諸氏がそれぞれ組合の進展に盡瘁してゐる。

組合長

岩下 義雄

岩下家は熱海市に於ける屈指の舊家名門にして、祖先は沼津藩主に仕へた、士族の家柄である。

先代基義氏は沼津市の町政時代の助役或は葦山村長等を歴任せる徳望家で、當主義雄氏はその長男として、明治八年十月に呱呱を擧げた。

長じて中央大學の前身たる東京法學院大學を卒業し、家業として熱海名産の延命饅頭の製造販賣に従事し、夙にその佳味を賞せられてゐる。

氏は家業に精勵する傍ら、公共に參與し、先代に劣らぬ非凡の手腕を發揮し、

當組合長のほか熱海市議員を始め幾多の公名譽職にあつて、日夜市勢の向上發展に目覺しき活動を續け、高潔なる人格と共にその輝く業績は齊しく衆庶の感謝するところとなつてゐる。

家族は、しん夫人の間に長男益一氏、三男萬尾氏、益一氏夫人貴美子さん、令孫一男、千支の兩君がある、多幸な一家である。

石川、石川、内川村

内川尋常高等小學校

本校は略ぼ村の中央に位し山岳の頂上に在つて、眺望佳良教育的環境に恵まれてゐる。近時自由主義教育を排撃して、皇道精神を高揚し、眞に日本人たるべき愛國勤勞の教育が叫ばれるとき、本村教育に於ても、校長初め職員一丸となつて皇民鍊成の教育行に眞摯没入し、内川村

校長

宮岸 清

氏は明治三十一年三月十五日の生れ、石川縣師範學校の出身者、昭和十四年九月本校に來任した。方に教育的大轉換に際會し、教育界は擧げて質實的教育理念の淨化に忙しいとき氏の如きは古くより、日本精神實踐の教育を信念として來た人であり、就任以來着々全村教育の完成に努めつつある。温容寛仁の人格は兒童に慈父と仰がれ、そ

の圓滿無礙の信念的學校經營は職員の眞摯献身的協力と相俟ち、村内の讚稱大なるものがある。因に家庭は文子夫人との間に子女三人あり、趣味は釣である。

石川、石川、内川村

内川村 信用販賣組合

當組合はその創立に當り、村青年層の中心人物が、本村の産業的發展を希念するの餘り、昭和八年青年團を中心として發起され、外廓的には當時團長たりし東元校長、内實的には副團長たりし高窪武氏その他役員の協力によつて創立されたものである。

當初より保證責任四種組合を以て設立され、爾來専務初め役員組合員の一丸の努力によつて、今日名實共に本村産業發達の中樞的推進をなし、萬遺憾なき機能を發揮してゐる。

初代組合長は中村市太郎氏、二代には丸山清太郎氏、三代は高窪吉兵衛氏が現

任してゐる。而して創立當時より専務理事として、高窪武氏が組合運営の實際を執掌して組合伸展の爲めに盡力したが、父君吉兵衛氏の名譽組合長就任と共に、氏が組合長の代行者となり、更に高山秀盛氏の専務理事就任を見た。

現在業績は購買部を第一として、信用、販賣、利用の順になつてゐる。近年本村産業の伸展顯著なるものあり、一村一組合としての當組合は益々本村經濟の動脈たるべく、一層の發展が期待される、昭和十五年春組合事務所の新築を見、又木炭倉庫の建設も二千六百年記念事業として設置された。

組合長

高窪吉兵衛

當家は代々由緒ある家系を傳へる素封家として近隣に知られてゐる。氏は明治三年の生れ、約三十二年間村會議員にして、自治に貢献多なる本村の重鎮である。

嚴父吉兵衛氏の代行者となりて當組合のために努力する武氏は、その男として

明治四十二年に生れ、夙に英俊明敏にして、温厚篤實なる人格は信望厚きものあり、現在經濟更生委員に推され、之と併行して組合内容の擴充に寧日なき努力を續けてゐる。趣味は讀書圍碁等で、時局下村勢の推進的中核をなしてゐる。

専務理事高山秀盛氏は明治三十八年の生れ、村農會副會長をも兼ね、眞摯盡瘁する温厚寛仁の人である。

静岡、富士、傳法村

村會議員 和田 重平

當家は代々此の地に居をなし、現主重平氏に至り宗家より別れて一家をなした古記録失はれて開祖の由來を詳になし得ないのは遺憾であるが、少くとも七八代に亘る舊家である。

尊父押見清吉氏は商業を営み謹直清廉なれば聲望甚だ高き人格者として衆望を負ひ、公共の事に關與し、區長等に歴任して部落發展のために功勞が多かつた。

重平氏はその四男として明治二十二年十月十九日の出生である。人と爲り濃厚篤實、公正果斷の人物である。ために嘗ては村民に推されて區長、國勢調査員、工業調査委員として、公共事業に寄與貢獻するところ多大であつた。而して當局より國勢調査員として表彰を受けた。

現在は村會議員、臨時村政調査委員、日本赤十字社正社員として、村民の福利増進、村政の刷新向上に寧日なき努力をなしてゐる。

また氏は戦時下産業界に對する識見高く、世界の大勢に順應し、日本の工業を可及的速かに機械工業化し、以て生産力の擴充に努めねばならぬ、この事がひいて、郷土の發展を來し、東亞新秩序建設の原動力となり、統後國民としての重大なる責務であると主張されてゐる。蓋し時局柄至言といふべきである。

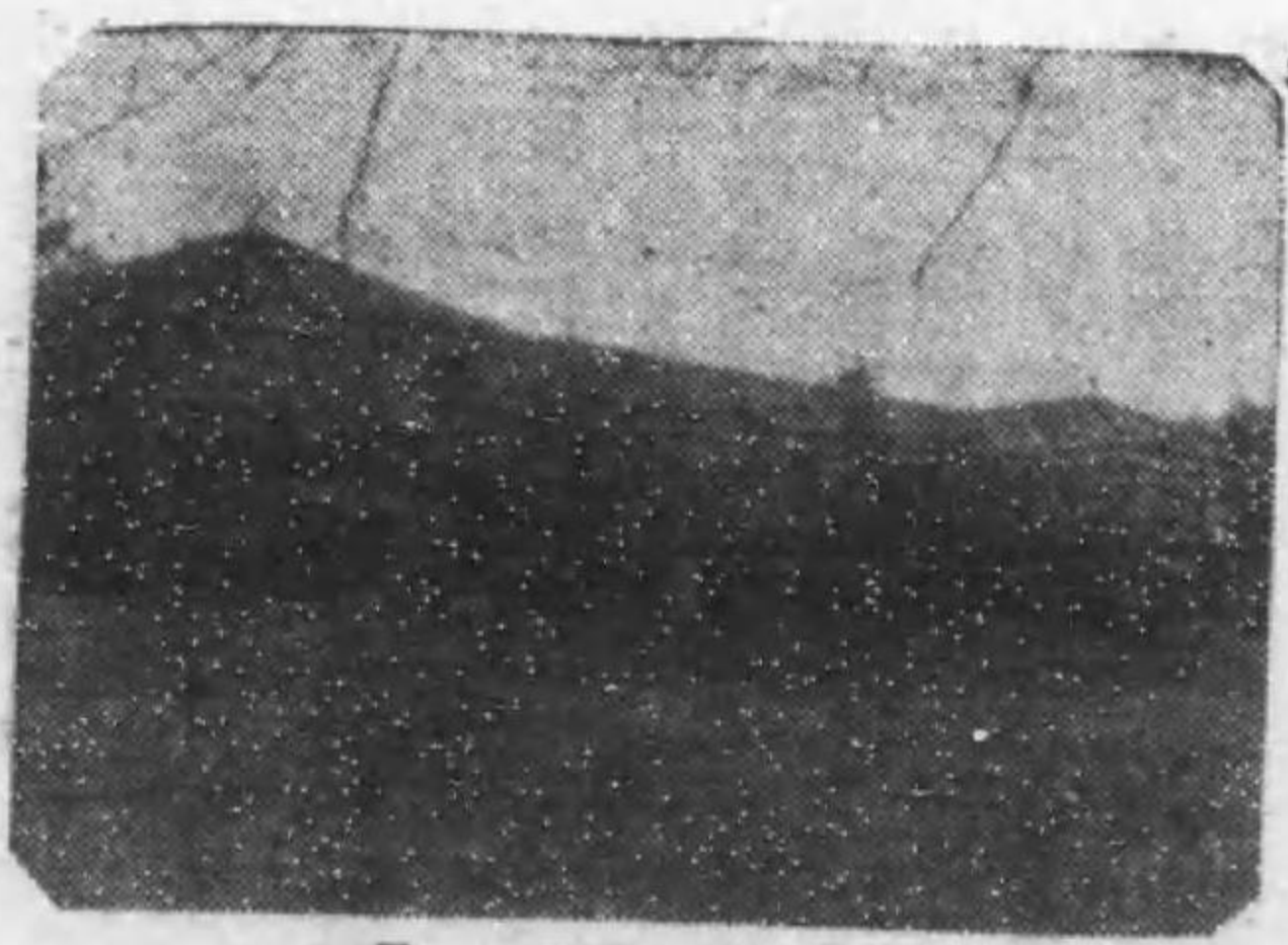
なほ家庭には、うめ夫人との間に、長男武氏がある。うめ夫人は愛國婦人會、國防婦人會の役員として、統後の活動に多忙を極めてゐる。武氏は沼津商業學校を卒へ、更に秋田高等工業學校を優秀の成績で卒業し、歸郷して家業に専心してゐる。武氏の夫人にも、もと子さんを迎へ親子四人の極めて圓滿、和やかな家風をなしてゐる。

石川、能美、板津村 能美尋常小學校

本校は明治三十三年の創立にして、能美區に於ける教育の樞機として、今日の堅實な發展を遂げてゐる。

現在教員及び児童は一體となつて、教育の聖旨を奉戴顯現し、本縣教育刷新強調事項、並に國民精神總動員の趣旨を基調として、小學校令の示す處に遵ひて時勢の進展に適應せる教育を施し、以て雄大強力なる皇民の育成に努力してゐる。

特に本校教員は、訓練の精髓は人格の完成にあり、教授の要諦は不斷の努力にあり、管理の秘訣は滿腔の同情にあり、と



校舎全景
の輔導に當り教育精神に終始して眞摯の努力が續けられ、

て氏は明治二十九年二月に嗚聲を擧げた

校長 田中 米作

石川縣師範學校を卒業後、一意専心育英の爲に盡力し、當校々長として其の重責を双肩に擔ふや、寢食を忘れて克く當校の經營にあたり、夙に圓滿高潔の人格者として、兒童は勿論、衆庶の尊敬を一身に聚め、現在學務委員、女子青年團長、婦人會長、社會教育委員、後援會長等の要職を兼任してゐる。

石川、能美、粟生村 粟生村在郷軍人分會

本會は明治十九年八月の設立にして當時有力者たる武田源次、川崎榮吉の兩氏の奔走努力に依り組織され、初代會長として佐々木武次郎氏が就任した。

創立以來、本村に於ける郷軍の基礎を著々と築きあげ、互助連環の協力下に極めて顯著の業績を擧げ、在郷軍人本來の

使命達成に努力を重ねて來た。

今や時局は益々重且つ大、復雜多岐に亘り、その使命はなほ一層の重要性を加へて、戦時下總力戦の中堅層として今後の活動は愈々強化され、本會に於ても整然たる組織のもとに、會員は渾然一體となつて奉公の誠を致し、一朝有事の際に備へて萬全を期してゐる。

現役員は分會長に吉光榮吉、副長に杉森銈一、中野久一、近田稔、會計參事に高木清作、庶務參事に武田秀雄、事業參事に米多榮作、監事に清水權三郎、上島重信の諸氏が就任、審議員に坂井文榮、高崎俊、八木榮政、高橋亮夫、柴田榮吉、竹田武夫、西田賢、野崎友作の八氏が當り、更に班長として米多一二、戸田政次の兩氏を始め十名がある。

分會長 吉光 榮吉

吉光家は本村有数の素封家にして、累代村治に參與する自治功勞に輝く家柄である。

先代吉三郎氏は村會議員、産業組合評

定委員、農會評議員、耕地整理委員を兼任して村政の長老格として徳望あり、當主榮吉氏は氏の男として明治三十八年に生れ、嚴父の後を繼ぐや村内中堅の有識者として信望厚く、小松中學校を卒業後一意専心公共に盡力して來た。

昭和十四年七月、歩兵少尉として中支方面の戦線より歸還し、同年當分會長の重責を擔ひ、以て本村在郷軍人の融和を圖り、その發展に努め、前途を囑望されてゐる努力眞摯の人である。

石川、能美、吉田村 吉田尋常高等小學校

本校は創立以來、幾多の變遷を経るも着々教育上の實績を收めつつあり、其の成果は他校の模範とするところである。

教育に關する勸語の主旨に基き、學校教育の全般より道徳教育を行ひつつあり常に兒童を實踐躬行に導き、殊に本村は純農村なれば實實剛健なる農民を養成

し、勤勞精神涵養に意を用ひて建國の本義と國體の尊嚴なる所以を會得せしめ、また忠孝の大義を明かにすべく努力してゐる。

特に二千六百年記念として校歌の制定及植林開墾があり、其の他新東亞の樞軸たる大日本を背負ふて立つ健全な國民を養成すべく、諸種の施設をなしてゐる。

校長 氏は粟生村屈指の舊家にして、由緒正しき武田家に、明治二十五年に呱呱の聲を擧げた。



大正三年師範學校を卒業するや、直に教育界に入りて教鞭を執り、爾來育英に専心して今日に及び、現在前記校長のほか青年學校長、青年團長、女子青年團長、學務委員、社會教育委員、圖書館長等の要職を兼ね、

高等官八等の待遇を受けてゐる。濃厚清廉の人格は職員並に兒童の間にも反映して、衆民の信望極めて厚きものがある。

石川、石川、吉野谷村

吉野谷村役場

當村は郡の最南端に位し、手取川を挟んで能美郡鳥越村と相對してゐる。この邊り、手取川は恰も地軸を割りたるが如く深き溪流をなし、奇岩怪石の岩壁を縫ふ清潭奔流は、實に豪壯なる景觀をなしてゐる。産業は米麥等の農産物の外、木材、薪炭材の産出が旺んでゐる。本村の上流に中宮温泉あり胃腸病の卓効を以て有名である。その昔此處に白山中宮が所在したと云はれてゐる。大體本村の居住は七百年前位と傳へられ、村内に靈木の他の傳説等が多く、史實的にも由緒ある村である。非常時局下村政の物心二面の暢達に、村長を初め助役、収入役の獻身的努力を傾けられ、着々その成果を顯

現してゐる。風俗醇良なる地にして産業組合その他の諸團體の活發な運営を見てゐる。

村長

當家は吉野谷村に於ける舊家にして又素封家として知られてゐる



氏田山 長村 氏は明治十年二月の出生、夙に村政に關與して甚大なる治績を遺した。収入役吉田氏は現に村長三期、農會長、



氏田吉 役入 村會議員六期等の要職を兼任し、村勢の躍進に努めてゐる。資性濃厚にして、眞摯であり、庶民の信望を一身に集めてゐる。

尙ほ山田村長を補佐する人に、助役山田仁三、収入役吉田佐久次の兩氏があり大いに盡瘁してゐる。

静岡、富士、今泉村

富士機械製紙工業組合

古來富士郡は靈峰富士の白雪を解かした清冽玉の如き清水が到る處に湧出し、製紙には特に好條件を備へてゐるので、三極を原料とした手漉製紙は、遠き古より盛行はれ、我が國製紙の濫觴的存在を以て知られた。

明治初年頃より此の天惠的優越性は、機械製紙工業の勃興と共に、幾多の變遷はあつたが、逐年進展の一途を辿り、現在に於いては組合生産額は全國第一を稱へ、紙業王國の豪華さを誇つてゐる。

創立は昭和七年二月にして、富士郡製紙工業組合といひ、初代理事長、故高山循一氏を中心し組合員の眞摯な努力が續

けられ、所謂工業組合の試練時代で、進展運々たるものがあつた。

昭和十三年、區域を沼津、熱海、庵原、駿東、田方、賀茂の二市五郡に擴張し、名稱を富士製紙工業組合と改め、役員に有爲な人材を網羅して、組合の組織を強化するに至り、高山循一氏の後を襲うて次代理事長に、現大昭和製紙株式會社社長佐野貞作氏が就任したが、工業組合法の改正と事變による組合機能の強化により、組合員の増加を見て、更に一段の躍進を續け、同十五年八月佐野理事長辭任後、同じく組合創始者の一人である齋藤徳次氏が三代目理事長に就任し、益々躍進的發展を續けてゐる。

今や本組合は新體制下に於ける紙業界の重大使命を擔任し、時代に即應した製品の共同販賣等全國に魁した革新的な施設と指導を行ひ、紙業報國の使命完遂に全組合打つて一丸となり、力強き歩みを續けてゐる。

現役員は理事長に齋藤徳次、専務理事

に岸本惠作、理事に佐野貞作、石川鏡、後藤忠男、飯田勝五郎、監事に久保田春吉、塚田榮太郎、川口柳作、顧問に齋藤知一郎、山崎金太郎、金子彦太郎、佐野熊次郎の諸氏が就任してゐる。

石川、能美、久常村

蠶業組合長 喜多 長八

當石川縣は五十年前蠶業を移入してより、機業家及び養蠶業者の増加と共に發達の一途を辿り、今月に於いては逆に内地に製品を輸出し、養蠶業の指導的存在に迄劃期的な發展を見せ、國策線に敷衍して、今や裏日本否、全國に於ける蠶業王國を以て自他共に許すところとなつてゐる。

殊に縣養蠶業の中樞となつて活動を續け、幾多の貢獻をなす蠶業組合は、組合員の渾然一體となり、品質の改良、技術の向上其の他凡ゆる部門に亘つて、目覺しき業績を擧げ、刮目に價するものが

ある。

特に當組合の柱石となり組合の發展並に縣内蠶業の發達に寧日なき眞摯の努力



をなす組
合長喜多
長八氏の
存在は、
寔に當地
方蠶業界

にとつて力強き限りである。

氏は本村屈指の素封家にして連綿たる家系を誇る喜多家に、明治九年三月に呱呱の聲を擧げ、夙に蠶種事業に燃ゆる如き熱意を以て終始一貫し、當組合長に推されるや、克く俊敏い手腕を縦横に振ひ、其の生涯を蠶業界に盡したと言つても過言ではない。

今日當組合が堅實の經營振りを示し、

蠶種業界に多大の貢獻をなすと共に尙一層の飛躍を遂げつつあるは偏に氏の努力に負ふは言を俟たず、斯界の元老として衆民からの信望は日を追うて高きものが

ある。

氏はまた敬神崇祖の念に富み、乃木將軍を崇拜する稀れに見る人格者にして、その人となり温厚篤實、白髮慈顔の風格も、衆民の懐しみと尊敬を一身に聚め、數度に亘り蠶種功勞者として表彰の榮を受けてゐる。

今や時局は益々重且つ大復雜多岐に亘り、その使命はなほ一層の重要性を加へて、戦時下總力戦の中堅層として今後の活動は多に期待されてゐる。

なほ家庭は極めて圓滿、和やかな家風をなしてゐる。

石川、能美、白江村

上小松尋常高等小學校

堅實なる第二皇民の養成は一にかかつて小學教育に俟つべきことは今更贅言を要するまでもないが、聖戦下教育の重要性はいよいよ識者の間に叫ばれてゐる。

當校は創立以來、小學校令第一條の趣

旨を遵奉し、堅實なる校風の作興に努め、爾來幾多有爲有能の士を輩出してゐる。殊に近時教育の實際化は、兒童を通じて村民に徹底し、家庭と學校の連絡よろしきを得てその模範的教育方針を縣下に誇つてゐる。

校長

山田 喜作

氏は小松市の出身にして明治二十四年十月一日の生誕である。幼少より穎悟にして、大正三年、石川縣師範學校を卒業するや、直に縣下教育界に入り、一意兒童の教化に精勵して今日に至つてゐる、稀にみえ入格者である。

尙ほ當校々長として天職を完うする傍ら、學務委員、青年團長、婦人會長、青年學校長等を兼任して、教育に、統後の奉公に、全村民の指導を双肩に擔つてゐる。尙ほ氏の令兄は南米にあつて活躍してゐる有爲の人材である。

石川、能美、中海村

中海尋常高等小學校

本校に於いては、國民總力戦の眞義に

基いて、教職員以下兒童に至るまで渾然一體となり、一、時局の重大性を認識せしめ、日本國民たるの自覺を鞏固ならしむること。二、長期對戦に備へて消費節約、勤儉貯蓄の勵行をなさしむること。三、堅忍持久、困苦缺乏に堪ふる實力と

質實剛健の志操を涵養すること。四、大國民たるの襟度を持し、冷靜克己自己の業務に精勵すること。五、至誠奉公の精神を啓悟し勤勞奉任の美風を發揮せしむること。六、常に全體的なものの一員たるの自覺を鞏め、團體的行動を執るに遺憾なからしむること。この「時局教育實踐綱領」に就いて訓育効果の完きを期して、教育本然の使命達成に、邁進してゐる。

就中、合宿塾訓育の成果は着々と向上

の一途にあり、兒童の團體的訓育に重きを置いて、團體生活の愉悅に浸らしめ、自治並びに共同生活觀念の啓發陶冶に好成績を治め、兒童の現實生活により深い眞摯の努力が傾注されてゐる。

校長

山口 甚作

氏は本郡粟津村の出身にして、明治三十三年五月に呱呱を擧げ、石川縣師範學校を卒業後、教育界



にありて育英に専心し、昭和十四年六月當校長に就任

した。温厚清廉の人格者として、また郷黨の師表として、共に衆庶の畏敬を一身に浴び、現在青年學校長、青年團長、女子青年團長、圖書館長、學務委員、社會教育委員、教育後援會會長等、幾多教化團體の重責を擔ひ、眞剣且つ誠實に一貫せる

努力を續けて、其の功勞寔に顯著なるものがある。

静岡、富士、大宮町

縣會議員 大石 健藏

非常時局は益々重要性を加へつつある秋、當地方自治行政の刷新は萬人の要求するところにして、是には豊富なる識見と優れたる手腕を有する有力なる議員の登場が必要である。

此處に縣下衆民の懇望によつて縣會議員に出馬した大石氏は、稀れに見る



逸材として大いに其の活躍を期待されてゐる人物である

縣會議員として双肩に重任を擔つて以來、常に各方面に亘つて倦まざる努力を

續け、殊に農業の合理化經營に力を入れ、富士郡北部一帯に多角的經營の指導をなし、着々業績を擧げてゐる。また優良蠶種の改良普及に率先身を以て當り、農家經濟の向上の見地から蠶種法に則り蠶種共同施設組合を郡内十ヶ所に設置し、全國に魁けて之れを實行し、過剩蠶種と物的統制を確立實踐を収めてゐる。

氏は、更に之に満足せず一段と斯業の進展を圖るべく、自ら富士社を經營して俊敏の經營手腕を示し、縣外にも廣く取引して、益々業績の向上を見てゐる。資性濃厚にして剛毅、公共社會に盡す熱烈の態度は、篤實なる人格と相俟つて郷黨の信望を一身に聚めてゐる。

石川、能美、板津村

板津村 信用販賣 組合

電話小松二五九番

當組合は、大正十一年三月、現理事長中田順太郎氏の發起によつて設立。村

内より三字を除く外一圓を地區として、事業を開始した。

昭和三年多額の貸付金が固定し經營上の障害をなして來たが、これも現在では回收方法が確立して、運営は好調に進んでゐる。即ち利用部の繩の仕上再生、米の加工販賣も好成績を擧げてゐる。各役員は素より、組合員一同協力してこれが發展に努力し、逐年内容充實して發展しつつある。

歴代理事長は村永茂利、半田忠二郎、森田長吉、吉本久右衛門、守田勇二、高林久太郎、中川太郎左衛門の諸氏を経て現在の中田順太郎氏に及んでゐる。理事は中田順太郎、村永茂利、米田忠二郎、森田長吉、青木久右衛門、監事は安田勇二、高林久太郎、中川太郎右衛門の諸氏が就任してゐる。

理事 長

中田順太郎 當家は番場家の分家にして四代を繼承した家柄で、祖父は部落の協議員を二十數年勤続し、殿父甚

作氏は本村收入役を勤めて村のために盡力した人。氏はその長男にして明治三十七年一月生れた。

曩に方面委員等を勤めて、現在は村農會總代、青年團長、この他生果出荷組合長、長野田農事實行組合長等の要職にあつて活躍し、青年團は知事の表彰をうけた。殊に氏が理事長たる産業組合については、今後村經濟の中樞機關として十全なる機能發揮せしめ、村民の期待にそふべく折角健闘してゐる。

氏は濃厚にして明朗恬淡、諷曲に趣味を有ち、淨土眞宗に歸依してゐる。家庭には母堂、夫人及び子女四人ある多幸な一家である。

石川、能美、御幸村

山末漁業協同組合

當組合はその歴史頗る古く、明治三十六年漁業法の發布と共に、有士相諮つて創立したものである。不幸漁業倉庫の全

體に會ひ、之れが復興には組合員一同協力奮闘、今日の盛大を招來した歴史を有してゐる。

當組合は六艘の漁船を以て、大地屯網を主たる漁法としてゐる。毎年三月末より十月末頃までを漁期の中心として、魚類は、鯖、鰯、鯛、かます、ふくらげ、鰈、烏賊、蟹、鯨等を漁獲する。

非常時局下、食糧確保のため水産物増獲に組合長以下役員及び全組合員が渾一、協心戮力を以て邁進してゐる。組合長理事東方三吉、理事本村興作、同本村正作、監事宮本榮太郎の諸氏献身的盡瘁をなし、組合の業績は顯著なる擴充發展を見つつある優秀組合である。

組合長

東方氏の家は代々本村に傳承して重きをなす舊家である。

先考長作氏の男として明治十六年九月に呱呱を擧げた。若き頃より英俊果斷、夙に北海道宗谷海峡方面に於て、練さし網漁業に従事したのは、僅かに十五歳の

少年時であつた。その後同方面の捕鯨漁業に従事すること多年、優秀なる手腕を發揮した。歸郷後既に二十年間組合漁業の推進に實際指導的立場に於て貢献し、遂に組合長に推擧され當組合の樞機を執掌し、益々眞摯なる盡瘁をなしつつある。また村協議員を兼ね、縣當局より重要農林水産増産計畫實行督勵員を囑託された。



資性濃厚篤實にして、寛仁大雅の人格者として衆望が厚い。

家庭はいと夫人の間に子女多く、長男廣次氏は自動車業を經營し、次男貞二氏は北支に出征中、三男安芳君は東京航空學校に在學中、四男常次君は家に在り、長女かのさん等皆溫和聰明の人々にて頗る圓滿な一家として、近隣より羨望せられてゐる。

静岡、賀茂、城東村

産業組合監事 高羽 平吾

高羽家は本村有數の舊家として知られ累代村治に盡した自治に輝く家柄を以つて近隣に聞えてゐる。

當主平吾氏は先考徳太郎氏の男として明治二十四年十二月に呱呱の聲を擧げ、郷校を卒へるや夙くより自治産業の發展に努力し、軍人分會長、村會議員、村農會長、山葵業組合長、役場書記等幾多の要職を歴任



其の業績は枚擧の遑なく、殊に分會副會長四年を勤続、其の間に於ける忠魂碑の建設は氏の盡力に依るものである。村内青年の指導啓發にも意を用ひ軍人精神の強調に努めて村民から絶大の感謝を

浴ひ、また農會長時代に柑橋類及び莢豌豆の増産に率先身を以て當り、遂に今日の盛況に導いてゐる。

現在産業組合監事、白田魚業組合理事、軍友會支部長の重責を擔つて縦横に敏腕を振ひ、村産業の發達に寢食を忘れて活動が続けてゐる。

同氏の長男一氏は今事變に應召するや各處に轉戦して赫々たる武功を樹てて活躍中であつたが、昭和十二年九月十三日支那江蘇省蕪陸宅に於いて終に名譽の戦死を遂げ、其の功に依つて歩兵軍曹に昇進し、勳七等功六級を授けられてをり、現在婦徳の聞え高きサゲ夫人が家庭を守る譽れの遺家族である。

富山、東礪波、城端町

城端町役場

本町は郡の西南山田川の上流にあり、南は大礪屋村と界し、東は池川を挟んで大礪屋村及び北野村と境し、西及び北は

山田川を以て境し、南山田村と相對してゐる。

地勢は一帶に丘陵地にして東池川、西山田川の兩川丘陵を挟みて北流し、土地南北に長く、東西に短く、市街は主として北丘陵上にあり、只東の低地に東新田町、西の低地に西新田町があるのみで、地粘土質壤土にして地味肥沃、雨量概して多量である。

其の沿革は、今を去る三百有餘年前、正親町帝の御宇、元龜天正の頃の創設に係り、河池右衛門齋藤光次が城主であつた。

其の後徳川氏政權を握るや前田氏の所領となり、今井左太夫、九里九郎兵衛、加藤新右衛門等相繼ぎ代官となつた。

寛永年間には已に宿並に列せられ、篠島豊前、二代篠島豊前、三代篠島主馬相次いで奉行となり之を治め、元祿年間には大工町のみにて人口四百を數へ、のち幾多の變遷を経て今日至つた。

本町交通は省線、自動車の便良くまた

道路も完備して町勢に一段と向上を示し産業、財政、教育、衛生等施設全般に亘つて萬全が期され、町政を執掌する指導者の熱意ある善導と相俟つて、町内は常に和氣が漲つてゐる。

なほ本町は名所舊蹟多く、古刹善徳寺、スキー場、細ヶ池、林道鑛泉、立野ヶ原鑛泉、仙境五ヶ山等が知られてゐる。

町長

氏は昭和十五年一月町長の重任を擔ひ爾來、一意専心己を

抛つて町勢進展に盡瘁し、常に社會公共のため眞摯の活動を續け、圓滿高潔の人格と共に町民の信望は極めて厚きものがある。

富山、東礪波、南般若村

元婦女會長 今井千代子

本村に於ける婦人の精神的向上と婦道實踐に貢献して來た村婦女會は、設立以來、克く會員の眞摯なる活動に依つて着

着治績を擧げ、村内婦人の指導啓蒙に與つて力があつた。

殊に本會の柱石となつて率先指導の任に當り、會の融和と發展に盡力せる會長今井千代子女史の功勞は、極めて大いなるものがある。

同女史は郡政界の巨星、故今井嘉一郎氏の夫人にして、夙に村民の信望厚く、その人となり温雅にして謙讓、婦徳の聞え高き徳望家である。

現在、同會を退いて閑日月の中に自適の生活を送つてゐる。

なほ夫君嘉一郎氏は、前記郡會議員のほか町村政實施と共に、村會議員、助役、村長、其の他名譽職を歴任、更に學務委員、信用組合理事、農會長、用水組會議員を兼任して幾多の功績を遺し、小學校及び役場の新築、通學道路の新設は、其の主なるものにて、産業の改善發達、教育の普及向上等枚擧の遑なく、村治に貢献するところ尠からず、其の功勞に依る表彰は數回に及んでゐる。

資性温厚にして謹直、常に中樞的人物として敬仰せられ、また日露戰役には、軍事に奔走して功勞あり、勳七等に叙され、自治功勞者として郷黨の信望極めて厚きものがあつた。

なほ愛孫、長男嘉一郎氏は礪波中學校卒業後、陸軍少尉として今事變に應召して各地に轉戦し、活躍中であり、また次男は早稻田大學に在學中である。

静岡、賀茂、仁科村

村會議員 鈴木圭次郎

氏は田方郡川西村字古奈の出身にして明治三十七年一月二日に呱呱の聲を擧げ、現在の鈴木家へ養嗣子として來られた。

當鈴木家は今四代目を數へる舊家にし、先代までは漁業に従事してゐたが、現時は、鮮魚並びに石花茶(テングサ)の仲買業を營んでゐる。

氏は家業に精勵するのみならず、公共

の事にも參與し、現に漁業組合理事の重責を擔ふ



傍、村會議員、青年團支部長、神社共同社副

社長等の名譽職にあつて、日夜當村の向上發展に東奔西走の目醒しき活動を續け、高き人格と共に輝く業績は齊しく衆民の感謝を浴びるところとなつてゐる。家庭には養母もと刀自今尙健在でありリト夫人との間には二男二女が恵まれ、極めて多幸の一家である。

石川、能美、中海村

村會議員 山田仁太郎

當家は太郎左衛門家と稱し、代々襲名して、當村に既に十數代七百年餘の家系を傳承せる舊家名門である。

先代太郎吉氏は八十三歳の高齡を保ち

多年に亘つて、區長、村會議員其の他の名譽職を歴任し温厚寛仁の人格者として村政、産業の爲めに、献身的盡瘁を惜しまなかつた功勞者であり、村治の最長老でもある。

當主仁太郎氏は、曩に區長として部落の融和發展に竭すこと三期、現在村會議員に推輓され、その他經濟更生委員、農地委員、信用評定員として、村治、産業の上に寧日なき貢献をなしつつあり、且つ第二耕地整理組合長として、開墾事業に執掌して之れを完遂した功績は没すべくもない。稟性清廉潔白にして、寛仁大度の人格者、殊に謙讓の人として衆望厚きものがある。

常に村の平和と協調的空氣の醸成を希念し、非常時下農業擴充發展の、中樞的推進力として盡瘁する材幹である。

家庭はいと夫人との間に長男積氏（明治四十二年生）あり、在郷軍人分會役員にて、眞摯温厚の人である。既に令孫三人ありて常に平和圓滿のまどろみをなして

る。宗旨は淨土眞宗である。

石川、能美、白峰村 役場

日本三名山の一として、その雄大なる山容を天下に喧傳せられてゐる白山の麓手取川の上流にあり、山岳重疊して縣下屈指の面積を有する大村である白山は一名越の白嶺とも呼び、白峯村の村名之より出ず、金澤市より電軌にて鶴來に至り、之れよりガソリン軌道にて白山下車バスにて本村に着く。その間手取川の急潭は山を穿つて豪壯なる奇勝を形成し殊にバスの沿線には、眞に肌粟する原始的景觀が隨所に眺望される。冬期四月は降雪の爲め、交通の便止り、一村冬籠りの止むなきに至るが、その爲め却つて、全村民の協和的精神を醸生し、醇良なる風俗を傳承してゐる。歴史的にも由緒深く、昔は幕府直轄の地として、奉行所等も置かれ、今にその遺物が多く保存

されてゐる。各聚落とも冬季に耐へる爲めに、住居皆廣くして且つ剛堅な造りをなしてゐる。

産業は河に沿ふ狭長な耕作地と畑作の自給自足的農業と、萬古斧鉞の大森林あり、近事村當局の積極的な指導と開發により、濫伐を禁じ、植林を併行せしめ、山林の國策的運営に共力しつつある。木炭その他山地としての特産物も多いが、本村の生命は森林に在ると云ふべく、之れが健全なる發展に全力が擧げられ、河川保護工事、林道工事等の大問題も漸時着工の緒に着きつつある。

村 長

杉原龜十郎 氏は明治三十七年七月、本村切つての素封家として、その

昔、奉行たりし由緒を誇つてゐる山岸十郎右衛門氏の令息として眞聲を擧げた。實父は郡會議員、村會議員、其の他村各般の公名譽職を歴任して功勞多き人物であつた。氏の令兄、令弟共に早稻田大學に、駒澤大學にそれぞれ學んだ英才にし

て、一門みなその材幹を誦はれてゐる。

氏は石川縣立小松中學校を卒業し、乞



はれて杉原家の養嗣子となつた。

岳父助松氏もまた村會議員、區長等を歴任した村政の功勞者である。

斯く由緒ある家柄に生れ、而して功勞ありし杉原家を繼いだ氏は、よく尊父、岳父の名を辱かしめず、曩に村助役として敏腕を振ひ、今又推されて村長の樞職に就き、卓越せる手腕見識を縦横無盡に驅使して、よくその職責を完うし、殊に本村森林政策には農林當局に陳情して一大植林計畫に献身し、時局下新體制に即應してその實績を収めてゐる。

資性仁徳に富み、不言實行の意志の人である。家庭は喜代子夫人との間に二男二女あり

り、頗る圓滿を極めてゐる。

石川、能美、湊村 湊村産業組合

本組合は昭和二年有志の協力に依つて組織され、爾來組合員の増加に努め、各役員の銳意事業の經營に、また組合事業の趣旨普及徹底に盡力せし結果、漸次發展を遂げて今日の繁榮を見るに至つた。

現在組合員打つて一丸となり、時局に適應した整然たる組織下に生産力の擴充を圖り、消費の節約物資の配給、其の他産業經濟の廣範圍に亘る各事業を運営して本村産業の進展に貢献し、組合本來の使命達成に努力してゐる。

特に物資の購入及び販賣は組合員の熱意ある協力に依つて極めて順調な成績を示し、名實共に本村産業經濟の中樞として、從來の經營方針に今一段の改善を加へ、現状を基礎として時局下長期建設の覺悟を堅めてゐる。

現役員は組合長に、中村市松氏が就任し、専務理事に敏腕と努力をもつて信望

厚き中村太郎氏が當り、他に理事佐武猛郎、清水伍一、木谷榮吉、監事に中村己一郎、吉田與之助、宮田清作の諸氏が組合のために眞摯な活動を續けてゐる。

組合長

中村市松 中村家は本村に連綿の家系を傳承する屈指の舊家にして、

氏は慶應三年に生れた。

氏は曩に船長として永く海事に關係し、のち本村政の樞機に參與して産業組



合長、農會長、村會議員、耕地整理組合長等の要職を

兼任、私事を抛つて公共の爲めに盡瘁して幾多の治績を収め、老來益々矍鑠、村政の元老として重きを爲してゐる。資性温厚にして剛毅、若き頃より酒、

煙草を排して健康保持に努め、身心共に
練磨を怠らない眞摯の人である。

石川、能美、中海村

中海信用販賣組合 購買利用組合

電話 六番

本組合は明治三十四年五月村内宇荒木
田、輕海、中の三部落を區域とする購買
組合を組織し、爾來極力組合員の増加に
努めたるも、當時一般住民が未だ組合の
眞義を解せず、且つ地方商人の反對があ
つて一頓挫を來したが、役員一同の献身
的努力に依り、漸次發展の機運に向ひ、
明治四十三年前組合を一先づ解散して、
同時に中海信用販賣購買組合を設立、の
ち幾多の變遷を重ねて昭和十年三月利用
部を加へ、現在の名稱に改めて益々事業
の伸展を圖り、今や當地屈指の優良組合
として組合員の福利に、また本村産業の
開發に全機能を發揮してゐる。

は長期戦に對應する爲め戰時體制の強化
に向つて進められ、従つて本組合も時局
に即應し、生産力の擴充を圖り消費の節
約、貯蓄の奨励、物資の配給、公債消化
の方策等萬全を期しつつあり、特に活氣
ある經營の中、貯金の如きは前年末に比
し、異數の好成績を示し、組合員の如何
に時局を認識し貯蓄報國の熱意に徹して
ゐるかを物語るものである。

役員は組合長には南賢吉氏が就任し、
誠實一貫する努力家として知られる吉田
稔が専務理事に、理事に多保田伊英、森
義雄、大開正行、中西與之、監事に面宗
四郎、中川謙一、山下久太郎、山岸專、
岩本仁三郎の諸氏がある。

専務理事

吉田 稔

氏は明治十一年十
月に生れ、夙に公共
心厚き人として村民
の支持大いなるものがある。

兼に村長、縣聯合會幹事を歴任し、大
正十三年二月組合専務の重任を擔ひ、爾
來一意専心、組合の實務を執掌してその

仲展に敏腕を振ひ、村自治及び産業の爲
めに寧日なき活動を續けてゐる。

石川、能美、山上村

辰口尋常高等小學校

本校は宮竹小學校と共に當村教育の二
大機關にし、て創立以來小學校令の趣旨
を遵奉し、堅實なる校風の作興に努めつ
つ幾多有能の人材を輩出し來つた縣下の
模範校である。

時局下教育の使命愈々重大なる秋、當
校は校長以下教職員一丸となつて、各家
庭と密接なる連絡をとり、兒童の個性を
仔細に調査し、實際教育の上に遺憾なき
を期してゐる。

殊に當村は温泉及び機業地として聞え
てゐる關係上、單一なる農村兒童教育を
以て教育方針とする事が出来ないところ
に教師の努力と、實際教育上の困難があ
るが、校長以下全職員協力一致、時局を
認識して體育に徳育に萬全を期してゐた

り、以て堅實有能な第二國民の薫育に當
つてゐる。

校長

從七位勲八等

湯淺 幸次

氏は、小松市の
出身にして、由緒
ある湯淺家に明治
二十八年二月二十
三日呱呱の聲をあげた。幼時より聰明を
誣はれ、小松中學校を卒へて、石川縣師
範學校の二部を卒業した。爾來縣下教育
界のため甚大なる功勞があつた。

現に當校の校長たる他、郡理科研究會



顧問、同
第五支部
長の要職
にあり殊
に理科教
育學に於
ける著述等あり、初等教育界有數の研究
家としてその權威を謳はれてゐる。
資性濃厚にして、兒童及び村民の徳望
を一身に擔ひ、いま尙専心育英の天職に
盡してゐる。

石川、能美、御幸村

御幸村役場

本村は郡の西端に位し、今江、申茶屋、
串、村松、松崎、日末、佐美、濱佐見の
八字より成り、東は苗代村、西は江沼郡
篠原村、南は粟津村及び江沼郡月津村に
接し、北は牧村に界し、西北は日本海に
面し、また今江瀉及び柴山瀉ありて魚類
豊富である。東南は稍々平坦なる田圃に
して地味肥沃、耕作に適し、農産物も亦
豊富である。

本村産業は村民の質實勤勉の民風と地
理的好條件に恵まれて、堅實な發達を遂
げ、農産物は米、大麥、西瓜、甘藷、大
根、蔬菜類が産出され、更に繭、桑等も
盛んである。

殊にラミー及び綿の栽培も、最近成果
を治め、實に縣下屈指の多角農業經營の
躍進的業績を擧げてゐる。
また水産は鯖、鯛、鰻等にして、次い

で工産、畜産共に益々進展の一途にあり、
傳統を誇る機業の堅實なる發達と共に、
本村産業の將來は一大躍進を約束されて
ゐると云つてよい。

其の他經濟、教育、村治、衛生、警備
等の各部門に於いて、村民の福利と安寧
に萬全が期され、村政指導者の眞摯な努
力と、村民の和衷協同に依り、優良模範
村として、前途益々有望である。

なほ二千六百年記念事業として、村内
に、明治天皇御休憩所保存施設、忠靈塔
等の建設の計畫が進められ、また、大正
天皇御野立所、及び御幸塚の保存施設は
既に完了してゐる。

現村長に二木八郎氏が就任し、助役に
は至誠一貫、努力奮闘の人、宮本長三郎
氏が當り、氏は勲八等功七級の帶動者で
ある。收入役には多年教育界に盡した尾
野寺政次氏及び書記に自治功勞者、勲八
等の新保清成氏その他が、夫々村政の樞
軸に活動してゐる。
氏は慶應二年七月の出生にして、老來

益々斐然、壯者を凌ぐ元氣を以て村長の

村 長
二木 八郎

重職を始め、日本赤十字社特別社員、警防團長、農會長、郡養蠶組合長等の公職を兼任して活躍を續



け、曩には縣會議員その他幾多の要職を果して、地方自治の爲めに生涯を捧げ來つた、本村の元老である。

また人格高潔にして謙讓、人に接しては温容の態度に終始する大度は、齊しく郷民の長敬を一身に浴びてゐる。

石川、能美、久常村

正八位勳六等 米田 外久

當家は本村屈指の舊家として、連綿家系を傳へてゐる素封家である。本村は有

名な錢屋五平の出生の地であり、西山等

より彌生式土器の發掘ありて、古代榮えたる史蹟に富める土地柄の關係上、當地の豪族と傳へられる當家は、由緒ある舊



家と推定されてゐる。

當家の第一代は利右衛門

氏にして當區神社の御神體を納めた敬神に篤い家柄である。爾來、善右衛門、六右衛門、利兵衛、善十郎、利三郎、理右衛門(中興の祖)善次郎、善右衛門、利三郎、善右衛門、當主と實に十二代三百七十餘年に亘つてゐる。

氏は若き時代より英俊穎悟の人にして、夙に朝鮮、神奈川縣等に奉職して、官界に在つて敏腕を揮つたが、昭和九年當地方手取川の大氾濫に際會して、郷に入り、専ら齊家整理に當り、爾來悠々自適、趣味に閑日月の生活を送り、また區

石川、能美、山上村

機業家 糀谷七兵衛

當家は本村屈指の舊家にして連綿と存續し、また由緒正しき素封家である。先代七兵衛門氏は機業の開拓者としての功勞者である。

氏は明治十九年二月四日の生れにして、村會議員、官竹用水常設委員、商工

會々長等、村内に於ける凡ゆる公職に就いて、自治産業に貢献し、村内の重鎮として信望



が高い。その他北東無盡、能美運輸等の重役

の椅子にあり、殊に氏が社長として經營に天賦の才腕を揮つてゐる官竹機業株式會社は、當地方における代表的大工場にして、隆々たる社運を示してゐる。

氏は明朗かつ温容の風格を持ち、當地方の實業、産業方面の推進力となつて、その發展に貢献してゐる。

家庭には夫人を始め、長男外美三氏(目下北支に出征中、出征前は父の工場に勤務)、同氏夫人信子、令孫等があり、和氣霽々たる家庭を營んでゐる。

石川、能美、久常村

區 長 松本 甚作

當家は本村屈指の舊家にして、六代以

前の家系は詳かならざれど、村肝煎として、代々甚右衛門を襲名し、既に六代に及ぶ家門である。俗に末寺の甚右衛門として廣く知られてゐる素封家である。

先代も終生を村會議員、區長等として衆望厚く、貢献多大なるものあり、その



衣鉢を襲うて、氏も亦、夙に村治産業の上に盡瘁し來

つた人である。嘗ては實行組合長、農會評議員、村會議員(二期)等に歴任して大なる足跡を印し、現在區長として實に二十四年に亘り執掌し、部落の擴充に専念した名實共に部落の父とも稱すべき功勞者である。産業組合理事を兼ね、また耕地整理組合長として寧日なき盡瘁を傾け、その温厚篤實の人格と共に、本村の重鎮として、衆望極めて大なるものがあ

る。

家庭は夫人みゆきさんとの間に長男甚秀氏(三十三)あり。支那事變に應召活躍した人である。氏の夫人はつゆのさんとの間に既に令孫一人あり、常に春風の團樂をなしてゐる。宗旨は淨土眞宗である。

末寺區は約一千年前住居開始を見たものといはれ、和田義盛の由緒ある丘阜性の小山に塚四五基を現存し、古代土器の出土等が附近にあることに依つても、その聚落形成の古きが偲ばれる。

當區では二千六百年記念事業として、白髭神社の村社昇格をなし、敬神崇祖の精神を高揚してゐる。

石川、能美、白江村

白江村 役場

當村は『源平盛衰記』に白江の地名を擧げられた古戰場である。新興小松市に隣接し、最近合併して大小松市の實現が種々協議されつつある。地勢土地平坦に

して、地味豊饒である。東南端の一部に丘阜性の山林地帯がある。交通は尾小屋鐵道が村の南中部を走り、道路網も年々完備してゐる。

明治四十年行政区劃變更の爲め、白江村、沖杉及び千針村の内大字金屋を合併して今日に至つてゐる。産業は農耕盛んにして、養蠶も相當量あり、また菓工品の製出等もある。殊に石川縣の特産として、天下に喧傳される九谷焼は、東村字若杉に創つたと傳へられ、現にその陶工の墓石が保存されてゐる。蘭、疊表も古き歴史を有してゐる。近年機業の發展頗る顯著にして、既に十七工場に及んでゐる。

二千六百年記念事業として、由緒ある郷土史の編纂、山林の造成等が計畫されてゐる。風俗淳朴にして、非常時局下物心二面の達成に村長始め役員を一丸として、熱心なる推進がなされつつある。當家は本村有数の古き由緒を傳承せる舊家にして、且つ素封家である。稟性高

潔清廉にして、寛仁大度の人格は、卓越

村長 若本甚二郎



多の重要問題を處理し、非常時局下物心

現在村長の重職にあるの外、縣町村長會幹事、警防團長、至誠産業組合長等の職位に在つて、眞摯なる貢献をなしてゐる。當地方の重鎮である。家庭はとん夫と圓滿の家風をなしてゐる。長男淺野助氏は中支戦線に於て名譽の戦死をされた武門の譽れ高き家である。

助役 淺野五右衛門

當家は本村の舊家にして、先代も亦戸長役場時代、

第一回の村會議員等として貢献した人である。五右衛門氏は夙に公共に志念厚く青年會を創始して、その會長となつた。産業組合監事(二期)、區長、第一産業組合専務理事、學務委員等を経て、現在郡蘭庭同業組合評議員、社會教育委員、助役等として、非常時下の村政に村長を輔佐して盡瘁し、その温厚篤實の人格と共に、衆望厚いものがある。常に中庸と正確を期してゐる人である。家庭は、とく夫人との間に、二男五女の子福者に恵まれ、和氣に富める一家である。

靜岡、富士、上井出村

村會議員 渡邊 五郎

當渡邊家は村内有数の舊家として知られ、當主を以て十六代を數へてゐる。祖父常藏氏は戸主を勤めて村治の向上を圖り、村民の信望があつた。當主五郎氏は、先代故文七氏の次男と

して明治十五年六月に生れ、上井出村猪



之頭尋常小學校を卒業、長じて名古屋輜重兵第三大隊

に入營、明治二十七年日露戦役に従軍して、赫々の武功を樹て勳八等白色瑞寶賞を賜はるの光榮に浴した勇士である。のち家業たる農耕に従事する傍ら自治に參劃し、村會議員、國勢調査委員、負債整理組合理事、衛生委員等を振り出しに現在村會議員、日本赤十字社正社員、氏子總代、信用組合理事、上井出村養蠶聯合組合長を兼任し、日夜本村の爲めに活動を續けてゐる。

その人となりも温厚にして、剛毅、言語動作も極めて明瞭沈着、今や氏に課せられた問題は多く、庶民の注目するところとなつてゐる。なほ家庭には婦徳の開え高き、きわ夫

人との間に長男治郎氏があり、目下父君を扶けて家業に精勵してゐる。

石川、能美、山上村

宮竹郵便局

當局は、昭和十四年四月、山本初男氏を取扱所長として開設。直ちに岩内、三口、筋生、宅竹、大口、灯臺笹、岩本、知佐田谷の區域をもつて集配事務を開始するに至つた。當局のある宮竹部落は、山上村聚落から觀ると、その中樞的位置にあつて、村内第一の部落である。爾來着々成績を擧げて、三等郵便局に昇格するに至つた。

局長 山本初男

當家は村内屈指の舊家にして家系正しき名門である。氏は明治三十四年十二月生、明朗潤達、篤實なる努力家にして、郵便事務の圓滑を期し、區域内の住民に満足を與ふべく、令弟二人を督勵して、事務を處理してゐる。



家庭には嚴父初三郎氏、母堂ひな刀目俱に健在、き

わ子令室との間に長男晃君、長女和枝さんほか二男一女の子福者で、賑かな生活を營んでゐる。

石川、能美、粟津村

粟津村役場

本村は郡の西端に位し、十五區の字より成り、東は大杉谷村、西は御幸村及び江沼郡月津村、南は矢田野村、北は苗代村に接し、地形南北に延びて、東南北の一帯は白山山脈連亘し、西南より馬場川、南より日川谷川、東より山田川が合流して、西方の木場湯に流れ、地味肥沃にして水稲に最も適し、木場湯は淡水魚類に

富み、西方一帯は平坦なるを以つて、美田良多、農作物が豊富である。また字粟津には鹽類、及び硫黄泉質の温泉があり、養老二年の開湯にして、其の名は海内に聞えてゐる。

村民は淳朴にして、勤儉を尊ぶ良風あり、従つて産業も日を追うて發展の一途を辿り、現在農産物は米、大豆、甘藷等、また工産物は絹織物、蠶表、莫産にして、また養蠶が盛んに行はれ、林産、畜産が之れに次いでゐる。

其の他經濟、教育、衛生等各部門に亘つて、村政指導者の熱心且つ献身的努力に依り、村民の福祉が増進され、常に村内は平和の氣が漲り溢れてゐる。

なほ村長には勝れた論見と圓滿な人格をもつて村民から敬慕される上田甚治氏が就任してゐる。

村長

氏は本村切つての舊家たる上田家に、明治二十九年三月七日に生れ、夙に公共心に富む愛郷の士と

して、現に村長の重責にある傍ら、村會議員、方面委員、農會長、統後奉公會長等、幾多の要職を兼任して日夜村勢に盡瘁してゐる。



また氏を補佐して事務に恪勤なる川下正信氏は、収入役として、村財政の圓滑な運営を圖り、公正中庸の人格者と仰がれてゐる。

職を兼任して日夜村勢に盡瘁してゐる。また氏を補佐して事務に恪勤なる川下正信氏は、収入役として、村財政の圓滑な運営を圖り、公正中庸の人格者と仰がれてゐる。

収入役

代々本村に傳はる舊家にして、先代與三松氏は助役等として、村治に功績のあつた人である。氏はその長男として、明治三十二年六月二十日に生れた。



て、明治三十二年六月二十日に生れた。

夙に大阪市役所、金澤市役所に勤務し、歸郷後、本村収入役に推され、既に二期村財政の伸張に敏腕を揮つてゐる。濃厚篤實なる人格者として衆望が厚い。

石川、能美、鳥越村役場

本村は町村制施行に當り、小島村ほか十一ヶ村合併したが、明治二十五年根上村は地籍接續の爲め、江の島村に分合し、爾來十字を以て、現在に至る。

郡の西部に位置し、東は小松町に隣接して、近年合併して大小松市建設の議もある。土地概して平坦、梯子川村内を貫流し、産業は米、麥、小麥、甘藷、瓜類等盛んにして、其の他養蠶、果樹水産等も亦見るべきものがある。現在農産物増産計畫の下に、村長を中心として村農會の熱心なる指導は、村民の時局認識と協和の實を爲し、着々として其の緒についでゐる。

村長

氏は村長に就任以來、非常時局下の村政諸般に亘り、物心力を傾倒し、其の濃厚篤實なる人格と清廉大度の風格を以て衆望極めて厚き人である。なほ自治産業の公名譽職に歴任して多大の功績あり、名實俱に本村の長老的存在をなしてゐる。現に氏は本村産業の伸張と、大



小松市への合併問題に對し、太く貢献をなしつつある。

石川、能美、鳥越村役場

本村は郡の東部に位し、東に手取川を挟み石川郡吉野谷、河内の二村に相對し

東南は尾口、新丸の二村に隣接し、北西は西尾、中海、國府、山上の四ヶ村に境す。村内概ね山林に富み、平坦地は手取川西沿部と盆地状の別宮附近に耕地となつてゐる。手取川は本村に入りて數十米の地底を穿ち一大溪谷を爲し、清潭奔流して岩を噛み岩壁を洗ひ、盛夏尚ほ寒さを感じる如き凄烈な景觀をなしてゐる。春夏秋探勝する者が尠くない。また鳥越城址等の古蹟もある。

産業は殆んど、米、薪炭、其の他農林にして、殊に煙草は古くより、鶴來葉の名を以て呼ばれ非常に盛んである。近年増産計畫の叫ばれる時局下、本村に於ても木炭増産には最も顯著なる成績を挙げてる。近時交通は白山下よりガソリンカーが村東部を手取川に沿つて縦走し、村内道路網の完成と相俟つて、村産業伸展に拍車をかけてゐる。

村長

氏は石川縣立松任農學校の出身にして、曩には村會議員、在

郷軍人分會長、産業組合理事等を歴任、現に村長に推され、名實俱に本村の指導者として村政を執掌して、貢獻多大なるものあり、其の濃厚篤實にして、寛容なる人柄とともに、衆望頗る厚い人である。氏はその他煙草組會長、農會長等を兼ね、村産業の發展に益々努力してゐる。因に氏は明治十二年の出生、陸軍騎兵軍曹にして、日露戦役に出征した往年の赫赫たる勇士で、勳七等旭日章の帶勳者である。

助役

氏は明治二十三年の生誕にして、東京獸醫學校の出身者である。

収入役

氏は濃厚篤實殊に經理に明るく、村財政の衝に當り、確實



なる才腕を以て衆望極めて篤い勤直の士である。

石川、能美、白江村

八幡尋常高等小學校

本校は創立以來、職員と児童が渾然一體となつて、和氣溢るる融和の中に、教育本來の使命達成に努力を重ね、教育に關する勅語の主旨を基調として、児童に國民道德の觀念を養成し、光輝ある我が國體の尊嚴なる所以を會得せしめ、もつて新東亞の盟主たる日本の將來を擔ふ、皇民の練成に邁進して、今日の確固たる經營振りを示すに至つてゐる。

現下非常時局に際して本校も亦熱意溢るる教職員に依り、時局に即應せる教育をなし、質實剛健の氣風と、傳統



現在當校々長の

的農民の個性を活かし、本校を中心とする全村教育の實績を着々收めてをり、幾多の業績は齊しく他校の瞻目するところとなつてゐる。
殊に児童の心身鍛錬を目的とする琢成道場は、皇紀二千六百年記念事業として現在好成绩を收め、勤勞教育の實際として、千六百歩の開墾地を設定してゐる。
なほ歴代校長は石塚與三兵衛氏以下谷川徳三郎、竹澤正吉、東幸作、谷口三郎及び現藤田校長に及んでゐる。

校長 藤田 達磨

氏は明治二十五年十月、粟津村に出生した。石川縣師範學校を卒業後、教育界にあつて初等教育の重責を双肩に擔ひ、その眞摯な努力は齊しく衆庶の尊敬を聚めてゐる。

石川、能美、御幸村 今江漁業協同組合長 駒澤作次郎

當漁業組合は北陸の名勝として名高き今江瀉、木場瀉の淡水漁業を以て組織してゐる組合である。本縣淡水漁業の最大組合たり、鯉、鮒、鰻、ばら、さす等を重要魚類として、鯉、鰻等は年々放魚なして、その繁殖に努めてゐる。
組合長駒澤作次郎氏はその組合長たること既に三十年に及ぶ、常組合育ての親とも稱すべき人である。先代久三氏も村

會議員、漁業組合長等として、太く貢獻



した有力者であつた。その男として明治十二年二月二

十二日に呱呱の聲を擧げ、夙に公共に篤き温厚篤實なる人格者として衆望厚く、嚴父の後を襲いで、組合長に就いた人である。現在能美郡漁業組合聯合會淡水部長の要職を兼ねてゐる。非常時局下産業推進の爲めに眞摯努力しつつある。
家庭は夫人つるさんとの間に、長男久明君(二十一歳)あり、現在、苗代尋常高等小學校に訓導として奉職してゐる。

石川、能美、寺井野町

寺井野 信用販賣 購買利用 組合

本組合は、大正十三年二月の創立にして、同十四年一月より事業を開始、更に

組合長 横山藤右衛門

當家は町内に於ける舊家にしてまた素封家として治

著せられる。氏は明治十六年の出生。前組合長前田孫八氏の後をうけて組合經營の衝に當り、精米機、肥料粉碎機、粉末機、細再製機等を据付けて、組合の事業

専務理事 高木太次郎

氏は明治十九年九月本町の舊家に呱呱をあげ、石川縣師範

學校卒業後小學校教育に携ること二十五年の功勞者として表彰を受け、児童には慈父の如く敬慕された、ことに氏は博物學の研究者として知られ、現に長野小學校には氏の努力の結晶たる多くの博物標本が保存され、中に猿の木乃伊は珍奇のものである。また隠れなき愛犬家であるばかりでなく、一切の動物を愛護する人間味豊かな人である。而して、健康に深く意を用ひ、運動を好んでゐる。

温厚篤實、且つ穎悟なる人格者、修身齊家に努めて人望が厚く、浄土真宗を信じて修養を怠らない。この他理事に井出清一、吉田歳幸、江口政一、田上孝、北孫助、東方利勝、山下與三松、監事は岡田與七郎、山田重康、西井松次郎、樋口庄太郎の諸氏が居り、主事の稻田喜三氏は創立十七年間の精勤者である。

石川、能美、尾口村

女原尋常高等小學校

本校はその教育方針として、飽くまで聖旨を奉戴し、小學校令の指示するところに遵ひ、健全なる身心の發育をなさしめ、より良き日本人、郷土人たらしめることを期してゐる。

また子弟をして土に親しみ自然を愛し敬虔感謝の念の養成、質實剛健にして勤勞流汗の美風涵養につとめて居り、人情の敦厚を保持し、團體的結合力を嚮導せんことに邁進してゐる。

校長 小嶋 春二

氏は明治卅三年二月三日の誕生である



石川縣師範學校の卒業。人となり温厚眞摯、典型的な教育家で教職員から生徒に至るまで、よくその人格に歸服してゐる。

然も教育行政に関する識見も高く、實際的な才腕にも恵まれ、當校の發展に鋭意努力を傾注してゐる。

石川、能美、御幸村

御幸信用販賣組合

本村に於て唯一の金融機關たる信用組合が、昭和二年一段の基礎を築いて村産業經濟の圓滑を期する爲め、四種事業を開始して現在の名稱に改め、着々業績の



事務所全景

なるを痛感し、役員以下全組合員の渾然一體となつて事業の進展に當り、殊に貯蓄思想の強調に努力しつつありたる際、政府當局の國民貯蓄運動起るや、率先之に即應して全力を傾注した結果、飛躍的

向上を見て名實共に兼備せる模範的優良組合として今日に至つた。その堅實にして充實せる内容と確固たる經營方針は夙に名聲を博してゐるところである。

本組合は現時下益に益を重んずるが、その業務の重大なるを痛感し、役員以下全組合員の渾然一體となつて事業の進展に當り、殊に貯蓄思想の強調に努力しつつありたる際、政府當局の國民貯蓄運動起るや、率先之に即應して全力を傾注した結果、飛躍的

なる成績を収め、劃期的な増進を示し得たることは、最も誇りとする所である。

更に貸付、販賣、購買利用等事業に亙り専ら堅實の方針を取り、鋭意これが運営の圓滑を期し、組合員の福利増進に邁進してゐる。

現役員は、理事に道場甚一、千歩伊三松、二木八郎、大野清吉、後藤熊吉、阿戸七左衛門、若林宗一、石原一郎、監事に中谷七三、道場弘二、新保乙松、藏義清、稻垣佐助、主事に奥平吉の諸氏が就任してゐる。

専務理事

千歩伊三松

千歩家は本村屈指の舊家にして、當主伊三松氏は先代半治氏の長男として明治六年十二月に呱呱を擧げた。

現村長二木八郎氏と共に當組合の育ての親として組合員の信望極めて厚く、農村會議員四期、其の他幾多の公職を歴任して昭和十三年五月、専務理事の重任に就いた。

爾來一意専心、組合の發展に盡力し、老來益々嬰鑠として眞摯なる活動を續けてゐる。

石川、江沼、月津村

月津尋常高等小學校

本校は明治七年蓮照寺を借用して學校を設立以來、校舎の増築及學級の増加等發展を遂げて名實共に地方屈指の模範校として、着々教育の成果を擧げ、他校の模範とするところとなつてゐる。

現在校長並に職員以下打つて一丸となり、教育に關する勸語の主旨に基き、常に兒童を質實剛健、進取敢爲の實踐躬行に導き、殊に國民道德の養成に意を用ひ、我が國體觀念を明かにして建國の本義と其の敬嚴なる所以を會得せしめ、聖戰遂行後、新東亞の樞軸たる日本を擔ふ健全な國民を養育すべく努力してゐる。特に本校は農村に適切なる教育施設をなし、以て教育の地方化、實際化に極め

校長 從七 市村 政

氏は分校村有數の舊家に呱呱の聲を擧げ、長じて石川縣師範學校に學び、優秀

の成績を以て卒業した。爾來、教鞭を執つて十年一日の如く育英に努力を重ね、地方教育界に於ても深き經驗と圓滿高潔の人格は、夙に衆庶の知悉するところである。

現在本校々長の重責にある傍ら青年學校長、社會教育委員、拓殖委員、職業連絡委員、婦人會顧問、男女兩青年團顧問等の要職を兼任、日夜寢食を忘れて本村の教化に活動を續けてゐる。

石川、能美、寺井野町

湯野尋常小學校

名陶九谷焼を以て普く知られてゐる、加賀、寺井野町湯谷に、その現代的設備を以て、佐野、湯谷、石子、和田の四區域の児童を收容してゐる當校は、明治四十一年四月の創始にかかる。

爾來教育の本旨に則り、堅實なる校風の作興に努め、教育の實際化、児童の郷土化に意を用ひ教育上遺憾なからしむると共に、將來の職業指導にも一段と力を注ぎ、是が善導教化に實を擧げて來た。殊に昭和五年創設になる學校園は、會て大阪朝日紙上に於て推稱された模範學園で、圖書教材に、林間教授に、理科指

導に資材たるの他、勞作教育にもあてられてゐる。

更に紀元二千六百年記念事業として、讀方の教材たる樹木の植栽をなして愈々その萬全に備へ、運動場の擴張、校舎の新築等内容外觀に一新を加へ、教學刷新の叫ばれてゐる折、よく教育の本旨を活かし、縣下の模範小學校たらしめてゐる。

校長

德野清次郎

現校長德野清次郎氏は、温厚謹直の人にして、その徳望は児童はじめ町村民を教化し、よく學校と家庭の連絡を圖ると共に、教職員を勵まして、一意育英の天職を完うしてゐる。

石川、能美、牧村

牧村信用販賣組合

當組合は昭和八年五月十五日、故初代理事長元田政吉、弓波勇作氏らの提唱發

企によつて設立したものである。

當組合は一人一口を主張とし、一村一組合主義を以て創立したものであるが、經營當事者は、前組合が村民に苦い經驗を與へてゐるので、經營に慎重な用意と周到なる準備を以て當り、漸次村民の信望を得て組合の基礎強固となり、幾年ならずして、本來の機能を發揮し、村經濟の動脈的發展をなすに至つた。

事業の主なるものは肥料、米の共同販賣及び醬油醸造、繩の共同加工業等である。

現在は三百九十一名の組合員を有し、役員には左記諸氏が居り、何れも村内有力者にして人望ある人々である。

理事長は岡田源作、理事に西野三松、牧野新作、栗湯藤松、上西甚四郎、増龜松、羽田六兵衛、川田清次郎、岡田源作、監事に牧本仁太松、北西次平、北野藤作の諸氏、この外創立功勞者の弓波勇作氏が相談役の如き存在として、その運営につき熱心なる助力をなしてゐる。

歴代の理事長として、初代元田政吉、次ぎは此島武右衛門、三代に牧野新作氏が就任して、組合の發展に献身的努力をなし、現在の岡田氏に及んでゐる氏もまた歴代の理事長に劣らず、これが運営に組合員の協力を得て日夜奔走してゐる。

石川、鹿島、豊川村

豊川村役場

本村は往時能登郡熊來郷中に屬し豊田と稱してゐたが、自治制施行に當り河崎と併せて豊川村と改めた。

七尾町の西北部に位し、概して山地であるが、中央は平坦にして田地が拓けてゐる。東は種ヶ島・西北は羽咋郡熊野村鉦打村に、南は笠師保村と接してゐる。

村民の多數が農事に従事せる爲、米の産額は多く、益々精勵して非常時局下農村報國に邁進してゐる。

村長はじめ役員諸氏は村政及び村民の指導に涙ぐましく盡力を致してゐる。

村長

水本長太郎

氏は明治十七年六月の生れにて、同四十年警察官を拜命して六ヶ年在職し、精勵格勤、克く人民保護の使命を全うした。大正三年九月、當村役場書記に就任、同六年収入役、同十一年助役となつて實に十四ヶ年の長期に亘つてその職に當り、村政諸般の要務に献身的努力を傾けてその功績頗る大なるものがあつた。而して昭和十一年十二月村民の信望によつて遂に推されて村長に就任、のち更に産業組合長をも兼任して只管統後農村の振興に力を竭し、以て大政翼賛の至誠を示さんと努めてゐる。

石川、江沼、東谷奥村

東谷奥村役場

本村は郡の東南隅に位し、東は能美郡大杉谷村及新丸村に接し、南は西谷村及び大白山を距て福井縣大野郡と境す。西北は山中町及山代町、東谷口村に隣接す

村内山岳重疊して、江沼平野の大川たる動橋川、大聖寺川の源の地たり、村内各部落は兩川に沿つて點在する。

往昔の沿革は詳かならざるも、寛永十六年十月前田利治大聖寺藩主に入封されるや、その藩に屬した。後明治初年に至り、江沼郡十三大區の一小区となり、以て戸長役場が置かれ、明治二十四年東谷奥村と改稱して、現在の十字を區域とし今日に及んだ。

農耕は少く川の流域に耕地を有するが本村は天保の頃より植林の先覺者清吉なる人の入村あり、明治二十四年には有志相圖り大和吉野杉の植林を開始し、爾來他地方の林業研究等と相俟つて、熱心なる山林經營者の輩出を見、遂に今日北陸有数の山村東谷奥の名を宣傳せられるに至つてゐる。

主なる産物は米、馬鈴薯、甘藷、大根、桑葉、生柿、薪炭材、等にして、木炭の如きは尤に六萬圓に達せんとする盛大である。

當局を初め各種團體との協力一致の努力によつて、非常時局下村民精神の高揚並びに産業擴充の上にも顯然たる成果を招來してゐる。古くは道路狹隘にして劍峻であつたが、近時之が大改修の難工事も完成し、産業の發展に資する處多なるものがある。

本村は又村内到る處に溪流の佳景あり殊に鶴ヶ瀨の幽翠寂々たる林間に落下する景觀音は正に隠れたる名勝といふべきである。

村長 勳七等功七級 下出平吉

氏は本村自治産業の振起に献身して、よく今日の東谷奥村の興隆を招來せる人にして、道路の改修、産業組合の創立、その他教育に文化に社會施設に文字通りの盡瘁をなせる本村の父とも稱すべき功勞者である。殊に山林王國への建設の端緒を開くに就いては自ら之に率先實行した。寡黙實踐の人である。資性濃厚寛仁にして、殊に眞摯大度の風格は

全村民の澎湃たる信望を受くる本村の巨材であり



時局下本村々勢推進の中心をなし、老來益々

要鑠として、活躍しつゝある。

助役 前田久三郎

氏は明治二十九年の生れ、現在助役として、村長を輔佐し村治産業の發展に私心を設けて盡瘁し、



その濃厚篤實の人格と共に村内の衆望厚き人である。

産業組合理事も兼ね、非常時村政の實務に協和を信念として、熱心に執筆してゐる。

家は本村四十九院の舊家である。

石川、江沼、矢田野村

矢田野村役場

本村は石川縣に於ける代表的治政産業の興隆に顯然たる成果をなした優良村である。古くは早丘性畑地のみにして、村勢微々たるものであつたが、農村の振興を目指し夙に立體的農業の確立と多角經營、殊に有蓄農業の建設を目標として、異狀の努力が傾注され、遂に今日の旺盛なる活氣充溢の矢田野村を樹立した。昭和九年經濟更生指導に、同十一年には特別指定村となり、知事初め縣當局の援助を得て、現在では本縣第一位の有蓄村であり、養蠶又縣下第一位にして、その他茶蘭蠶表等の特殊産物を始め、甘藷、馬鈴薯、大根等の産出も多額に上つてゐる。米耕も積極的な水利計畫によつて着々増産への緒についてゐる。

村當局初め各種團體と協力一丸となつて、村勢の發展に愛農報國理念の徹底に

邁進なしつゝある。二千六百年記念事業として忠靈塔の建設をなしてゐる。

本村の最近に於ける特異性に全村全員自給肥料の確取の爲め堆肥運動を起してゐる村當局の指導啓蒙は之又縣下第一たる成績を挙げ、百三十五萬貫の實績は曩に帝國農會より表彰されるところがあつた。

村長 郡農會副會長 松山宗治

名實共に本村興隆の實踐的指導者である。推進者としての眞摯なる熱誠は、自ら堆肥有蓄に愛農精神を身を以て實行し、且村産業の伸展の中軸として、徹底的多角農業の運營を樹立した本村の父とも稱すべき功勞者にして、氏は村長として治政産業の樞主たるのみならず、最も信念的篤農家たり、その眞摯濃厚にして、寛仁大度の人格と共に、本村の中興の人にして、澎湃たる信望を聚むるも故なしとしない。

現在郡農會副會長として、郡農産の伸

張に寄與し、村有蓄組長、農會長、負債整理組長等をも兼ねてゐる。

氏は本村の舊家に故宗七氏の男として明治二十六年九月に呱呱を擧げた、宗七氏も永年村會議員其の他として眞摯貢獻した人格者であつた。

家庭はまさ夫人、長男宗一郎氏、次男信氏、三男宗隆氏の三令息あり、三氏揃つて事變に應召した、名譽の軍人の家たり、長男宗一郎氏既に歸還して、尊父を輔けてゐる。日滿和合の團圓をなしてゐる。

石川、江沼、作見村

元縣會議員 宮永盛雄

宮永家は先祖累代北陸に於ける勤王の由緒深き家柄にして、代々勤王の士を輩出し、始祖正五位宮永良藏氏は加賞藩の御殿醫を勤めてゐる。

先代盛氏も識見高き逸材として衆民の信望極めて厚く、區長、村長、學務委員

村會議員を歴任して自治に功勞あり、幾多の輝く治績を遺してゐる。

當主盛雄氏は氏の長男として明治二十九年二月二十九日に呱呱の聲を擧げ、京都帝國大學に學んだ地方稀れに見る識見人格共に秀たる人物である。

曩に作見村長三期、縣會議員二期、縣事會々員、其の他地方自治に關する公職を多數兼ねて顯著な治績を示し、現に、郡地主會々頭、産業組長、農會長等の重責にあつて、眞摯なる活動を續けてゐる。

資性濃厚にして燃ゆる如き愛郷心は凡て氏の行動に反映し、地方自治の重鎮として今後の活動は一般の期待する處となつてゐる。

家庭には、淑徳の閑え高きマキ子夫人との間に、長男盛郎君、三男他喜男君、三女三重子さんがあり、氏の圓滿な人格を映して、常に和氣瀟り溢れたる家庭として、近隣の羨望の的となつてゐるものも奥ゆかし。

石川、江沼、南郷村

村會議員 幸 西 明

幸西家は累代本村に於いて農業に従事する篤農家として知られ、先代惣助氏は農會議員、用水議員の要職を勤めて村治に盡せし人で、村民からの信望は頗る厚きものがあつた。

當主明氏は氏の男として明治四十一年八月二十三日に呱呱を擧げ、長じて小松中學校に學び、優秀の成績を以て卒業後、村の發展に熱烈燃ゆる如き意氣と堅忍不拔の固き信念の下に、日夜寸暇も惜しみて活動を爲し、郡青年團長を歴任して村民の絶大なる支援のもとに衆望を擔ひ、終に昭和十二年村會議員に當選した村會議員中最少壯者として、卓越せる手腕と高潔清廉なる人格は共に今後の活動を期待されてゐる。

氏は更に村治に參劔する傍ら、農家經濟の圓滿なる發達を圖り、農家副業とし

て農工品の普及に努力し、現に農工品組合長の重任を背負つて農家の福利増進に實踐躬行してゐる。

定に一點非なき人格識見は村自治の指導格として、村民の信望を聚むるは當然で、人に接しては懇切なる態度と濃厚なる資性は氏の前途に對し尙一層の輝きを加へてゐる。

現在家庭には、嚴父惣助氏を始め、温雅なる夫人との間に四人の愛子があり、春風の如き和氣満溢れた圓滿なる一家として羨まはれてゐる。

石川、能美、粟生村

粟生村 役場

當村は和名抄、能美郡山下郷の中に屬し、中世に於て居住の豪族板津氏の名を取つて板津郷と稱したことがあつた。のち北尾村の箇所に關東より粟生彌七郎なる武者來住したところから兩村を合併して粟生村と改稱、今日に至つてゐる。

現在は事變後の統制下に在つて有機的活動が促進され、村政、教化、産業、經濟に、一村擧げて協力してゐる。

村 長

川崎與三右衛門

氏は明治五年七月四日の出生

その圓滿懇篤の人となりは夙に衆民の師表として畏敬され、熱烈にして燃ゆるが如き愛郷心に立脚して、常に本村の伸展に奔走し、現在産業組合長、災害耕地整理組合長、農會長、村會議員等の要職を兼任してゐる。家庭には、つよ子夫人との間に子寶に恵まれ、長男子は現在、七尾市安田生命七尾出張所長として活躍して居る。

石川、江沼、那谷村

那 谷 寺

北陸の靈刹として知らるる那谷寺は、古義眞言宗にして、その草創は人皇第四十四代、天正天皇の御宇、彼の有名な越の泰澄和尚が妙理菩薩の靈告により、白

山を開拓する根據として開闢せられたるものである。

御本尊は由緒深き大悲觀音にして、往



昔、自生山嚴谷寺と稱するも、花山法皇の數願あつて西國三十三ヶ所の靈場を巡詣し、北國に下向して三十三ヶ所の靈場を草創するに及び、當山嚴屋の靈地より他に求むる地なしと勅して、西國三十三ヶ所の都てを嚴洞内奥に納め、その首なる紀伊の那智山の那の字と、尾なる美濃の谷、汲山の谷の字をとり那谷寺と勅され、諸堂宇を造營なされ、自ら當山中興

開山となり給ひ、寛弘五年二月當山御座の谷法皇殿に崩御されてゐる。

爾來、九百五十年、大慈大悲の法燈は赫然として日夜御本尊御寶前に輝き、善男善女の信仰厚き人々が雲集して、後を斷たない。

一山の境内は五萬餘坪を有し、全境は一大巖山より形成し、山姿幽邃にして奇巖靈石千容萬態をなし、大巖窟所々に奇口を開き、其の合間合間に堂宇が構築され、其の絶景たるや、口筆に表し難く、本邦唯一の天然遊仙境として知られ、境内四季の風光麗しく、殊に春は椿花、秋は紅葉美を以て聞えてゐる。

また本堂大悲閣をはじめ、三重塔、護摩堂、鐘樓、鐘守堂、持佛堂、並に開山堂、客殿、紅葉茶寮、靈寶殿等の堂宇は國寶的な存在として、昔の面影を残し、本堂大悲閣は八棟舞臺造にして、唐桑材を用ひ、四方欄間兩面透彫の妙なるを以て知られてゐる。

内陣は南洋及び唐木材を用ひて建てら

住 職

木崎 隆禪

師は明治三十三年二月に呱呱の聲を擧げ、長じて高野山大學に學んだ、新進篤學の善智識として知られてゐる。



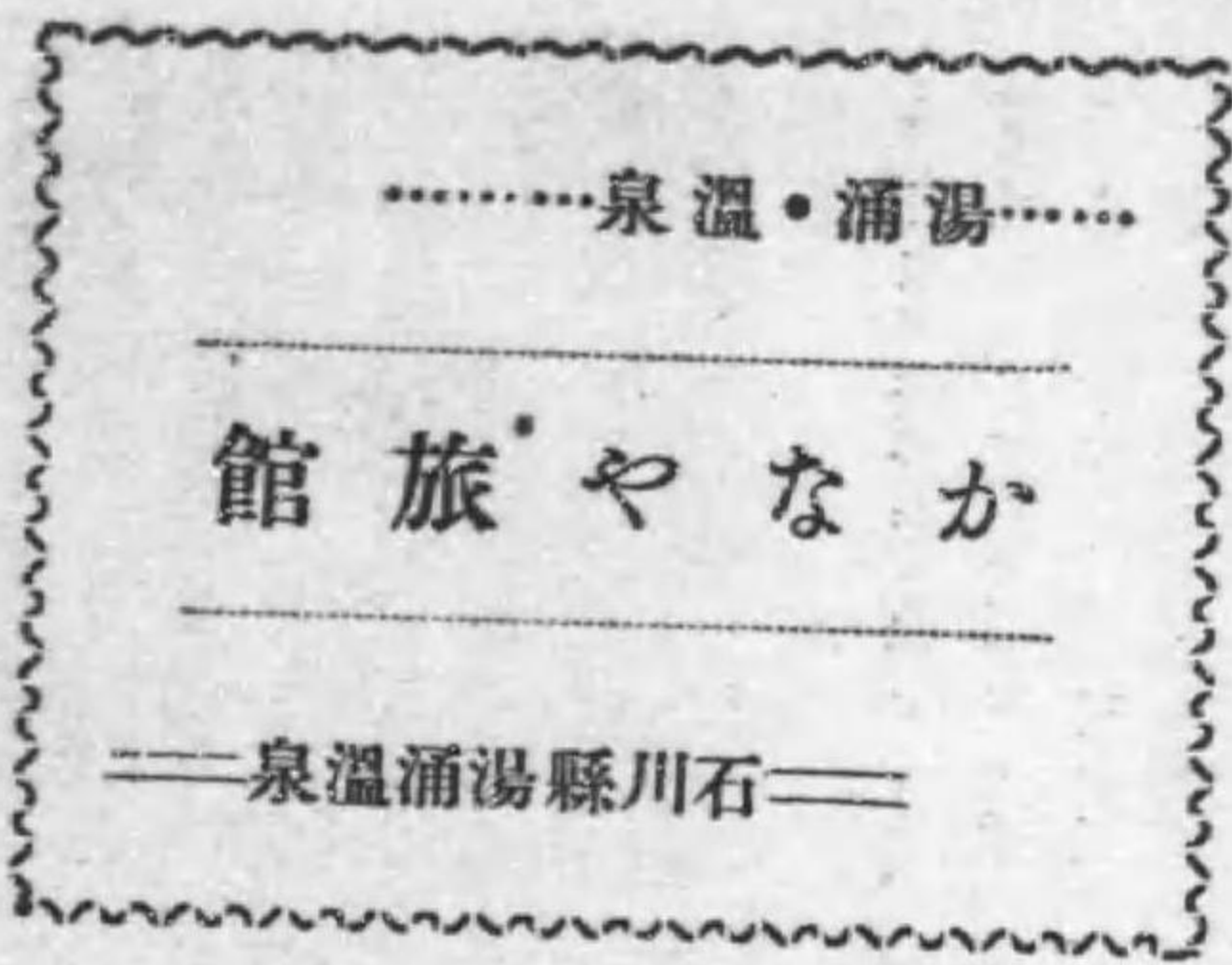
昭和九年、前任職として令名高き

觀明師の後を繼ぎ、日夜布道教化に精勵し、温容圓滿の人となりは明德の達識と共に、衆民の畏敬を一身に浴びてゐる。

石川、江沼、那谷村

那谷村 信用販賣 組合 購買利用

當組合は、昭和六年理事長村田彌三平氏等の發企斡旋によつて設立した。當時村内における各營業者間と種々摩擦を生じ、これが融和諒解に、當時の専務理事で理事長の村田彌三平氏が執掌し、商店



今日では四種とも、良好順調なる發達を見ている。ことに利用部の扱摺、脱穀、繩の再製、肥料の粉碎等、旺盛なる活動をなして大いに業績を擧げ、また購買、

販買の事業も好成績を示してゐる。役員は、理事吉本太郎吉、前川達治、森澤重作、川島與吉、田丸精光、監事は生水茂八、新谷福松、吉村半七、葛家重作の諸氏である。

理事長

村田彌三平

氏は明治三十一年四月の生れ當家は由緒正しい名門にして村内屈指の素封家である。



氏は常組合創立以來、献身的盡力をなして、現在の盛運に導いた育の親である。昭和十三年

衆望に推れて理事長の要職に就任、爾來これが發展に自己を空うして傾倒してゐる。この他、菩提耕地整理組合長に任じ本村産業界の巨頭をもつて目され、濃厚篤實にして、明徹なる手腕家である。家庭には、つた子夫人を始め、四人の

石川、能美、中海村

村會議員 **山下 久太郎**

當岩淵部落に於ては、皇紀二千六百年記念事業として、白山神社の村社昇格を企圖してゐる。常に圓滿平和なる區として、耕地整理も既に完了し、農業報國への推進に萬全を期してゐる。

山下家は當部落の草分けとして、代々由緒ある家系を繼承せる舊家である。先代久三郎氏は、區長、その他の公職に在つて、多年、部落のために盡力した人である。

當主久太郎氏は、明治十七年十一月十一日に孤聲を擧げた。夙に村治産業の上に盡瘁し、區長その他の公職に在つて貢獻し、現在は村會議員、區長、養蠶實行組合長、産業組合監事等の重職に歴任して、夫々その發展に努めつつある、女性

濃厚篤實、殊に眞摯仁慈の人格は、村民に信望頗る厚いものがある。

氏は常に村の協和的雰圍氣による、村治の刷新と、國策順應の産業推進の爲めに卒先實踐の態度を持し、殊に公共的方面に強き希念を有する、本村の中樞的材幹である。現在水利の改善と、暗渠の設置に主力を盡すことを念願してゐる。

氏は當養蠶實行組合長たること十年に及び、その功績を表彰されてゐる。

家族は、こと夫人との間に、二男四女あり、長男久五郎君(大正十年生)は有爲の青年にして前途囑望され、春風の如き圓滿平和な家庭である。家宗は浄土宗である。

石川、能美、久常村

村會議員 **中田治郎右衛門**

當家は本村に連綿の由緒を傳ゆる中田家より、三代前に分家したものである。先代庄三郎氏は濃厚篤實な人で、區長等

を勤めて貢獻した村内の有力者である。

當主は先考庄三郎氏の長男として、明治十六年に孤聲を擧げた。夙に村治産業の發展に深く思念し、公共の事に厚く、その温容寛仁にして大度の風格は、衆望極めて厚く、現在村會議員(二期)たり、また昭和十年六月、推されて助役の要職に在つて、寧日なき卒勵をなし、曩には村農會評議員(二期)、産業組合創立に參畫して、その監事たりしことあり、名實共に村自治産業の長老として重きをなしてゐる。氏の念願するところは、村内の協和にあると云ふ、以てその人格識見を伺ふに足る。趣味は旅行。

家族は、きく夫人との間に、長男昌之氏(大正五年生)のほか二男三女があり、多幸な家庭である。

石川、江沼、鹽津村

耕地整理委員 **野 實**
農會代議員

當鹿野家は三百年末の連綿たる家系を

傳へ、小鹽區第一の素封家として知られる。

先代由松氏は日露大海戦に旗艦に乗組み、輝く武功を建て勳八等に叙せられた勇士にして、歸郷後約二十年の永きに亘り區長を勤め、區のため盡力した自治功勞者である。



當主實氏は、氏の長男として明治四十年十月に呱呱の聲を擧げ、先代にも勝る公共心に富み

常に燃ゆる如き愛郷心に立脚して努力を惜まず、圓滿懇篤の人となりは高邁な識見と共に、衆庶の信望極めて厚きものがある。

現在、區長、耕地整理委員、農會代議員等の公職にあり、區の負債整理及び自治の圓滿な運営に専心し、又自作農組合の設立に努め、之が實際的方法として卒

先、立體農業、有畜農業を經營して好成績を治めてゐる。

殊に二千六百年記念事業として、本村の早魃対策に巨額の工費を投じられた貯水池の建設に當り、氏は寢食を忘れて東奔西走、終に之を完成せしめた功勞者の一人である。

寔に深き體驗と誠實に一貫する熱心な態度は、本村農家經營の指導者として名實共に恥ぢず、今後の活動は一般の期待するところとなつてゐる。

尙家族には、すみ母堂、ちよ子夫人、昌氏以下四人の愛子があり、氏の圓滿な人格を反映して常に幸福な一家を營んでゐる。

昌氏は海軍航空隊に入り、海の荒鷲として赫々たる武勳を建て及川司令官より名譽の表彰を受け、又敬氏は今事變に應召して各地に轉戦、二回も負傷したが無事歸還した勇士で、共に二人の愛息を征途に送つた名譽ある家門として近際に謳はれてゐる。

静岡、富士、大淵村

元 郡長 鈴木 平太郎

鈴木家は代々農を營み、始祖は不詳であるが、當主平太郎氏にて七百年、數十代を數へる著名の舊家である。

先代故平七氏は、伍長、先々代平兵衛氏は名主、戸長等の公職に歴任したる地方自治の功勞者である。

當主平太郎氏は明治七年四月八日の出



生、郷校を卒へ、豊橋歩兵第十八聯隊に入隊、日清、日露の兩戰役に從軍して、勳功により勳八等を賜はりたる勇士である。

氏は温厚篤實、然も事に當つて剛毅果斷、清廉潔白なる資性にて地方民の信望篤く、嘗て農會議員、初代青年會支部長

等の要職に歴任して、村勢進展に多大の功績をあげた。

現在は産業組合監事、警防團役員、氏子總代等に就任して、老齢にも拘はらず壯者を凌ぐ努力を、村政のため捧げてる、非常時局下、國家本位の思想を有つ氏の如き人物の、堅實なる手腕に期待するところ大なるものがある。

家庭には、さく夫人との間に二男五女あり、圓滿なる家風をなしてゐる。長男忠治氏は目下家事に従ひ、その若夫人とらさんとの間に令孫二人をあげてゐる。次男一彦氏は、東京市某人絹會社に、三女わかさんは富士病院に、四女玉吉、五女つねさんは何れも教育界に活躍してゐる。夫人さくさんは國防婦人會の班長として銃後の務めに多忙を極めてゐる。

石川、江沼、河南村

村會議員 桶谷 初次郎

當河南村の伸展に己を省みず、私事を

抛つて眞摯の活動を續ける桶谷氏は、當地に四代を傳承する舊家たる桶谷家に、明治二十八年に呱聲を擧げた。

早きより公共のため盡力を惜まず、區長二期を果して村内の融和を圖り、勝れたる識見と誠實に一貫した努力は、村民の支持厚く、終に村會議員に推されて、爾來四年を連續して村治に盡し、更に經濟更生委員、赤十字正社員を兼任、機宜即應の敏腕を示し、殊に殖林事業は深き造詣を以て熱烈な抱負に基き、當地の緑地運動に率先指導の任に當り、目下諸計畫を進めてゐる。

又農家經濟の圓滿な發達を期し、氏が現在積極的に有畜農業及び多角經營に實際的な模範を示し、村自治産業の向上に貢献するところ、寔に大いなるものがある。

尙、家族は貞淑温雅のひで夫人との間に一男三女があり、常に春風の如き和氣溢るる圓滿の家庭を營んでゐる。

目下長男久太郎氏は、能登青年學校の

訓導として育英界に貢献してゐる。

石川、江沼、大聖寺町

大聖寺 絹人絹物工業組合

電話一九・二五四番

本組合は大正十三年八月に、内地向絹織物不況の際に備へ、輸出織物を振興すべく、同志相諮つて創立した。

創立以來、多數の從業員を雇備して益々業績を擧げ、昭和八年共同設備として利用部を新設し、力織機及び撚絲機を多數購入するなど、絶えず業者の先驅を爲し、輸出振興に努力を重ねて來た。

昭和十三年一月より陸軍の軍需羽二重を製織し、十二月は新に縫工部を設けて軍需品加工作業を引受け、大聖寺町役場及び方面委員の援助鞭撻に依り、應召軍人遺家族、並びに一般失業者救済を主として、從業員を採用し、之れに縫工技術を指導すると共に、各家庭に死蔵されるミシン機械を動員して貸與し、國家資源

の活用を目醒しき活動を續け、其の他諸般に亘つて萬全の設備を期し、更に一段の進展を約束されてゐる。

殊に昭和十四年國策の線に沿ひ、一般農業者を組合員とし、綿羊畜産部を設けて、羊毛資源の一端を資け、斯くして農村副業の合理化を圖り、家庭工業としてホームズパンを製織せしめ、共同加工、共同販賣等、組合の使命達成に邁進してゐる。

現役員は組合長に敏腕と共に、圓滿の人格を謳はるる杉本蕃氏が就任し、其の他専務理事に豊田良男、理事に山田松太郎、松本乙男、監事に西出作太郎、後藤庄三の諸氏が、夫々組合の進展に盡瘁してゐる。

石川、江沼、瀬越村

瀬越 村役場

古は江沼郡長江郷の中にあつたが、町村制施行に際して瀬越村と改稱した。

郡の西南部に位置し、東部は傾斜面の山林地で、南に鹽屋村、北は黒崎村と境し、西部は雄大な日本海の大自然に面して砂原廣く延び、磯の香溢るる健康の農漁村である。

村民は各自の生業に精勵し、「統計は能く自治の實體を知る」の村の標語に基いて、各々自治の實踐に努め、村風の向上を圖つてゐる。

交通は大聖寺にバスが通じてゐる。

産業は農業、林業、畜産業、水産業、工礦業等すべて盛にして、その産額も年々多額に上り、瀬越漁業組合、瀬越村信用販賣購買利用組合の二組合が、非常時局下の村産業の發展のために大なる活躍をなしてゐる。

村長 紙谷 興作

氏は明治十六年九月の誕生にて、曩に神戸取引所に三十年の永きに亘つて在職し、その才腕を顯はれた。歸郷の後は代々の家業たる海運業を營みつつ力を村の爲に竭し、人望極め

て厚いものがあり、つひに昭和十三年村長の重任に推擧され、更に産業組合長をも兼ねて、専心村自治、産業の更生振興のために盡瘁しつつある。

圓滿なる資性、高潔なる人格は、正に村民の師表として仰ぐに足るものがある

區長 石川、能美、久常村

河原新保は、本村に於ける大聚落にして、往昔は非常な大聚落をなしてゐたと傳へられる。手取川に近く、昭和九年の大水害に際し、甚大なる損害を受け、田畑に泥土に蹂躪され、一大恐慌を來した。

當時氏は、自ら土木事業を創始して、その耕地整理に日夜の別なく挺身以てその復興工事に當り、之れが完成を見て、村民の大なる感謝を受けたことは、特記に價するものである。

林家は、代々久左衛門氏を襲名して本

區長 盛範

村に傳承せる舊家であるが、當主盛範氏は、同村の舊家たる島田傳右衛門家より當家に入りて養嗣子となつた人である。

明治十九年八月に呱呱を擧げた。若き頃より公共心に厚く、殊に眞摯にして濃厚寛仁の人格者である。曾つて歩兵第七聯隊に在營の時、善行證を下附され、金澤衛戍射撃大會に優勝して表彰された。

現在區長の重要を占めて、部落の融和と、産業の圓滑なる發展に勉め、また農家評議員に推され、農業増産、國策順應の推進力として盡瘁してゐる。常に村内の平和を希念し「趣味即仕事」と云ふ篤業の人格者にして、衆望頗る厚いものがある。

家庭は、こと夫人との間に、子福者として三男二女を恵まれ、長男清久氏(大正二年生)は既に氏を輔けて家に在り、眞面目なる人柄は信望があり、令息夫人じゆんさんとの間に、令孫二人がある。因に次男義盛君は小松に在り、三男正一君は京都に出て活躍してゐる。宗旨は淨

土眞宗である。

石川、江沼、東谷口村

東谷口産業組合

本組合は昭和十年十一月設立認可を受け、昭和十一年末より實際事業を開始して村民の福祉を圖り、共存共榮の組合精神を體して經營に努力を重ねて來た。

設立當初は組合員數も極めて少く微々たる事業にすぎなかつたが、發起人たる本川進氏、中川久作氏の献身的盡力に依つて着々向上の一途を辿り、創立日尙淺きに拘らず今日の繁榮を見るに至つた。

現在四種事業は堅實なる經營の下に圓滑な運営を示し、組合員の協力一致に依つて本村の産業開發と農家經濟の向上に多大の貢献を爲してゐる。

組合長 中川 久作

中川家は本村に於ける屈指の舊家として、累代連綿たる家系を誇り又素封家を以て聞えてゐる。



氏は明治十八年の出生にして、石川縣師範學校に學び、明治三十九年卒業後、

同じく教育の道に精勵、校長を數年歴任して教育功勞者として令名がある。

昭和六年教育界を退いて専ら閑白月の境地にあつたが、村民の衆望措く能はず方面委員、産業組合長、社會教育委員、防犯委員、司法保護委員等、幾多の公職に推され、老骨に鞭打つて今尙社會公共の爲、眞摯の努力を續けてゐる。

家庭には、婦徳の聞え高き貞壽夫人も國防婦人會長の重責を擔つて、夫君と共に社會公益に協力してゐる。

石川、江沼、南郷村

村會議員 東出 作太郎



東出家は、村内屈指の舊家として知られ、祖父半七氏は自治制發布以來、村會議員を勤め、明治四十年村長一期を果して功勞あり、嚴父初次郎氏も村會議員二期を勤めて、累代村政の伸展に盡力した家柄である。

當主作太郎氏は明治三十四年三月に呱呱の聲を擧げ、シベリヤ事變及び北支事變に出征して

輝く武勳を建てた勇士である。

若冠二十九歳にして村會議員の重責を擔ひ、爾來連續三期を勤めて村治の爲に眞摯の活動を續け、更に農會評議員、學務委員を兼任、克く俊敏の手腕を縦横に示してゐる。

氏は又本村産業の圓滿な發達を圖り、夙に増産計畫の進展に燃ゆる如き抱負を懷き、堅忍不拔の確固たる信念に基いて

農家經濟の福利増進に、私事を抛つて盡瘁し、圓滿懇篤の人格と相俟つて等しく村民の長敬を一身に浴び、村治の中堅的存在として今後の活動は期待される。

尙家庭には、いと母堂を始め、温雅な貞子夫人との間に、長女初榮さん、次女一人があり、常に和氣霽々とした幸福な一家を営んでゐる。

石川、能美、山上村

村會議員 善田 權作

本村岩内に代々その由緒ある家系を傳承する舊家である。先代善兵衛氏は温厚篤實なる人格者として、衆望厚き人であつた。當主はその男として、明治二十一年五月九日呱呱の聲を擧げた。夙に公共に思念する處厚く、又齊家修身に勉め、信望ある人格者であるが、昭和九年當地方大水害に際會して、災害復舊委員に擧げられ、多難なる復舊策を審議して、遂に今日の完成を見、現在又耕地整理中に

して、有志と相圖り耕地整理組合を組織なし、その副組合長として、實際的運行に執筆盡瘁してゐる。約五十町歩に亘る大工事である



が、氏初め組合員一致の協力に依つて十ヶ年計畫の下に着々進捗してゐる。氏は又現在村會議員二期目にあり、非常時局下本村自治産業の推進中核體として、眞摯精勵してゐる熱意の人である。

又區長としても岩田區融和發展の爲めに貢献すること三回、名實共に長老的存在として重きをなす人たり。資性寛仁大度殊に高潔清廉の人である。

家庭は夫人いとさんとの間に、長男善行氏（小松中學卒三十一歳）あり、現在役場に奉職中にして、岩内青年團長をも兼ね、將來を期待されてゐる。氏の夫人ゆきさんとの間に令孫二人あり

り圓滿和合の團樂をなしてゐる。

石川、能美、山上村

村會議員 和多 常次郎

和多家は村内屈指の舊家にして、累代農業に従事してきた篤農の家柄を以て聞え、先代は村會議員二期、耕地整理副組合長、山上村外二村の道路組合議員、區長、縣民力實行組合委員等の公職を歴任して功勞のあつた徳望家である。

當主常次郎氏は先代庄松氏の長男として明治二十年一月

に呱呱の聲を擧げた。氏は早

きより公共に盡さんとする志厚く、先代に勝るとも劣らぬ識見手腕共に卓抜の人として村民の支持を聚め、曩に水道検査員の任務を果し、現在村會議員三期、養

蠶組合副組合長、財源調査委員を兼任し村内部落の融和を基調として寢食を忘れて活躍を續けてゐる。

殊に氏は養蠶の將來性に着眼して、夙に其の發達に努力し、繁忙を極めて閑暇もなき村政にあつても、斯業の研鑽に指導に俊敏の手腕を振ひ、村民から産業自治の中堅と仰がれ、信望極めて厚きものがある。

資性温厚にして謙讓、其の圓滿なる人となりは衆庶の知る處で、農事研究を趣味として斯道にも造詣が深い。

家庭には、すて夫人を始め令弟義一氏夫妻と、外令孫四人があり、氏の圓滿な人格を反映して常に和氣溢れる幸福な一家を爲してゐる。

石川、能美、根上町

根上町 役場

本町は弘仁年間、嵯峨天皇の時より幾多の變遷を重ね、明治四十年七月福江、

江の島、釜屋の三村を合併して根上村と爲し、爾來、郵便局を設置して電信電話の開通、省線寺井驛の新設、能美電氣鐵道の布設等、文化的施設を完備して著しく面目を改めた。

更に縣より經濟更生村、教化村の指定を受けてゐるが、昭和九年三月町制を布き根上町と改稱し以て今日に至つた。

位置は本郡の西北部に在り、東は寺井野町に、南は板津村、牧村及安宅町に接し、北は吉田村、湊村に界し、西は日本海に面してゐる。

寔に活氣溢れた明朗なる町で、當初は縣内屈指の樂土と稱せられ、生活の安定に住民は相繼いで來り、各種工場に移築商店の集合に依り逐年發展なし、従つて産業、教育、交通、警備、衛生等の施設も着々と完備され、殊に工業の躍進振りは顯著なるものがある。

就中、機業、織物は當町産業の王座を占め年額千八百三十萬碼の廣巾物と、二十八萬反の小巾物を産し、蠶絲業、陶磁

器（九谷燒）、薬工品、醸造業等が營まれその製品の優秀なるは、最も誇りとする處である。

又町政の樞機には有爲有能の才幹を連ねて、理想的優良の町に築くべく、全員協力してをり、町長に森喜平、助役に森山喜一の兩氏が擔當してゐる。

町長 森喜平

氏は明治八年十一月に誕生せし人で、明治二十八年陸軍二等看護長となり、日

露戰役には出征して勳七等に叙せられ、後自治功勞者として勳六等を賜つた。

現在幾多の公名譽職を兼任して、日夜社會公共に盡瘁を續け、その高潔にして謹嚴なる人格は、衆民の長敬する處である。

静岡、賀茂、濱崎村

村會議員 田中 増藏

田中家は當村屈指の舊家なるも、昔

金村區火災の際、當家も類焼し、これがため年代其他が詳でない。

氏は先考由松氏の長男として明治十二年十一月十二日の誕生である。幼にして英悟聰明、人となり重厚篤實の士である。郷校を卒業の後、明治三十二年吳海兵團に入團、帝國海軍一等水兵として北清事變並びに日露戦役に勇躍出征、數々の武功をたて、その功により勳八等に叙せられた勇士である。

公職關係にあつては、曩に魚業組合監事、區會議員、天草組合監事、氏子並びに寺總代を勤め、よく其の職責を果して衆庶より信望極めて厚い。

現に推されて村會議員、信用組合監事に就任、自治産業の伸展のために活躍してゐる。

家庭には、ヨソ夫人との間に三男三女に恵まれ、長男勲氏同令室とヨイさんとの中にも令孫四男一女がある。

殊に三男惣八氏は今次事變勃發に際し出征中、昭和十三年八月十四日、石家莊

に於て遂に東亞建設の花と散つた名譽の家門である。

石川、江沼、南郷村

助業 家 役 阿部 與次平

當地方は傳統的なる機業の盛に行はれる處にして、本村に於ても村民有識者の努力によつて、古くから機業の進展は見られるべきものがある。

殊に多數ある本村機業家の中、卓越せる技術と堅實の經營を誇る阿部機業場は夙に品質の優秀なるを以て業界に名譽を博してゐる。

氏は明治十八年生れにして、早くより



機業の將來性に着眼、本村機業者間に魁して機業場を設立した。爾來、氏が中心となり従業員

を指導すると共に、機業の研究に苦節を重ねて、遂に本村屈指の機業家として今日の大成を築くに至つた。

更に氏は多忙なる事業の傍、社會公共の爲にも盡力を惜まず、曩に村會議員二期、區長、消防組頭の職責を果して、現在、助役、方面委員を兼任、村政の重鎮として縦横に敏腕を振つてゐる。

其の人となりも又村民の畏敬を一身に浴び、己を捨て、公共に盡す固き信念は誠實に一貫する態度と相俟つて益々衆望を聚むる所以となつてゐる。

尙家庭には、温雅なあきを夫人があり、令弟末吉氏は、氏を輔けて機業の道に専心没頭してゐる。

石川、江沼、南郷村

加賀織物株式会社 社保賀工場長 柿谷 清太郎

柿谷家は連綿たる家系を誇る大聖寺町屈指の舊家にして、常主清太郎氏は先代辰吉氏の養嗣子として當家を繼承した。

愛子あり、長男孝一氏は、目下京都織物問屋藤井商店大阪支店に在勤してゐる。

石川、江沼、南郷村

村會議員 梅田 傳一

梅田家は本村屈指の舊家にして、連綿たる家系を誇る由緒深き家柄である。

當主傳一氏は、先代友吉氏の長男として、明治二十七年六月二十五日に呱呱の



聲を擧げ早きより公共社會に盡さんとする志厚く、二

十八歳にして消防組頭を擔ひ、本村火防の事に活躍、また村政に参劃して幾多の貢獻を續けて今日に及んでゐる。

其の間、前記消防組頭を始め區長を勤め、現在村會議員二期、産業組合監事、負債整理監事、赤十字社終身社員、帝國

石川、江沼、那谷村

瀧ヶ原 信用販賣 組合 購買利用

那谷村瀧ヶ原地方は、古くより軟石の有名な産地として、我が國石材界に瀧ヶ原石の名を以て治著されてゐる。其の販路は北陸一圓、並びに關西方面に及んで

氏は明治二十七年十一月に呱呱の聲を擧げ、十四歳にして當時有力なる機業家吉野喜三郎氏に師事して織物業の研鑽を積み、のち大聖寺織物工場に轉じ、二十三歳まで専心斯業の習得に努め、更に大正五年に至り現在の加賀織物工場に勤務して今日に至つた。

其の間、永きに亘つて凡ゆる苦難を克服、苦節に苦節を重ねて技術の向上並に品質の改良に没頭し、終に其の努力は報ひられて當工場長の重任に推された。

爾來、工場員の指導に率先範を示すと共に俊敏なる經營手腕を縦横に振ひ、當工場をして益々發展の一途に導き磐石の基礎に置いてゐる。

氏は又努力家の一面、極めて人情に厚く、工場員より慈父の如く尊敬を聚め、圓滿懇篤の人となりは夙に衆庶の知悉するところで、家庭に於いても氏の人格を反映して和氣満ち溢れ、幸福な一家を營んでゐる。

現在温雅なユウ夫人との間に、五人の

るが、當組合に於ては、石材切出に當り、徹底的規格の統一を期し、且その運輸等に合理的經營をなして、需要家の便を圖り好評を受けてゐるが、組合諸種事業の遂行にも顯著なる成績を擧げてゐる優秀なる特殊組合といふべきである。勿論當地は農耕方面にも、溪流に沿つて相當の耕地を有し、産米輸出の程度にあり農業方面の指導擴充にも太く力を入れてゐる。名實共に瀬ヶ原方面の産業經濟の中樞的動脈としての機能を遺憾なく發揮してゐる。組合役員以下組合員を一丸として非常時局下産業増進の報國精神に邁進してゐる。

組合長

田島彌一郎

氏は明治二十年二月に呱呱の聲を擧げ、熱心組合の伸展に努力するのみならず、村農會副會長、村經濟更生委員會更生部長等の村産業の最中樞部に要位を占めて、寧日なき献身的盡瘁をなす重鎮である。資性濃厚篤實にして、寛仁大度、

常に協和の精神を以て事に當る人格高潔の人たり、村内の信望甚だ厚いものがある。

家は代々本村に傳承し、既に八代に至る屈指の舊家にして、先代平左衛門氏も村會議員、區長等をなし、人格者として信望された人であつた。

家庭は、する夫人との間に、四男五女の子福者である。長男武敏氏は目下出征中、次男敏夫君大阪に在り、三女芳枝さん(二十一)は現在家に在つて、家事見習中である。

静岡、田方、西豆村

素封家 吉川 安平

當吉川家は小下田部落に於ける由緒深き屈指の舊家にして、連綿十四代を傳へる素封家である。

累代農業に従事して篤農の家柄としても知られ、父祖の代より公共事業に參與して幾多の治績をあげ、村民の感謝を浴

當主安平氏は先代安兵衛氏の長男として文久元年十二月二十八日に呱呱の聲をあげ



劣らぬ公共心に厚く、その温厚にして謙嚴な人となりは、俊敏の識見、手腕と共に等しく村民の長敬を聚むるところとなつてゐる。

郡會議員奉職中は縦横に敏腕を振ひ、私事を抛つて公共社會のために盡力して顯著なる治績を示してゐる。

尚氏の次弟森惣兵衛氏は元田子村々長を勤めて功勞あり、末弟松本三平氏は沼津中身出身にして現在本村々長の重責を擔つて活躍してゐる。

家庭には本村警防團團長を勤める嫡男安兵衛氏、及び同夫人みのるさん外四男三女の愛孫があり、氏の圓滿な人格を

反映して、和氣霽々とした一家を爲してゐる。

石川、能美、寺井野町

長野尋常小學校

本校は創立以來、教師と兒童の緊密相和して常に和氣霽々として溢り溢れ、積極的な教育方法は凡てに反映して、着々教育本來の使命を果して今日に至つた。現在、本縣教育刷新強調事項及び國民精神總動員の趣旨を基調とし、教育の根幹たる聖旨を奉戴し、小學校令の示す處に遵ひて時勢の進展に適應せる教育を施し、以て雄大強力なる帝國臣民の養成に校長以下、渾然一體となつて協力してゐる。

殊に本校は、教員が教職の尊嚴に畏れよ、教化の源泉は自己にあり、廣く愛と敬とに生きる、の三信條を體して愛と熱とを以て兒童の輔導教化に當り、献身的努力を以て教育精神に終始一貫し、また

時局下教育の一端として、兒童に團體訓練を施し、自治並に共同の生活觀念を啓培する目的を以て組織された勤勞報國隊は、昨年に於いて越瓜五百二貫の收穫をあげ、整然たる組織下に美事な統制振りを示して益々基礎を固めてゐる。

更に兒童の愛國心の發露として、毎月「銃後」を發行して作文、圖畫の作品を慰問品として郷土出征の勇士に送つて、戦線と銃後を結び、又當地方は九谷燒の産地として、校下に斯業の者多く、陶工會を組織して郷土色豊かな手工の作品に優秀なるものを出し、共に側面より兒童の訓育に効果をあげ、其の他各施設を完備して細目に亙り萬全が期されてゐる。

石川、珠洲、木郎村

村會議員 松田 正雄

松田家は、村内有数の舊家として知られ、祖父作久衛氏は明治初期の我が國政界に大きな足跡を残した自由黨の黨士と

して、板垣退助氏に指導を受け當村自由黨の先驅を爲した逸材である。

先代熊次郎氏も又熱烈燃ゆる如き愛郷心に富み、衆望極めて厚く、自治制發布以來區長及村會議員を勤めて村治の向上を圖り、村會議員に當選せるは當時若冠二十四歳にして、如何に村民の信望があつたかを窺ひ知ることが出来る。

當主正雄氏は氏の次男として明治四十一年に生れ、宇出津高等小學校を経て養蠶試験所に養蠶指導員の教育を受け、修業後各地に轉勤して養蠶業の發達改良に努力し、のち銀行員として精勵、その堅實の手腕を謳はれた。

公職關係に於いては區長、土地貸借價格評定委員等を振り出しに現在、村會議員、軍人分會參事、氏子並檀家總代、産業組合理事を兼任し、日夜本村の爲に活動を續け、村民の自治觀念の徹底、村政指導者及び善役員の融和協力、其の他産業、教育の施設改善等の、燃ゆる如き抱負を懐いてゐる。

其の人となりも温厚にして剛毅、言語動作極めて明瞭沈着、前途を嚮望する青年指導者として今後の活動は期して待つべきものがある。

石川、江沼、東谷奥村

荒谷尋常高等小學校

本校は設立以來、教育勅語の聖旨に基き、縣當局の教育方針に敷衍して、學校



教育の全般より、智徳體の三育に亘つて常に兒童を實踐躬行に導き、殊に國民道

徳徳の養成に意を用ひ、我が建國の本義と、國體の尊嚴なる所以を會得せしめて具さに教育の成果を收めて來た。

現在、岩本校長以下、全職員一體となつて、時局に適應せる教育に努力を重ね、殊に當校職員並に兒童に依つて設立された、東谷奥村國防少年團は、整然たる組織下に善事な統制振りを見せ、如實に團體訓練の實績をあげてゐる。

其の他、聖戰遂行後、新東亞の盟主たる日本の將來を擔ふ、健全強力な國民を養成すべく、諸般の施設をなし、名實共に模範的優良校として誇つてゐる。

校長 岩木 退三

氏は江沼郡動橋の出身にして、明治三十四年九月の誕生である。

大正十年、石川縣師範學校を卒業し、爾來教育界にあつて日夜育英に努力し來た、稀れに見る人格者にして、常に敬神崇祖と、愛郷精神の昂揚に努め、また兒童の體位向上と、實踐的教育に熱烈な抱

負を懐き、智徳兼備の温厚な教育家として、職員



兒童は勿論、衆庶の尊敬を一身に浴びてゐる

現在、當校長のほか、青年學校長、青年團長、圖書館長、學務委員、女子青年團長等の要職と兼任して、當村青年の指導啓蒙に、率先指導の重任に當つてゐる

石川、江沼、月津村

産業組合長 植木 宇吉

當家は村内における舊家にして、氏は明治二十二年十月生。日清戰役に出征戦功を樹て、その功により勳八等を賜つた古強者である。

氏は青年時代より村の治政に關與して多大の業績を驗し、村の有力者として衆民の信望が厚い。三十三歳の折村會議員

に當選、現村長に協力して治績を擧げ、既に二十年の永きに亘り自治産業の樞機



氏吉字主當

にあつて、著大な貢獻をなして來た。區

長三ヶ年、消防組頭四ヶ年、學務委員一期、村會議員三期を初め、現在は産業組合長、農會代表の重要な地位にある。温



氏郎次健男長

厚篤實對人關係は極めて圓滿である。

將來は一層自治産業の發達に献身する熱意に燃えてゐる。

氏には實子がないので、養子を迎へたが、嗣子健次郎氏は今事變に出征して名譽の戦死を遂げた。

功六級勳六等、歩兵軍曹たる勇士である。

氏の親戚にして本村の誇りとする、本村出身の從四位勳二等陸軍少將醫學博士山本幹雄閣下が、この健次郎氏の戦功を讃へる誠忠記を書いて、「石川縣光華篇」に掲載され、後世に武勳が傳へられるに至つた。これがため氏は非常に感激して、山本少將に厚く謝意を表した。山本少將は廣島衛戍病院長を最後に退職十四年十月二十日永眠された。

石川、能美、山上村

村會議員 若田 藤松

當家は約百九十年八代の歴史を有つ舊家にして、代々久右衛門を襲名、先代の久右衛門氏長男が日露戰役に出征して戦死したので、中手豊次郎氏の次男であつた氏が、若田家を襲ふに至つた。先代久右衛門氏は村會議員、その他の公職にあつて盡瘁、ことに學校建築に盡力した功

により表彰されるに至つた。

氏は現村會議員として、村勢の伸張に



力を致してゐるが二千六百年記念に八幡神社の指定村

社昇格にも奔走、將來は耕地整理の實現に奮闘すべく考慮中である。

眞摯な農事研究家にして、植林等をなし、精農家たる名をなしてゐる。明朗闊達、篤實なる風格を備へてゐる人望家である。

家庭には、ふき子夫人、長男の松任農學校出の久孝氏（北支に出征中であつたが昭和十五年一月名譽の歸還をなした）、その他八人の子供さんがある。家宗、淨土眞宗、信仰心が厚い。

石川、能美、西尾村

西尾村役場

本村は郡の中部に位し、四境は山脈に圍まれ、西南は鷹落山動山を以て大杉谷村に、東は大倉岳を以て新丸、鳥越兩村に、北は中海村に夫々境して、村内貫通の縣道に沿ひ、諸部落が點在してゐる。村民の氣風は極めて質朴にして、村内には平和の氣と共に勤儉の氣風が溢れ、村政指導者の熱心なる盡力に依つて、今や優良農村として、産業、經濟、教育、衛生及び自治等、各部門に亘つて堅實の一途を辿り、物心兩面に於いて著々治績を擧げてゐる。

村長

氏は明治九年一月の出生にして、其の家系は舊く、本村屈指の由緒深き素封家である。

曩に日露戰爭に参加して赫々たる武勳を樹て、騎兵曹長に昇進、歸郷後村政の樞軸に加つて、幾多の功績を擧げ、村民の齊しく畏敬するところとなつてゐる。郡會議員並に參事會員の要職を果して

南大海村役場

本村は郡の西南端に位し、東は河合谷村に隣し、南は河北郡界に接續してをり土地は平坦にしてよく拓けてゐる。村民の勤勉なる良風によつて産業も順調なる伸展を辿り、農業及び家畜は殊に盛んである。

村政も指導者の盡力により著々と治績を擧げ、村内總親和、寔に和氣浴れた模範村である。

石川、羽咋、南大海村

今や村長の重責を擔ふ傍ら、農會長、産業組合長として、俊敏の手腕を縦横に發揮し、私事を抛つて社會公共の爲めに献身的努力を續けてゐる。氏はまた地方自治に精通して敏腕を顯はれ、其の人格も亦高潔にして大度、温容なる人として知られ、老來益々健在、村政の長老として名實共に恥ぢなきものがある。

村長 寺井榮藏

寺井家は往昔より連綿として續く舊家にして、累代農業を營む村内切つての大農である。

氏は明治七年十二月、先代榮八氏の長男として生れた。夙に公益優先の精神に富み、推されて産業組合理事、村役場助役の要職を歴任し幾多の功績をあげた。現在、當村村長三期目、村會議員を兼任、日夜寢食を忘れて公務に盡瘁してゐる。尙、長男義守氏は海軍少佐である。

静岡、田方、伊東町

伊東温泉 吉住旅館

電話五十七番

當伊東町は伊豆半島の東岸に位し、相模灘に臨み、後に天城山、箱根山等の支脈を負ひ三方山に圍まれ、山水双美の温

泉郷なるは夙に衆人の知る處で、海上には初島を望み、宇佐見の大崎、伊豆山眞崎の黛影繪の如く、晴日には遠く三浦半島を指呼することが出来る。又歴史的傳説の地として、往昔、清少納言の枕草子にも見え、鎌倉時代に於いては頼朝の寄寓、日蓮上人の配流、曾我兄弟の哀話等が織り込まれて歴史的色彩濃く、湯量の豊富と相俟つて浴軒、旅館の並び建ち、極めて盛んなるものがあり、殊に數ある温泉旅館の中、閑雅清楚を以つて誇り、吉住旅館の、新時代に即應した經營振りは、當地業者の間にも定評あるところである。

海は初島の優しき姿と共に浴客の心を樂しませ、名實共に好條件を備へた當地屈指の旅館である。

經營者 岡田喜代子

當旅館の女將たる喜代子さんは東京市の出身にして、昭和十四年當地に來り、本館を創始した。温厚にして謙讓の人となりは従業員の信頼を一身に浴び、常に親切をモットーとする經營方針を堅持して、其の發展に努力を重ねてゐる。

石川、羽咋、鉦打村

多羅山 蓮光寺

本村屈指の古刹として知らるる當寺は京都東本願寺の末寺にして、阿彌陀如來を御本尊に安置して、近郷の信仰極めて厚きものがある。

當寺は元眞言宗にして本村西谷内にありしも數度の火災に遭ひ、草創當時よりの記録を消失して詳びらかでないが、今



(社 殿)

本堂は七間に八間半の瓦葺、庫裡は九間に六間、鐘樓は九尺四方、その他諸堂宇が静寂した境内に建ちならび、清淨の氣を漂はせてゐる。

尙、寺寶として蓮如上人、實如上人、教行上人の三高僧の眞筆各一幅が傳へられ、檀徒總代には津梅與八郎、清水榮太郎、寺良一、山下喜八郎の四氏が當り、檀家は約百戸を擁してゐる。

當館は昭和十四年八月三十一日の創業にして、大小十二室の部屋を完備し、何れも一戸建の氣分を満喫せしむべく、隣室と隔絶してある。

各部屋は清楚なる調度類を配し、浴槽も頗る美麗にして清潔、最大のもは三十五名を收容することが出来、一度、目を戶外に轉すれば松川の流に沿ひ、碧

住職
圓谷 鐵城

師は昭和四年、當寺十六世の住職に就任した。



爾來、本村の布道教化に努めて、其の高潔清廉の人格は、夙に村民の尊敬を一身に聚め、智徳兼備の高僧として令名頓に高きものがある。

石川、珠洲、木郎村

村會議員 丸山 藤作

丸山家は由緒深き舊家にして、累代農業を營む篤農の譽れ高き家柄として知られてゐる。

先代才次郎氏は本村九里山尻の産業を今日の發達に導いた功勞者で、燃ゆるが如き愛郷心に立脚し、私事を抛つて公共

の爲に盡力する眞摯なる態度は、圓滿高潔の人となりと共に衆望極めて厚きものがあつた。

當主藤作氏は氏の男として明治二十五年に呱呱の聲を擧げ、長じて郷校を卒業後、父君の後を繼ぐや養蠶業に専心没頭して今日に至つた。

現在、氏の熱心且努力に一貫した研究は、着々業績をあげ、本村屈指の養蠶家として重きを爲し、現に養蠶組合長の重責を、組合創立當初より二十有餘年に亘つて精勵してゐる。

氏は又當地村民の利便を圖る爲、雜貨荒物商を經營し、更に多忙を極むるにも拘らず村會議員、氏子總代等を兼任して本村の進展に寢食を忘れて奔走し、俊敏の識見手腕を縦横に示してゐる。

石川、能美、中海村

中海村 役場

當村は小松町の東部に位し、梯川は北

山谷に源を發してゐる。土地平坦にして田地多く、南西尾村東火燈山をもつて鳥越村と北國府村とに、それぞれ隣接してゐる。

而して當村の主なる産物は米、藪にして、中、中ノ峠、嵐上麥に、下麥に、原、桂谷、岩淵、輕海、荒木田の九字より成り、交通は至つて便である。

村長 若本次郎作

當家は當村内に於ける屈指たると共にまた葉封家として最も聞えが高い家柄である。

先代故龜次郎氏は自作農の經營に専心努力し、多に家政の振興を期した人であつた。

尙、若本村長をよく補佐する人に、道上仁太郎氏がある。氏は明治二十五年の出生、現に助役の要職にある他、村會議員としても村向上のため活躍してゐる。殊に融和事業に盡瘁して、多大の成果をあげた仁慈の人格者である。

石川、珠洲、木郎村

木郎村 役場

本村は往昔、珠洲郡餘戸郷と稱し、中世に至りて木郎と稱し、眞脇、小木、松波等を總べてゐた。

眞脇は今高倉村、小木は小木村と夫々自治制を布くに至り、木郎は明治二十二年現在二十二區を合併し今日に至つた。

位置は郡の南部に位し、西部は山脈を以て鳳至郡柳田村と境し、東は富山灣に面して全村概ね山地をなしてゐる。

交通は陸路は自動車、水路は松波港より定期三航路ありて水陸交通は極めて便利である。

村内は常に勤儉貯蓄の美風が漲り、村民はそれ／＼生業にいそんで産業は順調な發達を示し、米、藪の産が多く、其の他教育、財政、衛生等、村治全般に亘つて萬全の施設がなされ、村政指導者の眞摯なる努力に依つて模範村の名に恥じない。

助役 海老名角平

當家は開祖不詳なれども當地屈指の由緒深き舊家として知られ、先代寛平氏は漁業を經營した誠實の奮闘家として、衆民の長敬を一身に浴び、地元製鹽業の盛なる頃、組合議員を勤め、また公共關係として村會議員を數期歴任して、自治に功勞を遺せし人であつた。

當主角平氏は、氏の男として明治二十二年七月に呱呱の聲をあげた。

其の人となりまた先代に劣らぬ公共心富み、常に己を捨て、本村の改善と發達に盡力し、村會議員三期を勤めて現に助役のほか、松波産業組合理事、社會教育

石川、河北、津幡町

津幡町 役場

電話一〇三番

當町は河北郡第一の都邑にして、北陸道の要衝に當り、津幡川が町の中央を貫流してゐる。西に河北潟あり、加賀、能登の貨物は、運輸の便を多く此の湖に取り、風帆の往來常に絶えない。而して當町は金澤市より三里十八町、越中國石動町より三里十五町である。明治二十二年町村制實施にさいし、現在の大字なる清水、津幡、加賀爪、庄町の各村を併合して、今日に至つてゐる。

官衙としては、金澤區裁判所出張所、

警察署、郵便局等があり、また教育機關には縣立農蠶學校、高等女學校、町立圖書館、私立自治會圖書館等がある。

町長

菅んでゐる。

氏は先考儀太郎氏の男として、明治十六年九月二十二日に呱呱をあげた。夙に自治公共に參與して、多大なる功績を致した。

現に縣會議員、町長、農會長、産業組合監事等の公名譽職にあつて、夙夜町勢の伸張發展に目醒しき活動を續け、高潔の人格と共に、その輝く業績は、齊しく衆民の感謝するところである。

操夫人は淑徳の譽れ高く、社會奉仕にまた専念してゐる。

石川、能美、白江村

村會議員 太田 庄太郎

本村屈指の機業場を經營する太田庄太郎氏は先代作松氏の長男として、明治三十二年七月一日に呱呱の聲をあげた。

今や産業報國の大旗下に地方産業の合理化と内容充實は着々と進展し、就中、農村に於ける機業の有望なる將來性は業者の固き結束と共に農家經濟の圓滿なる發達に貢獻する處極めて大いなるは言を俟たない。

當太田氏も又、村産業の一端を擔ひ、昭和八年に機業を創始し、氏が中心となり従業員と共に營々として研究努力を重ね、終に今日の盛業を見るに至つた。其の製品の優秀なるは既に業界に於いて定評ある處で、氏の堅實なる經營下に益々發展の一途を進んでゐる。

更に氏は村會議員、産業報國會長、産業組合理事の要職を兼ねて村自治産業の開發向上に、日夜寢食を忘れて活動を續け、其の勝れた識見と俊敏なる手腕は、齊しく衆民の信望をあつめるところである。

静岡、熱海市池畑

温泉ホーム あ さ ひ

山水双美の温泉場として天下に喧傳せらるる熱海は、風光と氣候に恵まれ、東海道線が開通して一層便利な位置となり旅館、浴軒を接して建ち並び、益々繁榮の一途にある。

數ある温泉旅館の中、當あさひ温泉ホームは熱海驛玄關の直前に新らしく出来た明快壯麗な近代的建物であり、東上西下の旅行者も、僅か一時間途中下車で自由に温泉氣分に浴れ、旅の疲勞を忘れることが出来る經濟的、且便利な事は他に追従を許さぬところである。

設備に於いても理想的にして細部に迄行届き、當館の最も誇りとする温泉ホーム及び温泉大プールは、數寄をこらした次の間付の貸切室と共に、顧客に充分の満足と與へてゐる。

ホームは和洋二つの壯麗な大廣間で、

圖書、娛樂具及び夏冬に對する設備も完全して多數の顧客に備へ、又温泉大プールは眞に東洋一の温泉殿堂と稱せらるる豪華なもので、浴槽内に湧出する珠玉の様な温泉は無限に満ちて、大人子供を問はず、愉快に遊泳が出来、その他婦人浴室、子供浴室、湯瀧、噴水等の設備は申すに及ばず、總體ガラス張りの日光浴室等は實に理想的施設である。

經營者 當館を經營する女將ふみさんは、神奈川県府津町の出身にして、明治二十三年十一月に呱呱の聲をあげた。

女學校を卒業してより夙に男勝り女丈夫として、明敏の識見と瀟灑明朗を謳はれ、昭和四年當市に移り食堂經營に着手した。

爾來營々として寸暇も倦まざる努力を積み、従業員一同の指導督勵に當り、温泉プールを開設して終に當館を今日の繁榮に築いた。

尙、家庭には夫君栢三郎氏があり、圓滿な一家を營んでゐる。

石川、石川、吉野谷村

市原尋常高等小學校

當校は後に手取川の大溪谷を臨み、略ぼ村の中央に位す。現に我國教育の日本精神に徹底すべく、自由主義教育の廢棄をなしたが、當校に於ては夙に皇民鍊成を教育方針として、教職員の眞摯なる教育が實踐され、教育的成果は見るべきものがある。教育施設は未しの感あるも村當局と村民の教育的關心の増大と共に、その改善も漸次行はれるものと思はれるが、村長以下の教育的努力は之を補なつて充分なるものがある。山村校として教育方法とも萬遺憾なく、全村教育の實績と相俟つて、吉野村の教育、日本人の教育が實踐されつゝある。本校は圖畫教育に於て古くより種々研究されてゐる。

尙、開設の青年學校も、擔當者の努力

と相俟つて翼賛、報國の實質的教育成果を顯示して優秀である。

校長

濃厚篤實の人格者にして、眞摯なる教育家である。本村教育のために信念的な努力を傾注して、その明敏透徹せる教育的理念と協和實踐の學校經營により、顯著なる實績を示し、村民の信望厚きものがある。

石川、能美、白江村

村會議員 新山與右衛門

新山家は當地有数の豪封家として知られ、代々與右衛門を襲名し、先代は村會議員として永らく本村の進展に盡力し、幾多の治績をあげた自治功勞者で、村民の信望極めて高き徳望家であつた。

當主與右衛門氏は明治二十三年八月十四日に生れ、先代にも勝る公共に盡す志厚く、生來の濃厚にして高潔清廉の人格は愛郷の念旺盛なると共に等しく衆民の

支持を受け、區長、收入役と重任を果して、昭和十二年より村會議員の要職にあり日夜當村の發展に東奔西走してゐる。尙、家庭には、温雅なる千枝子夫人との間に長男秀太郎君、二男英次郎君、三男隆君、次女廣子さん、三女祀子さんがあり、平和な一家を營み、目下秀太郎君は小松中學校に在學してゐる。

静岡、賀茂、南崎村

下流漁業協同組合

時局下諸統制の下にある地方農山漁村の産業開發は、諸般の革新的全面的強化に依り益々堅實の一途にあり、殊に漁業の圓滿なる向上伸展は緊急要事として、最も政府の力を致すところである。

本村に於いても、地理的好條件に恵まれ、村民の質實剛健の氣風と相俟つて、漁業の目醒しき伸展は、刮目に價するものがある。

其中樞機關となつて指導統制を司る

漁業協同組合の存在は、極めて意義深きものがある。

本組合も亦、他産業組合の設立と異らず、時代に即應して昭和十一年二月、平山延平、外岡久吉の兩氏を中心となり、創立するに至つた。

創立以來、日を迫うて發展の一途を辿り、組合員の渾然一體となつて協力する眞摯なる活動は、名實共に本組合をして益々基礎を鞏固にした。

現役員は組合長に平山清一郎、理事に久保田恭、吉田豐藏、監事に平山新藏、外岡久吉等の諸氏が就任してゐる。

組合長 平山清一郎

當家は累代漁業並に農業に従事して來た舊家で、先代伊與藏氏は區長を始め、幾多の公名譽職を歴任して村治に功勞があり、夙に村民の信望厚きものがあつた。

當主清一郎氏はその長男として、明治三十一年三月に呱呱を擧げ、長じて郷校を卒へるや、朝鮮羅南の砲兵聯隊に入營

した。

歸郷後、本村の自治に參畫し、消防組、青年團長、下流出荷組合長等を勤め現在、區長、下流漁業組合長、氏子總代、郡農會長、婦人會長等の重責を擔つて、眞摯なる活動を續けてゐる。

家庭には嚴父伊與藏氏のほか、温雅なクマ夫人との間に四男二女があり、常に氏の人格を反映して和氣が漲つてゐる。

静岡、濱名、積志村

全国マオラン栽培者組合員 榎木 優行

氏は濱名郡長上村字中田の出身にして明治三十六年三月二十八日に呱呱の聲を擧げ、大正十四年現在の榎木家へ養嗣子として迎へられた。

夙に農業經營に卓抜の技術と熱心な態度は衆庶の信望を聚めてゐるところで、マオラン栽培の動機は石丸力次氏の講演に基き、昭和十五年一月最初の植付として三千六百本を栽培するに始まり、爾來

熱心にその育成に當つて着々成果を收め、其の後同地區内に於いて氏の指導に依り川合好氏及び齋藤増次氏の各二千本を始め、四十餘名の栽培者増加を見て其數約二萬二千本に達してゐる。

氏は更に斯業の進展に努力を重ね、昭和十五年度秋植より十六年春植の分として、十五六萬本植付を目標として邁進してゐる。

本村に於けるマオラン栽培が今日の盛況を極め、益々栽培者の増加を見るは、偏に氏の努力に負ふところにして、堅忍不拔の固き信念は己を省みざる献身的指導と相俟つて村民から信望を一身に受けてゐる。

尙、家庭には嚴父進氏、母堂かやさん、たね夫人、外に長男龍雄君以下二男三女があり、氏の圓滿な人格を反映して常に和氣霽々とした一家を爲してゐる。

静岡、引佐、氣賀町

静岡縣マオラン纖維工業組合

本組合は、昭和十五年八月の創立に成り、現理事長丸井宗次郎氏が中心となつて有志相諮り、静岡縣一圓にマオラン纖維の製造を業とする者を以て組織してゐる。

設立以來、役員の献身的指導と終始一貫する組合精神の貫徹に依つて、創立日なほ淺きに拘らず發展の一途を辿り、殊に事業の内容を第一期事業及第二期事業と規定し、第一期事業として製品の検査及取締、生産調節及價格協定の統制、製品の販賣、營業に必要な物資の供給、營業に關する指導及研究調査、その他共同施設等が規定され、組合員の福祉に多大の貢獻をなしてゐる。

更に第二期事業として原料材料及設備の検査、其の他組合の目的を達する必要施設があり、整然たる組織に依つて組合員相互の向上進展を促進し、名實共に優良組合として前途極めて有望なるものがある。

現役員は理事長に丸井宗次郎、常務理

事に梅原治作、理事に島井常太郎、榎田勝治、白柳宗太郎、顧問に縣會議員森口淳三、引佐農學校長多田實、監事に鈴木玖珂雄、堀井榮山の諸氏が就任してゐる更に講事録署名委員として松本福藏、新村時雄、營業統制委員として土屋倉太郎、池田嘉吉、竹内浦吉、松本文作、井口之七氏がある。

理事長 丸井宗次郎

氏は本組合の設立に當つて、私事を抛つて活動した努力の人にして、其の入となり圓滿篤實、加ふるに誠實に終始する眞摯の態度は優れた經營手腕と共に、組合員の支持絶大なるものがある。

静岡、富士、大淵村

農會總代 植松 永松

當家は當地屈指の舊家として當主永松氏を以つて開祖以來實に八百有餘年の家歴を有してゐる。代々農を以つて生業と

なし、篤農家としての開きが低い。
先代才次郎氏は農具の改良、原種の選
擇に依る増収策等に努力するところあつ
た。

常主永松氏はその長男として明治二十
五年十二月の出生である。

資性極めて濃厚であり、村民の信望厚
く、先に消防組の組織に際しては役員に
推選されて、活動寄與するところ頗る大
であつた。

然して現在は、中野區長を始めとし、
農會總代、積徒總代、氏子總代等に就任
し、眞に無私誠心こめて或は村治に、産
業の振興に、益々盡力してゐる。

家庭には、はな子夫人との間に四男三
女あり、又母堂せきさん(六〇歳)が養孫
として健在である。

静岡、富士、今泉村

富士紙業株式會社

電話吉原一五〇・一五一番

當地は古くから製紙を以て知られてゐ
るが、近年 目醒ましい發展をなして來
た。而して常富士紙業株式會社は、本社
を東京市日本橋區通二丁目大同生命館内
に有し、その堅實なる經營方針と輝々た
る人物を網羅せる重役陣を以て、普く當
地斯業界に雄飛してゐる。

而して當工場は、昭和六年七月創立さ
れた。なほ創業日淺いにも係らず、役員
從業員の協力一致により、着々とその業
績を擧げ、既に業界一方の雄となつてゐ
る。

なほその製品は、廣く縣外にまで輸出
され、時局下原料不足にも係らず、よく
國策の線に沿ひ、製紙報國を標語として
製品の増産優良化を期してゐる。

因に當社主腦部は、専務取締役佐藤
信吉氏を推し、専務取締役は佐野富男氏
取締役には齋藤貞作、齋藤佐一、山本慶
造の諸氏が任じ、監査役は山田金吾、矢
崎角藏の兩氏が、それぞれその職責に當
つて、私衷協同、社業に盡瘁してゐる。

石川、能美、中海村

區 養蠶組合長 大間 正行

當家は代々次郎右衛門家として、由緒
ある家系を傳承し來つた家柄である。

祖父は役場收入役其の他村政を執掌、
多年貢獻した人である。殿父市松氏は村
長、その他多數の公名譽職に推されて、
村政産業の上に巨大なる足跡を残した自
治功勞者であり、また産業組合の創立に
多大の盡瘁貢獻をした。その温雅寛仁に
して、高潔大度の風格は、村人の尊敬措
かざるところであつた。

當主正行氏はその息として、明治二十
八年三月二十日に呱呱を擧げた。殿父の
衣鉢を承けて、夙に公共に篤く、且つ農
産擴充推進の爲めに身を挺して、研究に
勉める篤農實踐の人にして、温厚篤實に
して大度なる人格と共に、村内の信望厚
く、現在、區長、經濟厚生委員、農會總
代、養蠶實行組合長、神社總代等に推選

され、眞摯なる盡瘁をなしてゐる。殊に
産業組合理事たること既に三期に及び、
組合發展の爲めに盡力貢獻するところ頗
る多い。

常に村内の圓滿融和を希求し、且つ是
是非々主義を堅持して、減私奉公を第一
義とし、村各般の仲展協和に勉めつつあ
り、名實共に本村自治産業の中樞的存在
をなしてゐる。

家庭は、みよ夫人との間に、三人の子
女あり、長女律子さん(大正十一年生)は
靜雅な麗人にして、一家常に圓滿春風の
まどろみをなしてゐる。

石川、能美、久常村

自治産業 故北野長松

當家は肇祖以來既に二百五十年を傳承
せる舊家にして、代々素封家として、名
望厚い家柄である。

先代庄助氏は助役その他に歴任して、
村治の上に大なる足跡と貢獻を残した人

であつた。

長松氏はその男として明治三十三年に
生れ、夙に公共のことを希念して、青年
時代より齊家修身に勉め、その温容寛仁
にして圓



満なる人
格は、穎
悟明敏な
る才腕と
共に、衆

望殊に厚く、推されて村助役、産業組合
長となり、太く治政産業の仲展に盡瘁し
た。殊に村會議員たる事二十餘年の永き
に亘り、名實共に本村の自治功勞者とし
て尊敬を受けた。昭和十二年六十四歳に
して長逝したが、その功績と人格は、村
民今に追憶の情新なるものがある。

當主榮治氏も亦歴代俊秀の血を承けて
専心齊家修身に勉め、温厚なる人として
村内外に信望あり、近き將來、村治産業
の樞機を掌るべき材幹である。
家庭は國防、愛國兩婦人會の役員たる

きよ夫人との間に三男二女に恵まれ、長
男庄助氏(大正八年生)は、松任農學校卒
業後、幹部候補生として軍務に格闘中
あり、君も亦將來有爲の青年として囑望
されてゐる。

石川、能美、久常村

村會議員 丸山 仁三郎

當家は、本村に既に六代を傳承せる家
門として、先代を傳右衛門氏と云つた。
當主仁三郎氏は、本村秋當區の舊家に明



長男故長作氏

治十二
年十一
月十八
日に呱
嗚を擧
げた。

のち當家の養子に迎へられた。實父母は
何れも八十餘歳の高齡を以て、今なほ健
在である。氏は丸山家を繼ぐや、夙に齊
家修身に努め、殊に農事の研究に厚く、

篤農家として精勵なし。一代にして良く家屋、庫、山等を造成せる人にして、その庫の如きは数千金を投じて完備せると、近隣第一の稱がある。

氏はまた村自治産業上にも熱心なる盡瘁をなし、その温厚篤實なる人格と共に推されて村會議員となり、村政に貢献してゐる傍ら、農會評議員等にも歴任してゐる。

家庭は、はつ夫人(明治十二年生)及び令孫二男一女がある。長男長作氏は若くして俊才の聞え高かつたが、不幸不歸の客に入りしは惜しむべきである。

石川、能美、山上村

村會議員 東 又次

當家は本村有数の舊家にして、連綿の家系を傳承してゐる。その判明せるものみにも、又右衛門、孫右衛門、常右衛門、孫右衛門、又右衛門及び當主と、既に六代に亘り數百年を経てゐる。

當主又次氏は夙に村自治産業に盡瘁大なりし人であるが、曩に村役場に奉職十年に亘り、また村會議員、區長、實行用水議員として貢献し、現在に於ても村會議員(二期)、區長(三期)、産業組合理事等の要職にあつて、時局下國策的物心兩面の揚達に専心努めつつある温厚篤實なる人格者にして、且つ眞摯なる農事研究實踐の人として、衆望厚き重鎮である。

家庭は、みな夫人に、長男孫一氏(大正五年生)は、現在農業技術員として囑望される人である。

因に、令弟外次郎氏は、小學校長の職にあり、次弟慶之助氏も亦實業界に活躍して、夫々一家をなしてゐる。

石川、能美、御幸村

今江尋常高等小學校

當校の前身は明治五年學制頒布に基き本村願勝寺に於て義塾設立に始まり、後數度の分校、改稱、改築を経て、同四十

四年校名を今江尋常小學校と改稱するに至つた。

爾來教室の増築、講堂の改築、御眞影奉安殿の造營、大楠公銅像の建設等、教育の進歩と共に面目を刷新し、歴代校長

(奉安殿)



及び教職員の指導教育宜しきを得て、縣下有数の模範校として幾多の人材を輩出してゐる。

その教育方針とするところは、常に教育に關する勅語の御聖旨に則り、國體の顯現、勞作の尊重、體育の重視、個性の暢達、郷土の適應、生活の指導、公民的

陶冶等教育の萬全を期し、剛健、親和、勤儉の校訓は兒童に徹底してゐる。尚、村立今江青年學校は、その設備、機構に於て模範とされ、縣より表彰された。

校 長

正七位勲八等 矢地 源次

氏は明治二十三年二月二十八日、安宅の關の所在地として全國に知られてゐる安宅町の舊家に生れた。

明治四十四年石川縣師範學校を卒業せる郡教育界の元老的存在にして、現に縣教育會代議員、郡婦人會長、第二支部長の要職にあり、一意育英の天職に滅私奉公の誠を竭してゐる。

殊に青年學校指導の郡下に於ける權威であり、温厚なる資性と進取の氣性とは相俟つて、村青年の信望を双肩に擔つてゐる。

石川、石川、内川村

内川 村役場

本村は南北に細長く、概ね山地にして郡の東南部に位してゐる。金澤市の南に接して、文化、物資の出入も殆んど金澤市に依據するところ多く、古くは鶴來町とも往來繁きものがあつたが、村内道路網の完備は益々金澤市との交渉を深からしめてゐる。

も傳へられ、現に落武者遺物が保存されあり、或ひは、安徳帝の養和六年の誤りならんと思推される。また後谷より西へ河内村柄尾に通ずる山道があり、境界近くに「四句の岩」と稱される岩壁に四句の詩を刻むも、今はその半ばを明確にしない。弘法大師の揮毫と云はれるも、當地史實に参照すれば春燈大師かとも見られる。

名勝冠ヶ嶽城址は、その風光と共に由緒傳説等を傳へる地である。

村 長

佐藤外二郎

本村自治産業の發展の爲めに、各種團圓長、區長、村會議員等の村中堅層の協力によつて、その

農耕方面は稍々未しの感あれども、畜産の劃期的發展に努め、地形上多角的立體農業の確立を急務とされ、當局並びに關係諸團體の戮力協心によつて、緒々之れが實踐に入るべきものと思はれる。風俗醇良にして、人の和に富む村である。

本村の歴史は極めて古く、傳説に養老元年人家を作りたりと云ふも、字後谷には、平家の落人が初めて居住を構へたと



佐藤外二郎氏は、本村の由緒ある舊家に

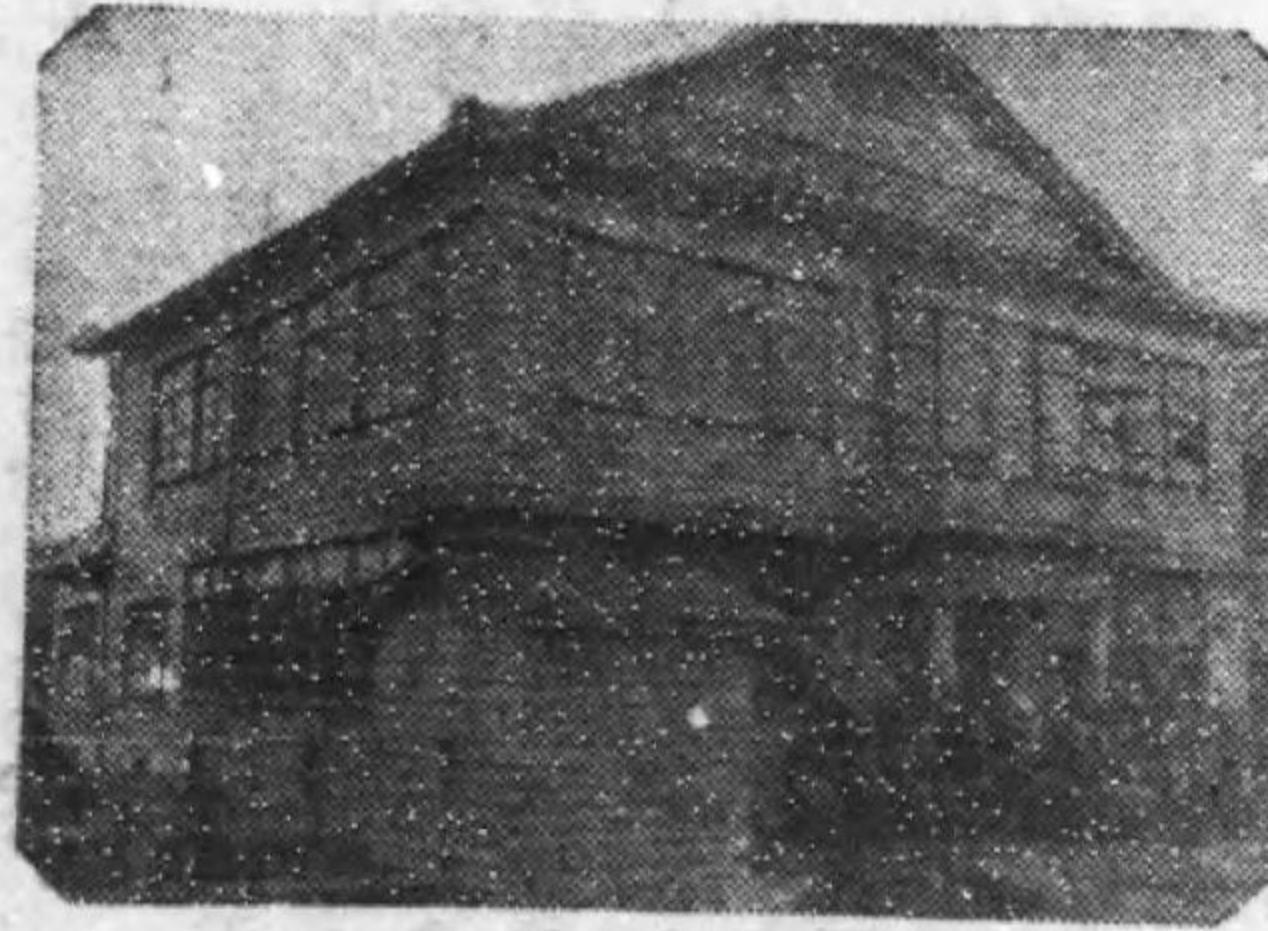
明治二十三年十二月生れ、曩には助役、村會議員等に歴任して、本村の實踐的指導者として、その温厚篤實、寛仁大度の人格と共に信望厚く、現在は村長の傍ら農會長、森林組合長等を兼任して、本村産業の全面的揚進に努力しつつある。

家庭は、夫人不幸にして歸幽し、三男二女の子あり、氏の人格を反映して醇雅なる團樂をなしてゐる。

本村助役並びに村會議員として、村長に協力して内川村の興隆に拍車をかくる人々には、助役城川徳三郎、村會議員山本庄作、山田徳助、長田松太郎、藤田藤九郎、水内與四兵衛、高野權二、水上仁右衛門、元尾武喜、大谷七兵衛、大岸清太郎、城川徳三郎その他の人々がある。

石川、能美、栗津村 信用販賣 組合

本組合の堅實にして充實せる内容と、確固たる經營方針は夙に名譽を博してゐる。



事務所全景

果、豫想以上の好成绩を収め、異数の増進を示し得たることは、本組合の最も誇りとするところである。

また本組合は保證責任の組織にて四種兼營をなし、就中貸付は、専ら堅實の方

る。戰時體制下に於ける組合事業の重責は愈々重大なるを痛感し、特に貯金思想の強調に努めつつありたる際、政府唱道の國民貯蓄運動起るや、率先之れに對應し、

針を取りつつ、鋭意金融の圓滑を期し、一組合員の福祉に貢献してをり、其の他販賣、購買、利用の各事業に亘つて、完全な運營が行はれ、特に二千六百年記念事業として事務所の新築、雜貨部の新設、組合發展を基調とする諸施設等が逐次完成を見て、本村産業經濟の中樞として全機能發揮してゐる。

現役員は組合長に上出衛、専務理事に島田政太郎、理事に新谷市次郎、中西作松、山口鹿之助、清水長作、松村重保、北榮松、監事に高地助次郎、田中龜松、村中竹松の諸氏が就任してゐる。

なほ専務理事の重任にあつて、組合事業を双肩に擔ひ、以て俊敏の手腕を縱横に示す島田氏の活動は、刮目に價するものがある。

氏は組合創立當初より、二十二年間の永きを組合の爲めに盡力、組合の生字引として組合事務その他に精通してゐる、曩に郡部會より組合功勞者として表彰されることがあつた。

組合長 上出 衛



氏は大正元年に颯の聲を擧げ、長じて小松中學校を卒へて岐阜高等農林學校に學んだ、新進氣鋭の士である。

昭和十五年三月、組合長の重職に就くや、克く組合を發展に導き組合員の支持極めて厚きものあり、殊に廣域農業への實踐的農事研究家として、その成果は將來期待されるところ甚だ大である。資性温厚眞摯の人格者である。

石川、能美、栗津村 符津尋常高等小學校

本校は創立以來、職員と兒童渾然一體となり、和氣霽々の中に、着々教育の成

果を収めて發展を遂げ、現在新東亞の盟主たる日本を脊負ふ大國民を養成すべく教育に關する勸語に基き、兒童をして實踐躬行に導き、以て智育、德育、體育に夫々献身的努力を續けてゐる。

殊に時局に適應した教育施設を完備して兒童のために萬全を期し、高邁なる教育方針の徹底と共に熱意漲る各種行事は如實に本校の面目を物語るものである。

尙、當地は小松製作所を始め、工場、會社相繼いで創立し、必然的に大聚落の經路を辿りつつあり、急激な人口増加の現狀は、本校の將來に學級の増加及校舎の新築等が計畫され、更に規模と設備の擴張充實は重要な問題となつてゐる。

校長 穴田 泰紀

當家の先祖は加賀藩士にして、會祖父は藩の學事を執掌し

石川、能美、栗津村 栗生村 信用販賣 組合

を續け、現に本校々長のほか方面委員、學務委員、社會教育委員、職業紹介所連絡委員、校下婦人會長、女子青年團長の要職を兼任、夙夜學校を中心として本村教化に献身的活動をなし、深き經驗と圓滿なる人格と共に衆民の尊敬を一身に聚めてゐる。

本組合は、大正十五年村内有志相諮りて創立總會を開催、昭和二年に設立認可を受けた。設立以來、既に十五年の歴史を有し、村産業の開發と農家經濟の安定に多大の貢獻をなして今日に及んだ。

其堅實な經營方針、組合員の一致團結役員の献身的指導、整然たる組織、何れも躍進の一途を示す本組合の一面を物語るものにして、特に信用事業部並に利用部の運營は、日を追ひて活潑なるものがある。今後、副業として薬工品の共同販

費をはじめ、改善を目的とせる刷新的な諸計畫の實施に俟つて、本組合の前途は實に洋々たるものがある。

現役員は理事長に川崎與三右衛門、理事に近藤庄平、近藤作松、野崎與作、柴田乙吉、浅井長二、高崎他次、西尾外茂、二、高崎長次郎、監事に中野榮作、田中常一、浅井外治、吉光吉三郎の諸氏が専心組合の進展に盡瘁してゐる。

實務擔任者

當家は村内切つての舊家にして、先代由田 芳正 仁松氏は多年村會、

其他公職に歴任し、多大の貢獻を爲した人である。當主芳正氏は氏の男として明治三十八年三月二十五日に呱呱の聲を擧げた。

氏は支那事變より歸還せる勇士にして二十七歳の時、村會議員に推され、三期を重任した信望厚き人である。

また産業の開発向上にも努力を惜しまず、産業組合監事、學務委員等の要職を歴任し、村政の中堅的存在として、明敏

な機才と高邁なる識見を誦はれ、前途を囑望されてゐる。

資性剛毅瀟灑、眞摯なる態度に終始し、家庭も氏の圓滿な人格を反映して、常に和氣が溢れてゐる。

静岡、磐田、袋井町

法多山 尊永寺

本山は神龜年間、聖武天皇の勅を蒙り當時の高僧行基上人が、御本尊正觀世音菩薩を自刻し給ひ、草創せる處にして、眞言宗に屬してゐる。白河天皇、後白河天皇の御信仰篤く、勅使參向ありて御寄進の佛器及び佛畫は今尙寺寶として傳へられてゐる。

而し永録年間に兵火に罹り、幾多の寺寶を烏有に歸したことは、寔に残念の極みであるが、御兩帝御寄附の兩界曼荼羅を始め、數拾點は幸にも今日まで保存されてゐる。

曩に一山十二坊を存せしも、維新の際



本堂 建立して並びたる老杉に團まれば、眞言宗の靈場

としてその名に背かず、また、ひば園、紫雲ヶ嶽、櫻樹、牡丹園の四季それ、眺は參詣者の目を樂しませ、さながら一大公園を形成してゐる。毎年行事として修正會、田遊大會、厄

除大護摩供、星供大祭、初午大祭、春秋

彼岸會、四萬六千日、土用丑の日大祭の諸法會が嚴修され、厄除觀音として參詣者の絶ゆることがない。また社會的な活動として日曜學校、保育園、保健上の公園施設等が實施されてゐる。

尙當寺は、故久邇宮邦彦王殿下を始め奉り、皇族その他知名人士の參詣すること再度に及んでゐる。

住 職

資性の溫雅と人格の高潔と學殖偉大とを以て名譽普く高き

大谷 純信 師は、當山法主として就任以來、日夜寢食を忘れて當地の布道教化に盡瘁し、檀徒をはじめ衆民の尊敬を一身に浴びてゐる。

昭和十四年當七尾市の市制施行となるや衆民の絶大なる支持の下に、氏は堅忍不拔の固き信念と燃ゆるが如き愛市の精神を藏し、市會議員の要職を擔ひ、市政の改善向上に盡瘁して今日に至つた。

其の間凡ゆる難問題に遭遇するも、克く當初の素志を貫徹して快刀亂麻の手腕を示し市民の信頼と尊敬を浴びてゐる。資性濃厚篤實、卓絶せる人格識見は素より、今後の活躍は一般の信望を深くすると共に、大いなる期待となつてゐる。

尙ほ氏は、日本海電氣株式會社能登支社に三十年勤続の經歷を有して、有爲の材幹と誦はれ、當社に於いても重きを爲す人である。

石川、七尾市古屋敷

市會議員 飯田 久太郎

七尾市會議員の要職にありて敏腕を振ふ飯田久太郎氏は、現在七尾市矢田に

石川、江沼、粟津驛前

株式會社 栗津工場

當社は昭和八年十月、初代社長吉田熊太郎氏の盡力によつて、資本金十萬圓を

以て創立され、のち現社長地田延太郎氏に承継されたものである。

事業は内地向織物を主としてゐるが、非常時局下、材料配給割當の減少に因つて、近時人絹交織に進出し、大いに業績を擧げつつあり。殊に特製品たる紋織及び朱子は當社の重要製品として、その品質の優良性は斯界に噴々たる聲價をあげてゐる。

販路は、名古屋、大阪、金澤、福井、石川縣小松市等の諸都市を主とし、逐年擴張を致してゐる。

栗津工場は昭和九年七月の設立にかかり、日いまだ淺きにも拘らず、その事業の進展は頗る目ざましいものがある。

現在工場には織機百六十臺を擁し、年産額約八十萬圓の巨額に達し、尙著々として増産の一途を辿りつつある。

工場支配人山崎虎吉氏は明治三十六年に石川縣小松市に生れ、夙くより業界に身を投じて精勵一貫よく今日の地位を築き上げた敏腕家にて、少壯有能、その將

來は大いに囑望されてゐる。

社長

池田延太郎

氏は大阪の出身にして、多年實業界にあつて活躍し、現に當社長たるのほか、池田機業株式會社の社長をも兼ねて、當地方機業界の重鎮として敏腕を揮ひ、斯界に貢献するところ極めて大なるものがある。資性明朗豁達にして頗る情誼に厚く、氏を知るあらゆる人に敬慕されてゐる。

静岡、濱松市佐藤町

橋本紀平方

全國マオラン栽培者組合 總本部長

石丸 力次

氏は明治三十年十二月十二日佐賀縣佐賀郡東賀村大野に於て藤一氏の長男として生れた。大正六年佐賀縣立師範學校を卒業し、同年四月より中川副小學校に教鞭をとりしも、大正十一年四月、京都美術學校に入學し、昭和元年同校を卒へた。其の後西山塾に於て滿五ヶ年間美術

の研究に没頭し、昭和七年歸郷した。

氏は當時よりマオラン栽培の研究に趣味を持ち



當時農林省より我國土に於けるマオラン栽培

の不可能、且つ有効ならざるを警告ありしを確めるべく、鋭意研究に専念し、これが實際と相違せるを知り、先づ自己の田地に六町餘歩の栽培をなした。これ實に、組合設立の源である。其の後種々研究の結果、九州、四國、靜岡縣、愛知縣が栽培に適することを見極め、愛知、靜岡各縣に事務所を設け、昭和九年七月全國マオラン栽培者組合の完全なる組織を作るに至つた。

地は靜岡縣小笠郡川城村、同縣榛原郡萩間村黒子、濱松市佐藤町、愛知縣豐橋市小池町、寶飯郡國府町蔵子にして、其の他岡崎市、大府、清水、靜岡、大宮の各都市に三百二十ヶ所の出張所を設け、時局下纖維原料として其の發展は實に目醒しいものがある。

石川、能美、鳥越村

鳥越 信用販賣組合

現下非常の秋に當り、地方農村の産業開發と農家經濟の圓滿なる發展は最緊急事として今更贅言を要しない。

本組合も又他町村と同じく産業進展に寄與すべく大正十三年三月、現組、長清川克己、橋本我何人、元事務理事石倉敏

英、故西口治三郎の四氏が中心となりて奔走努力の結果創立を見るに至り、爾來共存共榮、相互扶助の組合精神の下に堅實なる機能を發揮し着々業績を擧げ、終に輝く今日の確固たる基礎を築いたのである。

而して信用、購買、販賣、利用の四種事業は目醒しき躍進振りを示し、就中、信用事業部の伸張は特に顯著なるものがある。

其の他米、木炭、煙草の増收と販賣には眞摯なる研究がなされ、名實ともに本村經濟の中心として充實せる機能を遺憾なく發揮し、産業報國の國策線に添ひつつ萬全を期してゐる。

現在役員は、理事十四名、監事五名の有爲なる才幹を連ねてゐる。

組合長

清川 克己

氏は創立當初より事務理事として活動

る誠が多い。

を續け、後引續き組合長に推され、衆望



極めて厚く、當組合育ての親とも云ふべき人である。

資性温厚篤實、その高潔圓滿なる人となりは夙に村民の知悉する處で、卓抜なる事業的手腕は今後一層期待される。

靜岡、田方、西浦村

立保浦漁業協同組合

電話立保一五番

本組合は實に明治三十六年の創立にかり、同組合中、縣下最古のものとして治く知られてゐる。

昭和十二年四月、從來の組織を改めて保證責任となし、今日に及んでゐる。

現在、組合員は三十五名をかぞへ、幹部統制の下に平和な仕事をつづけつゝあ

る。役員は、組合長渡邊傳、理事野村庸一、高田興一郎、監事高田徳次郎、野村武雄の諸氏が就任し、組合の發展に貢献するところ多大である。

組合長

渡邊 傳

渡邊家は當村立保浦に於ける有數の舊家にして、代々農耕に精勵する傍ら漁業を營んで來た家柄である。

先代故米造氏は生前に、區長その他の要職に推されて自治の功勞者としても知られてゐた。

當主傳氏はその長男にして明治三十四年八月十八日の出生、靜岡縣准教員養成所を卒業した。前に立保區長二期、消防小頭、西浦青年團幹事を歴任し、現在日本赤十字社正社員、西浦村中部産業組合監事を兼任、本組合の没すべからざる功勞者として重き存在をなしてゐる。

資性温和にして重厚、人格高潔圓滿にして眞摯廉直の士である。その謹嚴端正なるは人々の畏敬するところである。は

る子夫人との間に四男一女あり、長男智夫君は目下小學校に在學してゐる。一家極めて圓滿なる良家庭である。

石川、七尾市矢田

市會議員 關軒 定吉
正八位

當家は由緒正しき舊家にして、累代彦左衛門を襲名し、殿父彦左衛門氏は永く村會議員を勤め村治に幾多の貢献を爲した功勞者で、村民の信望極めて厚きものがあつた。

當主定吉氏は彦左衛門氏の男として、



明治十八年三月一日に生れた。長じて松任農學校に學び抜群の成績を以て卒業した逸材で、卒業後獸醫として活躍し、更に矢田郷村會議員を勤め、大正十四年に至り

て矢田郷村産業組合の創立となるや初代組合事務理事に就任し、九年在職して當組合の基礎を確固たるものに築き、村民に感謝される處となつてゐる。
昭和十四年市會議員に當選し、衆望を双肩に擔ひて社會公共の爲寧日なき活動を續け、卓抜の手腕と圓滿なる人となりは共に市民の大きな信頼となつてをり、今後氏の活動は、一般より期待されてゐる。

尙ほ家庭には、内助の功厚き君乃夫人との間に長男勝行君、次男實行君があり目下長男勝行君は七尾商業學校に、實行君は金澤中學校に夫々勉學してゐる。

靜岡、田方、戸田村

前島醫院長 前島 直次郎
正八位勳六等 電話四番

當地方圭刀界の權威者として令名高き氏は明治六年五月十五日の生れである。明治三十一年抜群の成績を以て慈惠院

靜岡、田方、小室村

前村長 上原 信式
電話川奈一四番

醫學校(慈惠大學の前身)を卒業した。而して實地の研修に従ふこと數十年間内科一般を専門となし、技術の妙、診療の懇切等、斬新なる機械の設備と相俟つて患者の意を迎へた。
昭和十一年九月現在の地に開業するや氏に對する讚辭は人より人へと宣傳されて當地方に鳴り響いてゐる。現在田方郡醫師會理事、縣醫師會議員等の要職に推されてをり、斯界に重きをなしてゐる外學校兒童の保健、體位向上等に盡瘁貢獻してゐる。
尙氏は、正八位勳六等に叙せられてゐる退役軍醫少尉でもある。
家庭には賢夫人の閑え高きフミ子夫人との間に三男二女に恵まれ、常に和氣藹藹たるものがある。

當家は創家せられて以來漁業を營じ、當地有數の舊家である。當主信式氏は明治十三年七月十九日に生れた。

夙に郷村の各方面に於いて活動し、村會議員四期、村長一期に推戴せられて、村治に精勵し、又川奈漁業組合長を十年間の久しきに亘つて就任、組合の向上發展に多大の貢献をなし、名組合長の名を博した。

實に氏の一生は、地方自治に捧げられたものであり、多年に亘る功績は枚舉に遑のないばかりである。されば今なほ人望頗る篤く衆人尊敬の的となつてゐる。資性濃厚篤實にして沈毅寛仁であり、人格識見共に卓越した器量抜群の逸材である。

石川、珠洲、寶立村

寶立漁業協同組合

當組合は内容の堅實なること、實績の良好なること、縣下漁業組合中最も有能

な組合である。

組織は保證責任にして、事業に蕃殖保護及増殖施設、船溜船揚場及び漁礁の設置、販賣施設、購買施設、資金貸付、遭難防止及遭難救恤施設、貯金斡旋等々をなし、設立以來常に發展の一路を辿りつゝある。

因に、現在の役員は、組合長金田鐵次郎、理事越後常右衛門、大井清、監事森田清太郎、寺井藤作、川原衛、岡田重太郎、川崎幸平、稻成久吉の諸氏である。

組合長 金田家は數代を閱する舊家である。
金田鐵次郎 先代故要太郎氏は村會議員その他の公名譽職を歴任した稀有の偉材であつた。

當主たる欽次郎氏はその長男として生れた。縣立松任農學校に學び、抜群の成績をもつて卒業するや、家業たる漁業に従事、益々家運を隆盛ならしめた。現在當組合長の重任にある、曾ては村會議員四期をつとめ、寡言で謹嚴なる人

格者。

家庭は母堂並びに夫人との間に四男一女に恵まれ、衆庶よりいたく尊敬をうけてゐる。

富山、東礪波、出町

出町 役場

本町は舊名杉木新町と稱せしも、慶長十三年庄川汎濫の爲、部落全部の流失を見、爾來四十二年間荒廢地の開發に努め慶安二年に至りて漸く復舊し、以降若林庄内に屬してゐる。

町村制施行となるや、杉木新、鷹栖出杉木の三字を置き、出町と稱して今日に至つた。

位置は礪波平野の中心にして郡の西北に位し、西は西礪波郡に境し、東は庄下村に接し、村内地勢平坦にして中央に市街地があり、附近には地味廣潤肥沃なる耕地が多い。

交通は中越線出町驛あり、縣道バス道

四方より集り、當地方交通の中心地として、また物産の集散地として極めて活潑なる氣運が漲つてゐる。

また町内は常に和氣が溢れ、町民は日々營々として生業にいそしみ、之等勤勉且質朴なる人々に依り、産業は益々發展の一途を示してゐる。

現在、米、藁、綿織物、麻織物、乾燥機械、園藝農産品等が主に産出し、地理的好條件を得て、更に一段の躍進は必然と見られ、其の他産業方面のみでなく、政治、經濟、文教等町政諸般に亘り、各指導者の眞摯な指導を以て物心兩面に着々治績を挙げ、名實共に縣下模範町村の一として其の名に恥じない。

町長 神田 孝一

當町が躍進に躍進を重ねて、發展的過程を辿り、町政の諸般に亘つて完全な治績を挙げつつあるは偏へに氏の努力に與つて力がある。氏は町長の重任を擔つて以來、己を省みず寢食を忘れて町勢の擴張進展に献身

し、燃ゆるが如き愛郷心に基いて活動する眞劍の態度、行爲は齊しく町民の畏敬する處となつてゐる。

天性、溫厚にして明敏、卓越せる識見手腕は、今後各方面より大いなる期待となつてゐる。

石川、江沼、分校村 農會 會長 吉田 吉一

我が國に獨特の産業文化を築いて繁榮の一途を辿つて來た農業は、國民の傳統的な生業にして最大の産業であるは今更論ずる迄もなく、殊に之を一元的強化して更に振興を圖る地方農會の事業は益々多岐に亘り、且任務の重大なるは等しく衆民の知る處である。

當分校村に於いても農業の合理的な進展に努め、農家經濟の上に多大の貢献をなす農會が組織され、現在有爲有能の役員諸氏を列して着々業績を挙げつつある就中、農會長の重責を擔つて眞摯の活動

石川、鳳至、町野村 町野村 役場

當村は鳳至郡の西北端に位し、村の中央を町野川が貫流し、その流域に諸部落の點在を見る、西部日本海に面して白崎海中に突出、東北部は舞谷御前山、寶立

山、水山等の山脈を以て珠洲郡寶立村並びに若山村西海岸と境してゐる。當村の産業は主として、米、藁であり他に副業として畜産も近時盛んに行はれてゐる。

官衙、教育機關は、輪島區裁判所出張所、町野局、村立圖書館等があり、諸般完備してゐる。

村長 上谷 太郎 右衛門

當家は當地有数の舊家として知られてゐる。祖父太郎九郎氏は戸長、區長を勤め、また先代藤太郎氏も村會議員並びに區長の大要職に就任して村治に功勞あり、夙に村民の信望厚きものがあつた。

當主太郎右衛門氏は嚴父藤太郎氏の長男として明治十八年に呱呱の聲を挙げ、長じて郷校を卒へるや金澤七聯隊に入營した。

のち、歸郷して本村の自治に参畫し、村助役を七年の永きに亘つて勤め、遂に推されて村長の重責に就き、現に村政向

上のため眞摯なる活動を續けてゐる。尙家庭には、溫雅な夫人との間に二男三女に恵まれ、常に和氣が漲つてゐる。

石川、江沼、西谷村 前村長 元祐 二太郎

當村の自治並に産業の進展に私事を省みず、一身を抛つて盡瘁した前村長たる氏の功績は、本村政史上に偉大な足跡を残し、永久に輝いてゐる。氏は明治三年十一月に呱呱を擧げ、早



きに、村長三期、産業組合長等の要職に長年精勵して幾多の治績を残し、數度に亘り自治功勞者として表彰されてゐる。殊に輝く治績の中、本村産業の開發と

を續ける吉田吉一氏の努力は刮目に價する。

氏は明治三十三年二月の出生にして、夙に公共心厚き愛郷の人として知られ、區長二ヶ年を勤めて村内融和に功勞あり卓抜の識見手腕は村民の信望を一身に浴び、推されて前記農會長のほか、産業組合評議員の要職に就任、爾來本村産業の發達と農家の福利進展に私事を抛つて日夜力を致してゐる。

尙、家庭には溫雅なソト夫人との間に長男昭雄君ほか二人の愛子があり、氏の圓滿な人格を寫して、常に和氣溢るる幸福な一家を營んでゐる。

農家經濟の圓滿な發達を圖るべく、氏が奔走努力の結果、産業組合の設立は現在發展の一途を躍進し、また小學校建設には氏の努力に負ふ處極めて多大なるものあり、寔に其の業績は枚擧の遑なく、特に村内縣道の改築は衆民の感謝を聚むる所以となつてゐる。

其の人となりも又溫厚にして眞摯、圓滿高潔の人格者として夙に衆望厚く、家庭も氏の高き人格を反映して常に春風の如き和氣に満ち溢れ、幸福な一家を營んでゐる。

尙長男貞一氏は、當村發電所に精勵格勤して、父君にも劣らぬ愛郷の人として村民の支持極めて深く、父子二代に亘つて公共の爲め活躍される自治功勞に輝く家門である。

石川、江沼、鹽津村 村會議員 中川 竹次郎

中川氏は江沼郡月津村の出身にして、

明治十七年十一月四日に生れた。

明治四十年頃未だ山間の一温泉として
微々たる片山津温泉 發展せざる當時より、當地に理髮業及自轉車商を営み、着々と業績を擧げて熱心に家業に勵んで来たが、片山津温泉の逐次發展に伴ひ、其の將來性に着眼して片山津劇場を創設し爾來、公衆の娛樂に供し現在に至つた。

殊に現下非常時局に對して温泉街の自肅を叫ばれる時、當片山津温泉も時代に即應した眞面目の温泉地として諸般の設備及び制度を一新し、以て今日の明朗堅實の温泉街となりたるは偏に氏の奔走努力に依るもので、當温泉振興の功勞者と謳はれてゐる。

現在村會議員、振興會協議員、神社總代(十五年)等を兼任して、當地の伸展に寧日なき活動を續けてをり、温厚にして圓滿なる人格と潤達なる態度は、土地の人々から信頼を一身に浴びてゐる。
尙氏は農園を經營し、果樹苗、庭樹等を栽培し、これ又氏の勝れた經營下に發

展の一途にある。

家庭には現在、シズ夫人、養嗣子太一氏、長女操氏、二女靜枝氏がある。

静岡、田方、西豆村

西豆村 役場

紫紺の波と白帆の浮ぶ東海唯一の美景駿河灣を隔てて、遙かに靈峰富士を仰ぐ伊豆半島西岸に位する本村は、勤勉且純朴の良風溢るる平和郷として知られてゐる。

村内低下の地に水田多く、以て地名を下田と稱するも、賀茂郡の下田港に紛らはしたため下田と呼ばれ、地勢概ね山脈に富み、一般に丘陵性にして西南に傾斜し、南は賀茂郡宇久須村に隣接してゐる。

産業は信用組合、養蠶實行組合、漁業組合、信用組合等の諸機關が完備し、極めて順調に業績を示しつゝ、あり、村治をはじめ、教育、財政等の諸般に亘つても

村政指導者の善導と相俟つて益々向上の一途を辿り、名實共に兼備せる模範村として今後の進展は必然と見られてゐる。なほ村内には丸山城及辨天師の名勝地がある。

村 長

松本 三平
然ゆるが如き愛郷心に立脚して常に私事を抛つて努力を惜まぬ氏の如きこそ、寔に適材適所と言ふべきであらう。

一度、公共の事に到れば寢食を忘れて東奔西走、文字通り堅忍不拔の活動振りを發揮、村政史上に印する足跡は偉大なるものがある。
天性温厚にして眞摯、輝く幾多の業績と共に村自治の重鎮として村民の信頼を一身に聚めてゐる。

静岡、田方、西浦村

西浦村 役場

「群山海を擁して湖池の如く、鷺頭の

嶺巖たる、函嶺の蜿蜒せる、遠近層出、東北は富峰海に臨み、白雪照耀綠波に浸す、愛鷹、千本松林、田子浦等の諸名勝擧げて一時に聚む」と地名辭書にあり、



は修善寺町に隣接し、北部に眞城山ありて土地一般に丘陵をなしてゐる。
青波穩かな江間灣を控える風光明媚の平和村として、村内は常に和氣漲り溢れ村民はそれく生業にいそしみ、質實勤

勉の良風と共に産業は順調な發達を示してゐる。

さらに自治、財政、教育等村治諸般に於いても村政指導の賢明且熱心なる指導に依つて、村民の福祉に多大の貢献をなし、模範的優良村として聞えてゐる。

村 長

新東亞共榮團の確立は日を追ふて基礎を固め、都市は勿論



深めると共に協力一致の實を擧げつつある。

於いても加重する諸般の問題に對し、有爲なる人材が登場して村勢進展に活動してゐるが、殊に村長の重任を背負つて寧日なき活動を續ける氏は、明治二十二年七月二十七日、先代故半十郎氏の四男として呱呱の聲を擧げた。

其の熱意溢るる態度は圓滿なる人となりと共に村民の支持を聚め、現在實踐躬行の信念を堅持して文字通り東奔西走、克く敏腕を縦横に發揮して顯著なる治績を擧げてゐる。

石川、能美、金野村

金野村 役場

本村は郡の中央に位し、東は西尾、中海の兩村に接し、西は苗代村、南は大杉谷村、北は中海、國江の二村に隣り、四圍概ね山嶽にして、中央を梯川貫流し、その流域に盆地的小平野を形成して、地味肥沃である。

本村はその發祥極めて古く、殊に安永年間、石黒源次氏の金平金山發見によつて、一躍その名を北陸に宣傳され、加能越三州金礦中の嚆矢である。
石黒源次氏は稀代の傑物として、金礦發見のみならず、荒蕪地の開墾等に敏腕を揮つた人である。天明年間より開坑實

に五十六を算へたが、その後廢坑となり明治三年に至り、之れが復興に獨逸人の技師フンデルテックン氏を聘したが、爾來金の産出なく現在に及んだ。黄金史の村である。

主なる産物は米、麥、大根、大豆、甘藷等の農作物を初め、藨、大麻、柿、木材、薪炭材等旺んにして、疊表、莫産、陶土等の特殊産物も相當量に及び、多角的な村勢の一面を覗ふに足る。

村長

氏は非常時局下、金野村の自治産業の發達を双肩に擔つて寧日なき盡瘁を致してゐる。濃厚大度の人格者である。村内の平和と、多角的農業の確立を期し着々その緒に就き、村民の衆望極めて厚い。金平金山の創始者として、加賀藩士に伺候勝手を許された事業的傑人にして、且つ田源藏の後胤にして、現在當家にその古書記、源氏委繪等を傳へてゐる。因に氏は明治二十九年七月十七日の生れで、しか夫人は婦徳の譽

金平尋常高等小學校

本村の教育は、夙に村當事者の熱心なる行爲により、顯著な成果を示したが、現在、時局下農村教育の實踐は、我が國教育の問題として取上げられてゐる。當村に於ても、聖旨を奉戴し、皇民鍊成の教育實踐をその方針として、眞摯なる教育行の殿堂が設け

石川、能美、鳥越村

元村長 故宮村六郎兵衛
氏は天保十年正月二十日に颯聲を擧げた。若き頃より學を好み、私立別宮學校を卒へ、深く齊家修身に努めた。仁徳圓滿にして、夙に郷村の伸展を思念し實踐する、志操高潔、且つ寛容大度の人格者であつた。

助役

氏は明治二十年二月三日、本村の舊家に生る。夙に公共に

二千六百年記念事業として、學校林を造行して、兒童の愛勞資材たらしめてゐる。現校長は從七位森田常松氏にして、明治二十四年四月一日の生れ、石川縣師範學校の出身にして、昭和七年本校に就任、高等官七等待遇の教育界の香宿にして、爾來、名實共に本村教育の父として和の教育行に徹し、平和金野村の招來に資するところあり、濃厚篤實の人格者として、衆望厚き人である。青年團顧問、女子青年團長を兼ねてゐる。

思念厚く、その温容寛仁の人格と共に、曩には村會議員その他に就き、現在は方面委員幹事、農會幹事、社會教育委員、助役等として、村勢發展に精勵し、多年自治に歴任せる功勞者である。

嘗て産米改良に就き郡長より、在郷軍人分會事業功勞により、川村景明元帥より、夫々表彰されてゐる。家族は、とみ夫人との間に一男三女を儲けてゐる。

明治六年十二月十九日、二十四區小六區戸長に推され、同八年には小二區戸長翌九年には十二區小六區副戸長、同十三年五月別宮戸長、同二十四年別宮助役、翌二十五年には遂に郡會議員に選出された。

地方通信のことに當り、非常時局下益々其の責に當り、寄與貢獻するところ多く衆望厚き人である。

金峯山 正福寺

當山の開山を南耕辨啓和尚と稱し、曆應四年の開創である。もと眞言宗に屬してゐたが、のち曹洞宗に改められ、釋迦如來を本尊として安置してゐる。

善女の報賽するものが多い。榛原中學校を経て駒澤大學に學び、昭和十年卒業した。若年ながら佛道を極めること深く、當寺住職として布教に専念する傍ら、方面委員を兼任して盡瘁してゐる。

また明治七年十月十日、七等郵便局取扱所長、同九年五等に、同十六年には四等郵便取扱所長となり、その畢生を自治通信に貢獻した。殊に別宮より小松に通ずる縣道改修と、鳥越トンネル、別宮より石川郡へ通ずる道路改修に三坂トンネルの大事業を完成し、その他公共方面に多大なる足跡と功績を残した。本村明治前期に於ける代表的自治功勞者である。

當主

當主吉氏は濃厚篤實の人格者にして、現在郵便局長として

本寺は華嚴院にして、末寺に清嚴院、寶朱寺、實樂寺、龍淵寺、清印寺、林光庵等がある。境内には本堂、庫裡、山門、藥師堂、開山堂、位牌堂、鎮守堂の堂宇伽藍が並立してゐる。

國家興隆の基は國民教育の振興徹底に在ることは今更論する迄もないことである。殊に非常時下東亞新秩序樹立の秋に當り、小學校の使命は益々重大となつて來た。當校は教育に關する勅語の御趣旨を奉戴して、兒童の教育に校長職員が一心一

本校は村教育の最も古き端緒をなした歴史的な由緒を持ち、その施設等も農村として、規模小なるも充實したる學校である。殊に全校教育を通して、皇道、勤勞の精神練成に眞摯教育の遂行を見つゝある事は、地味ではあるが「強い子供」をの目的を達成し、村民の絶大な支持と讃へを受けるに到つてゐる。

殊に當校に於て、史實傳説に富む吉野村の郷土史研究が熱心になされ、貢獻する處大なるものがある。

校長

宮岸 英信

資性温和にして重厚であり、稀れに見る圓滿高潔の人格者として長教されてゐる。名實共に教育行に奉ずる理想的教育家であり、多年に亘る教育上の功績は、誠に甚大なるものがある。

静岡、富士、今泉村

丸和製紙株式會社

本社は昭和七年の創立にして、資本金十萬圓を以て、當時萎靡不振の製紙業界に、活氣溢るる活動を續け、其の堅實なる經營と共に益々發展の一途を辿り、遂に今日の盛業を見るに至つた。

現在、全社員打つて一丸となり、固き結束の下に優秀品の製作に努力を重ね、東京、大阪、静岡等の一流洋紙店と取引し、圓ブロック方面へも大量移出されてゐる。

社長

藥科 充幸

而して抄紙の種類は、薄素紙、帽子原紙、織物原紙、京花紙等である。

氏の嚴父は今泉村小學校に三十六年間、亘つて育英の事に盡瘁し、その嚴格なる薫育に、郷民の尊敬を受けた人格者である。

充幸氏はその男として、明治三十三年に颯聲を擧げた。

大正七年縣立濱松商業學校を卒業後、北京三愛書院に學び、同十年、近衛野砲聯隊に入營、同十三年少尉に任官した。

資性濃厚篤實、父君に劣らぬ謹嚴端正の人格者で、其の反面義侠心の強い人望家である。

石川、能美、苗代村

會長 下野 千麿

氏は製紙業に専念する傍ら、今泉村新橋に三光鐵工所を建設して、同所長となり敏腕を振つてゐる。

當家は、初代千太郎氏、二代清八氏、三代與一氏を経て當主四代目に至つてゐる。

代々農を家業とし、篤農家として知られてゐる。

氏は先代與一氏の長男として明治十二年十一月颯聲を擧げた。

大正七年軍籍に入り、歩兵伍長となりその精勵恪勤は隊中の模範とされた。

曩には村會議員として村政に參與し、その公平にして、農村の實情に即した手腕見識は、普く村民の信望を得、更に區

長或は消防組頭として、自治に、治安に三面六臂の活躍を續け、現に推されて農會長の要職に就き、専心、産業の振興に努めてゐる。

時局重大にして、農村の更生如何は國家の興隆の消長に關するとされる秋、氏の如き眞摯にして卓見に富む農會長を得た事は、本村の爲に力強い限りである。

資性明朗にして、小事に離礙せず、常に實質的見地より農會を統率し、村民の好評を博してゐる。

静岡、庵原、小島村

小島村 信用販賣 組合

現下諸統制に依る地方農村の産業開發は、諸般の革新的の強化の下に、益々堅實の一途にあり、殊に農村經濟の圓滿な

る伸展は緊急要事として、最も政府の力を致すところである。

本村に於ても、地理的好條件に恵まれ村民の質實剛健の氣風と相俟つて、産業の目醒しき伸展は、刮目に價するものあり、其の樞軸となつて活動を續ける當組合の存在は極めて意義深きものがある。

本組合も亦、他産業組合の設立と異らず、時代に即應して大正十三年七月、村内但沼區の有志が中心となつて、創立するに至つた。

創立以來、日を追うて發展の一途を辿り、組合員の渾然一體となつて協力する眞摯なる活動は、名實共に本組合をして益々その基礎を鞏固にする所以である。

現在役員は、組合長堀池潔、専務理事平岡福太郎、理事に望月喜多司、深澤庄太郎、片平清吾、平岡文雄、加瀬澤龜太郎、北條皓信、堀池文作の諸氏。

監事に堀池喜之助、平岡兼吉、堀池穂三郎、前澤直作、望月源作等の諸氏が就任してゐる。

組合長

堀池 潔

氏は早くより本村の自治に參畫し、村會議員、青年團長、學務委員、畜産組合議員、消防組頭等の要職を勤めて大いに其の治績を擧げた。

當組合には、設立當初よりの組合長として、組合の向上に盡瘁し、よく今日をあらしめた。現に農會議員、縣信用組合聯合會専務理事、地方物價委員會委員等その他の重責を擔つて、眞剣なる活動を續け、衆庶より感謝されてゐる。

石川、能美、苗代村

苗代村 役場

本村は町村制實施の際、蓮江、淺井、本折の三村を編成し、明治四十年行制區畫改正の結果、右三村を合併して苗代村

と改稱した。

小松町の東南に位し、田地桑地拓け、西端は今江鴻に面し、東南部は緩傾斜面を成せる山林地にして、粟津及び金野村と相隣接してゐる。

北浅井、向本折、須天、南浅井、大領中、不動島、清六、千木野、吉竹、蓮代寺、本江、三谷、勘定の各字よりなり、教育、衛生の設備も整ひ、名勝舊蹟も多く、浅井殿の古戦場は歴史上有名である。交通は尾小屋鐵道吉竹驛あり、小松市を間近に控へ、物資の需給は至極便利である。

村民は概ね農業に従ひ、また養蠶も盛んである。

今事變以來、農業の重大性が叫ばれ、當村も亦、その使命を體して、村民協力一致、農産物の増收、貯蓄の勵行に努めてゐる。

村長 長
小倉 直一

氏は明治二十九年三月、先代久右衛門氏の長男として誕生

した。

曩に村長、區長の要職にあり、村民を督勵して、専心農業の堅實なる發展に力を竭し、肥料の自給自足を期し、着々その事績を擧げた。

現に村民の推戴に依り、非常時局下の村長として寧日なき活躍を續け、傍ら産業組合にも參與して、理事の職を完うしてゐる。

資性明朗にし潤達、村民の絶對的信頼の裡に、一意村政に邁進してゐる。

家庭はキツ夫人との間に、長男久義君次女道子、三女美子、四女すみ子の三嬢があり、和氣溢る、團樂をなしてゐる。

静岡、賀茂、稻梓村

箕作郵便局

當局は、明治十六年十二月十六日の開設にかゝり、稻梓村及び下河津、南相生津、上河津、中川等の諸地域を支持區域とする集配三等局である。明治三十九年

爲替事務、同四十四年電信事務を、それぞれ取扱を開始し、當地方民の便益となるところ多大である。

開設以來局務の成績極めてよく、當地方三等局中の上位を常に占めてゐる。

初代局長戸崎惣右衛門氏及び従業員一同、共に局の發展と成績の向上につとめて功勞があつた。

局長 七等
戸崎惣右衛門

氏は先代故惣右衛門氏の養子にて明治十四年二月七日の生れ、郷校の

下河津尋常高等小學校を卒へると共に、名古屋輜重兵第三大隊に入營、日露戰役に従軍し功に依り勳八等に叙され、明治四十一年除隊後は由緒ある戸崎家の名を恥づかしめることなく、公共事業にもよく貢献した。

曾ては村公職に推舉され、自治の發展に盡瘁し、現に三代目局長として銳意力を注いでゐる。

家庭は令室との間に三男三女の子寶に

生まれ、子息惣次氏は、現在陸軍歩兵中尉として活躍してゐる。

石川、能美、鳥越村

教育功勞者 北村 助次郎

氏は明治十一年十月十六日、本村の舊家與助氏の四男として呱聲を擧げた。

先代與助氏は吉原用水發起人として、宮村氏と共に大いに貢献した村政の重鎮であつた。

助次郎氏は金澤師範卒業後教育界に入り、殊に本村教育に携はること三十三年の久しきに亘つた。その功績は實に本村教育の父とも稱すべく、現在氏の教へ子が村の中核體となつて活動しつつある。その教育に於ける功勞に對して、縣郡當局より屢々表彰された。殊に當地方の出稼者教育の確立も、實に氏によつて創案實踐されしものである。當初五ヶ年は自費をもつて之れに當り、眞摯懸命の教育的良心への努力は、遂に今日の出稼者

教育の確固たる一課題を設定するに至つた。

氏はまた植物學の造詣極めて深く、金澤市の故星野博士、第四高等學校の市村教授等の指導の下に、夙に之れが研究に没頭し、白山系植物四百種を蒐集し、郷校に保存されてゐる。氏は退職後も屢々植物及び礦物の講話をなし、また歐洲よりの輸入藥品の代用藥物生産の爲めに、藥草研究と之れが具體化に努めてゐる。

氏はなほ村自治方面にも村會議員(二期)、區長、學務委員、勞務動態調査委員、青年學校振興委員、軍事援護委員、滿洲移民協議委員、金澤職業紹介所連絡委員等、多數の公名譽職に歴任して、獻身的努力を厭はず、公共に盡瘁する自治功勞者である。

其の濃厚仁慈の人格と共に、村内の衆望蓋し大なるものがある。

家庭は米夫人との間に、金澤中學校在學の長男良君あり、頗る圓滿なる一家である。

富山、中新川、滑川町

神明山 徳城寺

當寺の開山は普門元三と稱し、開基は土井美作守である。もと東谷に開創されしも、火災に依り當地に移したものであり、曹洞宗に屬し、釋迦如來を本尊とし協立に聖觀世音菩薩並びに金毘羅を安置してゐる。

本寺は立山寺にして、末寺に戀昌寺、全福寺等がある。

境内には本堂をはじめ庫裡、山門、鐘樓等の堂宇、伽藍が並立してゐる。

四月一日開山忌等を盛大に行ひ、遠近より、善男善女の參詣で賑ひを呈してゐる。

住職 橋本 徳夫

由緒深き當寺の三十二世の法燈を繼ぐ師は、明治三十五年の出生である。駒澤大學を卒業して、昭和八年當寺の住職となり、爾來布教に専

念する傍ら、免囚保護事業に盡瘁する重厚篤實の名僧である。

石川、鹿島、西岸村

西岸村役場

本村は古く能登郡能來郷中に屬し、廢藩置縣に依り鹿島郡に編入、町村政實施に當り八ヶ村を合併して現在の西岸村と稱するに至つた。

位置は郡の北端に位し、北部別所岳を以て鳳至郡穴水町と西部羽咋郡地打村と相境し、東部は七尾灣及西灣に面し、全村地勢概して山地に屬してゐる。

村内は常に和氣霽々として、産業、經濟、文教等凡てに於いて顯著なる治績を収め、殊に村民の質朴勤勉の良風と相俟つて益々繁榮の一途を辿つてゐる。

村内には村民の精神的向上と指導に多大の貢獻をなす村立圖書館あり、整然と組織だてられたる機構のもとに、なほ一層の充實が期されてゐる。

本圖書館は大正十一年三月、小學校に併設せられ、設立以來村民有力者の努力に依り、現在蔵書冊數五百七十五冊の整備を見、また巡回文庫として回付先九ヶ所を設置して、村民の啓蒙に寄與してゐる。

圖書館長

岡島 良一

當家は開祖不詳なるも元祿以前の舊家として知られ、累代農業を營み、先代由太郎氏は公共心に富む篤農家として村民の信望厚きものがあつた。

役場吏員を二十四年開奉職し、其の後村會議員、區長、學務委員等の公職を歴任して村治に盡瘁し、多大の治績を挙げた自治功勞者である。

當主良一氏は、氏の長男として明治三十二年四月八日に呱呱の聲を擧げた。

石川縣師範學校第一部を経て師範專攻科を卒業後、短期現役として服務し、歸郷して以來、本村文教の圓滿な發達に日夜眞摯の努力を傾けて今日に及んだ。

其の間、常に校下民特に村内青年をして忠良なる皇民たらしめん爲め、各區の常會毎に讀書の必要なるを説き、また青年常會を利用して讀書會を開く等、燃ゆる如き熱意を以つて村民の精神向上を圖り、己を抛つて公共のため盡力する態度行爲は郷民の信望を一身に浴びてゐる。

現在、男女青年團長、學務委員、拓務委員、社會教育委員、小學校長、青年學校長等の要職を兼任してゐる。

趣味は、園藝、讀書である。

なほ家庭には、溫雅なる夫人との間に三男三女を恵まれ、氏の圓滿清朗の人格を映して常に和氣溢れ、幸福な一家として羨望の的となつてゐる。

靜岡、富士、富士町

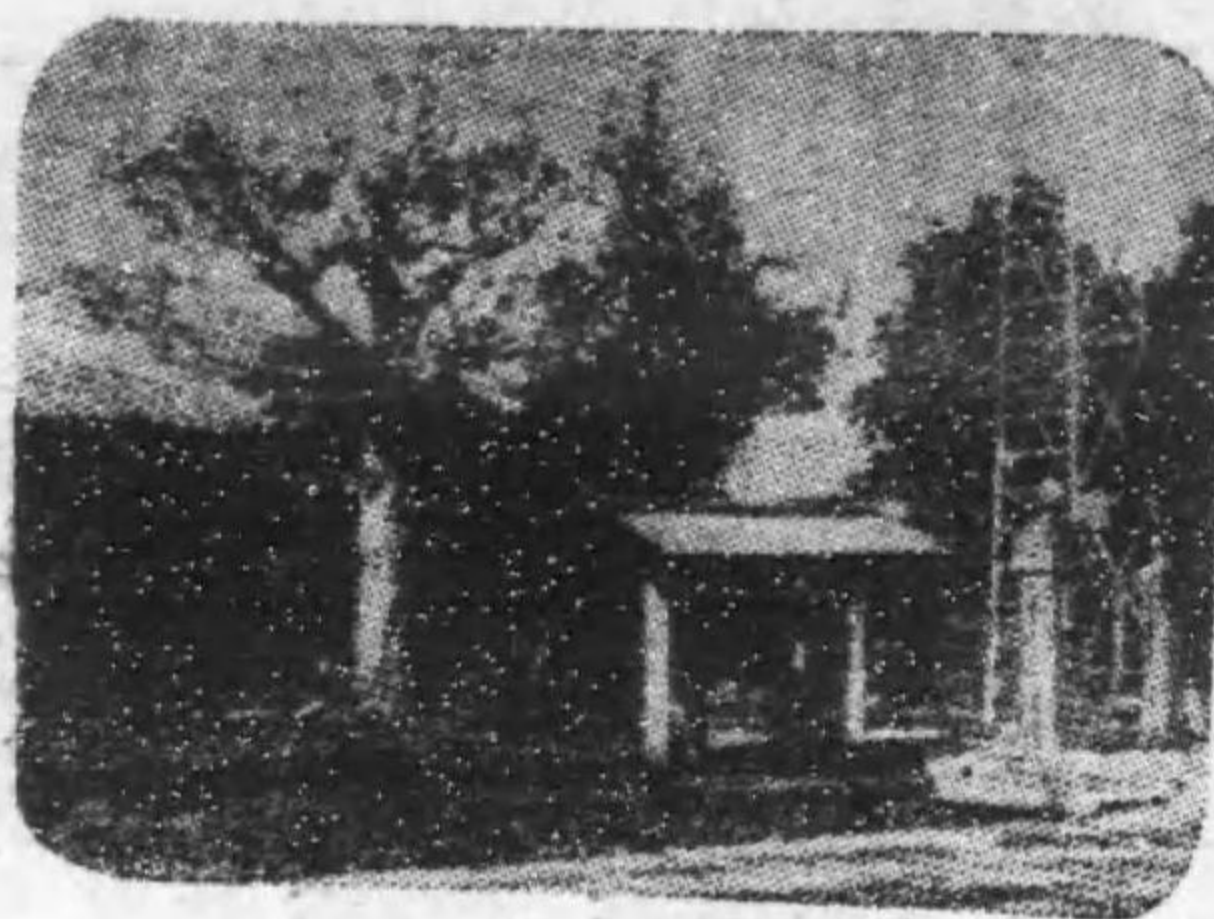
富士町役場

富士町役場

古來加島五千石と稱せられし地、明治四十年富士驛の開設、富士製紙の第三工場を設置並に道路、市街宅地の建設せら

るゝに當り、各地より商工業者集團し忽ちにして市街を形成し、加ふるに富士身延鐵道、本町を中心として之が運轉を開始せらるゝや、昔日の農村は一躍商工市街地と化するに至つた。

越へて昭和三年、身延鐵道甲府に貫通



役場全景

するに至り、山梨、北日、本と、絡の連、全、完備、し、商工

市街たるのみならず交通の中心、物資の集散地となり、昭和四年八月、加島村を改めて富士町と稱して今日に及んだ。

町長 笠井勸三郎

夙に明敏の手腕家として衆民の信望厚き氏は、町長の重職

を双肩に擔ひて以來、常に當町の進展に私事を省みず献身的活動を續け、率先身を以て町民に範を示す熱意溢るゝ態度は齊しく衆庶の知悉する處にして、氏をして今日の衆望を聚むる所以である。現在事變下に即應して完全なる町治を劃立すべく、各役員、指導者を指揮督勵して縦横に敏腕を發揮、着々として治績を擧げてゐる。

石川、江沼、山代町

山代温泉 福屋旅館

山代温泉は東に藥師山一帯の高丘を負ふて、他の三面は廣々と田野に向つて開けた山裾早丘の温泉で、山中温泉とは其の藥師山の高阜脈を隔て、表うらになつてゐる。

附近には高松園公園、藥王院、服部神社、大堰の宮、椎木淵等の名所があり、また有名な九谷燒の窯元がある。

泉質は弱鹽類泉で、「樂に居るなら山

代の湯」と謳はれてゐる通り、泉量は頗る豊富で、多数の温泉旅館が浴客のために、近代的設備を施して便宜を圖つてゐる。中風、立ちぐらみ等に特効がある。就中、温泉旅館として、親切をモットーとする福屋旅館は、木の香も新しい、近年新築の旅館として、近代的な諸設備と堅實な経営振りに依り、衆人の信用と名聲を得てゐる。

夏は涼しく、冬は温かなる客室は、殊に清潔、風雅にして、従業員の親切な奉仕、時局に適應せる経営方針等は、周囲の美觀と相俟つて益々繁榮の一途を辿り、一度當館に足を運び、當館の雰囲気は浴すれば、必らずや忘るゝことのできぬ好印象を受けることは疑ない處である。

經營者 當館が今日の繁榮を見てなほ隆昌に赴きつゝあるは、偏に氏の盡力によるもので、當地温泉旅館業者の中、有力なる人物として重きをなしてゐる。

常に時代に即應する俊敏な經營手腕を持つ努力家で、圓滿にして公正なる人となりは町内にも信望を聚め、殊に眞摯大度の人として寄與する處からざるものがある。

静岡、富士、田子浦村

春日製紙株式会社

電話三一四番

現下製紙界の最緊要事は原料配給の圓滑を圖り、生産品の合理的なる統制販賣をなすにある。斯る時、國策線に沿ひ、縣下製紙界に雄飛する春日製紙株式会社が目醒しき活動は、寔に力強きものがある。殊に當會社は産業報國の一端を果すべく、堅實なる經營方針と、燃ゆるが如き熱意の抱負は、最も誇りとするところ、且つ製紙界に於ける貢獻は、極めて大なるものがある。

本社は昭和十五年一月、現常務取締役澤山儀太郎氏が唱導奔走の結果、創立し

た。主に京花紙、白塵紙の二種を製造し其の販路は東京、大阪の二大都市に及び現在、齋藤社長以下全従業員は、渾然一體となり、優秀製品の増産に努め、勞資協調の實を擧げてゐる。

なほ社長に齋藤渉、常務取締役に澤山儀太郎、取締役に小澤育雄、石井秋郎、鈴木忠夫、監査役に秋山由蔵、齋藤建治等諸氏の有爲なる才幹を連ねて、當社の前途は洋々たるものがある。

社 長

齋藤 渉

現下製紙界に當社が益々發展の一途を辿り、輝かしき業績を示しつつあるは、氏の卓越せる事業手腕に俟つところ極めて大なるものがある。機宜即應せる經營の俊敏と、圓滿達識せる人格は、共に衆庶の畏敬する所以である。

今後の氏の活躍は、一般より多大の期待があり、其の將來を嚮望されてゐる。製紙界の重鎮である。

石川、江沼、大聖寺町

福田 信用販賣組合

電話四四三番

當組合も亦、時代の推移と共に地方産業經濟の圓滿なる進展を期すべく、昭和九年十月二十二日に創立した。

曩に福出村を區域として經營せられしも大聖寺町に合併してより、當町一圓を經營範圍とするに至り、申込金額一口五十圓とし、組合員は當地農家の九八%加入の好成績を示し、現在二百二十一名がある。

今や當地の優良模範的組合として名實共に堅實の經營振を發揮し、組合精神の徹底を期すと共に、組合員相互の融和を圖り、以て益々隆盛の一途を前進してゐる。

役員は、組合長以下、理事九名、監事七名があり、日夜當組合の伸張に協力戮心してゐる。

組合長

増田 庄作

氏は明治三十九年四月七日に呱呱の聲を擧げた。

早くより當組合組織に盡力し、専務理事として勝れたる手腕を發揮して組合の發展向上に努力を重ね、今日の隆盛に導いた功勞者である。

昭和十四年度組合長の重任を擔ひ、尙一層勉勵してをり、組合員一同の信頼極めて厚きものがある。

尙、氏は組合事業の傍ら幾多の公共の要職に在り、現に大聖寺町農會長、町會議員、農業保險役員等を兼任してゐる。

石川、鹿島、御祖村

御祖村 役場

古へ、能登郡與米郷中に屬す。御祖村の名は字小田中に鎮座する御祖神社に因んだものである。

郡の南部に位し、西半部土地平坦にして田地拓け、能登部・金丸二村と相隣し

東半部山林原野に屬し、那排落石ヶ峯峯え、以て富山縣永見郡若石村と接し、北久江村南餘喜村に連つてゐる。而して當村は、高島、小金森、福田、藤井、小田中、會彌中原山分の各字に分れてゐる。

主なる産物は、米、絹織物、繭等にして、殊に絹織物産地として普く知られてゐる。

村内には社寺多く、また衛生、學校、その他の自治機關整ひ、交通また二宮及び志雄町へ通するバスの便がある。

戦時下、物資の増産が緊急事にして農村の更生、振興重大なる秋、本村はよく時局の使命を體して、村民一致協力、各種産物の増産を期し、銃後農村ひいては日本の一大飛躍に邁進してゐる。

村 長

毛利吉之助

氏は本村の葉封家として、代々地方産業の上に重きをなされ、來れる舊家に、明治二十五年五月二十一日呱呱の聲を擧げた。先代丞太郎氏も多

年村長、郡會議員等たりし人たり。その衣鉢を繼ぐ氏は、夙に自治産業に關與し名實共に終生を公共に致し來つた功勞は甚大なるものがある。

曩に昭和十年助役に推され、農會長、警防團長、村會議員、産業組合理事等として貢獻、現在遂に村長の樞主に推輓され、非常時局下御祖村の物心兩遂に精勵し、その温厚寛仁にして大度の人格と共に、村内の信望比肩なきものがある。

富山、西礪波、戸出町

戸出町役場

當町は郡の東北部に位し、東は東礪波郡、北は射水郡に接し、南は是戸村に隣る。往昔より當地方の中心をなせる地にして、徳川時代は前田藩に屬し、租米の取扱ひをなした。維新後は戸長役場等が置かれ、近郷の政治、産業の中心的立場を愈々明確ならしめた。町村制施行と共に町制を布きて今日に至つてゐる。

地味肥沃にして平坦、古くより農耕の旺んな地であるが、近時機業工場その他工業方面の躍進顯著なるものがある。

戸出警察署、戸出氣候觀測所、縣農産物検査所出張所、出町區裁判所出張所、戸出郵便局、戸出實科高等女學校、その他の官衙公署が多く、非常時局下、町勢の發揚に町當局はもとより、各種團體との緊密なる一丸の協力を以て、邁進しつつある。字を戸出、古戸出、中之宮、市野瀬新、狼、市野瀬、光明寺、伊勢領等にして、字戸出に役場が置かれてゐる。

名勝に摺鉢公園、芭蕉墓塚、夕顔塚、駒繁松、御留木及神木等の由緒ある古蹟がある。交通は、中越線戸出驛あり、高岡、中田、石動等にそれぞれバスの便がある。

町長 吉田 仁平

氏は時局下戸出町の推進指導を双肩に眞摯なる盡瘁を以て當り、その温厚篤實にして、寛仁大度の人格と共に比肩なき信望あり。名實共に

當時、治政、産業の樞主たるべき人である。當地特産として有名なる麻製織の元老的存在をなしてゐる。當地方政界の重鎮である。

富山、東礪波、中田町

中田町役場

郡の東北部庄川の流域にあり、明治二十一年四月、元中田町、下村、麻生新本並びに上麻生、下麻生兩村の一部を分合して中田町と稱するに至つた。近年工業方面の進展著しく、米耕、賣藥等と共に躍進的町勢を顯示しつつある。

萬葉集に「をかみ川くれなる香ふ乙女らし、蘆附とると瀬にたすらし」と大伴家持が詠じた蘆附は、往古より當地方清水川一帯の水石に、發生する淡白香味の水藻として知られてゐる。

郷社移田八幡宮は一千二百五十年前、般若權開拓者貞重翁の守本尊、譽田別尊を祀り、櫻の名勝新開堤を背景となし、

巨樹老木の儼然として、その歴史を物語つてゐる。

中田警察署、同氣候觀測所、同郵便局中田産業組合等の官衙公署の他、各銀行會社等多く、非常時局下の物心兩面の高揚達成に町當局は素より、各種團體を一丸として、邁進實踐の成果が擧げられてゐる。

町長 吉田 健作

當町時局下の施政に或は精神指導に萬遺憾なきを期して、

石川、河北、淺川村

舊 家 山森 太郎

山森家は往昔より郷土として、連綿の家系を傳へる當地方の代表的由緒正しき舊家である。七百五十年前の鎌倉初期時

代、京都智恩院の淨土宗を開創せる佛聖僧源空の作と云はれる阿彌陀佛を、一家相傳の寶物として所藏してゐる。その鑑定古記録も現存してゐる。

極

- 一、阿彌陀佛
右御本尊源上人御造
無紛之候條爲其一札如件
享和二壬戌三月
加州御免大佛師 松井清乘(花押)

太郎氏は現在村會議員その他に推されて、非常時局下村勢發揚に盡瘁し、その温厚篤實にして、寛仁の人格と共に、衆望極めて厚いものがある。

先代氏も多年村内各種公職に歴任して盡瘁頗る大なるものがあつた。殊に谷口より平等方面へ通ずる村道大改修の難工事を完成して、記念碑を建立された功勞者である。

吉岡家は累代農業に従事し、村内に於いて屈指の舊家として知られ、由緒深き家柄を以て村民の信望厚く、特に先代良作氏は二十七年の永きに亘つて村長の重責を果し、多大の治績を擧げて村勢進展に功勞あつた。

富山、西礪波、藪波村

農會長 吉岡 太郎平

當主太郎平氏は氏の次男として明治二十六年一月に呱呱の聲を擧げ、長じて縣立農學校を明治四十二年に卒業した。爾來、農事經營に優れた手腕職見を發揮し、地方農政の改善向上に燃ゆる如き熱烈な抱負を以て夙夜獻身を續けて今日に及んだ。

其の間、輝く業績は枚舉に遑なく、農事經營上に貢獻せるのみならず、更に消防組頭を勤め、現在、農會長、産業組合長、警防團長、村會議員、保育園長等の公職を兼任して公共のためにも眞摯の努

力を傾け、其功勞によつて富山縣知事より消防勤功章、並に帝國農會長より表彰を受けてゐる。

資性温厚にして公共心厚く、人に接しては圓滿な態度に終始し、常に村勢の進展に己を捨て、盡力する愛郷の人であり村民の信望厚きは當然のことである。

なほ家庭には婦徳の聞え高き、さく夫人との間に三男を恵まれ、長男良平氏は今事變に應召し、最近解除となつて歸還した勇士であり、次男正行氏は目下、北支に出征中にして、重ねて令息を戦線に送つた名譽の家門である。

富山、東礪波、福野町
株式會社丸山
機業場取締役 丹羽 外吉

當地方機業界の重鎮として縦横に腕を振ひ、期業の改善發達に多大の貢獻をなし、齊しく衆民の興望を浴びてゐる丹羽外吉氏は、明治三十四年十月先代藤作氏の四男として呱呱の聲を擧げた。

長じて郷校を卒業後、斯業に志を樹て種々研究努力を續けて苦節を重ね、昭和七年越中織物株式會社を創立し、同十二年八月東洋綿花株式會社販賣及織物買付部主任を勤め、また同年十月福野町及城端町機業家拾數名と會議の上、氏が中心となり丸山組合を設立し、物品の共同販賣及購買、製品の委託等を受けて組合の進展に盡力、更に福井縣足羽郡内の二十工場の組合を組織してゐる。

其の間、株式會社藤島機業場、株式會社丸山機業場を創立して兩社の専務取締役役に就任し、福井縣吉田郡藤島村深谷、足羽郡上文珠村、富山縣東礪波郡福野町等を中心として各地方の機業の改善に盡してゐる。

氏は各組合及び會社重役として活躍を續ける傍ら絹人絹布製造販賣も經營し、營々として寸暇も倦まざる努力に依り、前途は極めて有望なるものがあり、今後の活動は一般の期待するところとなつてゐる。

なほ家庭には、温雅な夫人との間に二男一女を恵まれ、氏の圓滿な人格を反映して、常に和氣溢るる幸福な一家をなしてゐる。

靜岡、小笠、加茂村
村會議員 長坂 勝太郎
學務委員

長坂家は當地に於ける屈指の舊家として聞え、その祖先は武田信玄の臣二十四將の内、長坂左衛門調閑齋入道と傳へられ、往古は判然せざるも徳川末期頃は米穀の賣買を經營し、相當の産を築いた山緒深き素封家である。

先代小三郎氏は公共心厚き人格者として村民の信望極めて篤く、村長、學務委員、銀行取締役等の要職を歴任して、村治に多大の功績を遺し、晩年は悠々自適の生活を送り、昭和十一年八十九歳の高齡を以て永眠されてゐる。

じて掛川中學校に學び、同校卒業後早稲田大學商科に營業の功を積み、拔群の成績を以て卒業した。

爾來、當地方金融界にあつて俊敏なる手腕を縦横に發揮、地方銀行の合同には氏が中心となつて奔走、幾多の業績を擧げ、昭和十二年遠州銀行に合併した協和銀行の設立は與つて氏の努力に負ふところ多大である。

氏はまた公共にも關與して村會議員に在職すること二十餘年に及び、更に學務委員を兼任して日夜寢食を忘れて活動を續け、村民の感謝と信望を浴びてゐる。

趣味は圍碁、將棋、謡曲、旅行。
なほ家族には、母堂をはじめ婦徳高き夫人との間に五男四女を恵まれ、氏の圓滿な人格を反映して常に和氣漲り、殊に次男は今事變に應召して中支戦線に名譽の戦死を遂げた輝く家門である。

靜岡、小笠、櫻木村
永江 院

靜岡縣立掛川中學校を経て、東京駒澤大學に學び、優秀の成績を以て卒業後、



住 職
永江 金榮

師は先代倉橋環氏の次男として、明治二十八年一月に呱呱の聲を擧げ、長じて永江金優師の養嗣子となつた。

當地方の古刹として法燈の繼ぎて絶ゆることなき名寺永江院は、天歷年間尾州の高僧長祐禪師の開山に成り、元遠州八幡ヶ谷に龍六庵として草創され、第四世に至り、現在の名稱に改めて今日に至つた。

境内には往古の面影を偲んで堂宇を接して建ち並び、毎年定例の祭日には、信仰厚き近郷の人々が雲集して盛況を極め、また村内一圓に檀家を多數有してゐる。

當山の住職を繼承し、爾來今日に至る迄當村の布道教化に専心して來た。

資性温厚にして高潔、己を完うする底の道元禪師正傳の坐禪を以て、自己の生活信念とし、常に臣道實踐を唱へる眞摯の態度は、齊しく衆民の尊敬を一身に浴びてゐる。

現在當寺住職のほか、佛教會長、靜岡縣周智郡曹洞宗可睡齋專門僧堂監寺及び單頭、村大政翼賛會員、司法保護委員等の要職を兼任してゐる。

なほ家庭には、婦徳の聞え高き夫人との間に三男一女を恵まれ、和氣溢るる幸福の一家をなしてゐる。

靜岡、駿東、須山村
前村 長 土屋 淺治

土屋家は現主まで二十代を傳承する村内屈指の舊家にして、累代農業を營み村治に功勞厚き家柄である。
先代伊勢藏氏は村民の信望を浴びた篤

農家として名高きものがあつた。
當主淺治氏は明治五年十一月に呱呱の



聲を擧げ
先代に劣
らぬ減私
奉公の精
心に富み
村長、村

會議員、農會長、消防組頭をはじめ幾多の要職を歴任、其の間、道路改修、林道改修、學校の改築等、村内の土木及び文教の發達に盡力し、また椎茸人工栽培の指導、アスパラガスの栽培の促進等、産業上にも多大の貢献をなし、特に村民の精神的向上を期して報徳社を組織し、指導啓發に實績を収めて益々盛なるものあるは、偏に氏の努力に負ふところである。資性温厚にして、園藝、讀書に興味深く、言語態度共に衆人を抜く地方稀れに見る逸材である。
なほ家族には、ひろ夫人との間に三男四女を恵まれ、長男友治氏は御殿場實業

學校卒業後、近衛歩兵第三聯隊に入隊、軍曹となつて歸郷後、軍人分會長、青年團長、青年學校指導員、學務委員、警防團副團長等幾多の公職を兼任し、父君と共に村勢進展のため活動を續けてゐる。
また隆一氏は滿洲國青少年義勇軍幹部として内原訓練所に修業を積み、目下黒河省廣金子訓練所第四中隊教育主任となつて新東亞建設の第一線となつて活躍してゐる。

静岡、富士、今泉村

山林用苗木
生産販賣業
渡邊 英雄

當渡邊家は村内有數の舊家にして、神戸區に分家してより現主まで十三代の連綿たる家系を傳へてゐる。
先代源作氏は情理に富む義侠的な努力家で、當主英雄氏が十七歳の折、不幸にして家産を殆ど失ひたるも、英雄氏と協力して家運を挽回し、苦節に苦節を重ねて終に今日の基礎を築いた堅忍不拔の人



ため夙夜
寢食を忘
つて、社
會公共の
郷村にあ
隊するや

殊に英雄氏は明敏なる識見手腕を顯はれ、春秋に富む有爲の逸材として村民の信極めて厚く、郷校を卒業後、大正元年近衛歩兵第三聯隊に入營し、同三年に除隊するや、
役員等を歴任、現在村會議員、學務委員、今泉産業組合理事、翼賛會構成員等を兼任してゐる。
氏はまた植林事業に燃ゆる如き熱意を有し、其の改善發達に努力を惜まず、現に山林用苗木生産並に販賣業を經營し、富士郡第二種苗木組合長の重任を擔つて、當組合の進展と組合員の福利増進に邁進してゐる。
其の人となりまた圓滿清朗、一度社會

公共の事に及べば私事を抛うち、周囲の人々に對しても極めて友誼的な稀れに見る人格者である。

静岡、富士、吉原町

町會議員 矢部 庄七

當吉原町にありて常に己を抛ち、旺盛なる責任觀念に基いて町勢進展のため、活動を續ける矢部氏の如き士こそ、寔に町政の重任を托するに足る。
氏は先代庄七氏の長男として明治九年二月に生れた。

天性、温厚にして質朴、愛郷の信念に立脚する誠實の人、町民の輿望を一身に浴びるもまた當然である。
當町政の樞機に參與して以來、眞に町民に奉仕する公僕なりと自覺し、極力自己の深き體驗を生じて、町勢の圓滿な發展と町内の融和に渾身の努力を傾け、現に氏の盡力によつて春日の如き和やかな氣分が溢れ、上の就く處下之に準じ、一

致協同の實を擧げて、其の前途を洋々たるものに築いてゐる。

殊に氏は實踐躬行自ら身を以て範を示すを常とし、一面其の燃ゆるが如き熱と力は、町民敬仰の中心となり、産業組合長、吉原米雜穀小賣商業組合理事長、東洋醸造株式會社監査役、駿河貯蓄銀行監査役等の重職を兼任すると共に、年と共に其の信望を高めてゐる。

静岡、周智、山梨町

町會議員 加藤 又七

當加藤家は累代海産物販賣を以つて家業とし、手廣く經營して業者の間に極めて信用があつた。

當主又吉氏は先代豐吉氏の男として明治二十四年六月三日に呱呱の聲を擧げ、夙に明敏なる頭腦と誠實に一貫せる努力家として名あり、曩に周智郡砂糖組合専務理事、靜岡縣飲料水組合専務理事を勤めて優れたる經營手腕を縦横に示し、

兩組合の基礎を築いた最大の功勞者でもある。



現在マオラン栽培及び清涼飲料水製造商標の兩事業を管理し、マオラン栽培に於ては昭和十三年春期分として三百本を植え、更に同十五年春期分三萬本の増植を見て益々有望なるものがある。

氏はまた、事業に敏腕を示すのみでなく、公共社會に盡力を惜まぬ眞摯の人で、警防團長の重任を果して、現に、町會議員二期を勤め、町勢進展のため献身的活動を續けて、町民の信望を一身に浴びてゐる。

其の人となり温厚にして謙讓、家庭も氏の圓滿なる人格を反映し、常に春風の如き和氣霽々たるものあり、温雅な夫人との間に長男光男君、次男伊平君、長女清子さん、次女靜子さんがある。

石川、能美、粟津村

本 廣 寺

當地方に於て眞宗の名刹たる當山は、寺歴に徴して見るも由緒深く、五代前の住職冷聴師の再興となつてゐる。

法燈を繼ぎて智閑、三省、盛龍の三師が住職として歴任し、現住藤伊辰英師となつて今日に及んでゐる。

毎年定例の祭日には近郷近在の善男善女が雲集して法燈の絶ゆることなく、廣き境内は諸堂伽藍を接して建ち、往昔の面影を寫して、名實共に屈指の名寺として其の名に恥ぢない。

住 職

師は本村の布道に功勞あつた先住盛龍

藤伊 辰英 師の長男にして、大

正五年十一月十八日呱呱の聲を擧げた。大谷大學専門部を優秀の成績を以て卒業後、嚴父の後を繼いで日夜布教に専心する善智識として、村民の輿望を一身に

浴び令名とみに高きものがある。

なほ師の母堂みき女史は、本村愛國婦人會及び國防婦人會の會長、粟津校下婦人會副會長を歴任した婦徳高き人で、村民の信望も極めて厚く、曩に婦人團體の功勞者として陸軍大臣より感謝状を送られてゐる。

石川、能美、新丸村

新丸村 役場

本村は郡の稍々南部に位し、南端は大日峠を以て福井縣大野郡と接し、西部は手江首峠等の山脈を以て大杉谷村に、東部は西山村に、北部は荒倉丘及び鷲走ヶ谷山脈を以て鳥越村に、それぐ境し、手取川の水源にあたる山村にして、川の流域には平地があり、多少の田地が開かれてゐる。

村内は常に和氣漲り溢れ、村政指導者の善導と相俟つて産業、財政、政治、文教等諸般に亘り、完全な組織下に村民の

福祉が増進され、殊に教育施設に當つて

は新丸尋常高等小學校を中心として、時局に即應せる充實した諸設備が見られ、現在島口一郎氏が校長の重任を擔つて、日夜眞摯の努力を續け、輝く實績は他校の齊しく矚目するところとなつてゐる。

其の他、物心兩面に於いて着々向上の一端を辿り、名實共に備はれる模範優良村として現非常時下に益々戮力協心、舉村一心の實を擧げるべく邁進してゐる。村の標語に「人心の一致一和は政治の要目なり」とある。

村 長

氏は村長に就任以來文字通り寢食を抛

つて公共のため盡瘁し、今日に至るまで幾多の治績を擧げてゐる。資性温厚にして眞摯加ふるに卓抜の人格、識見は村民の師表として恥じず今後の活躍は期待されてゐる。また氏は縣政界の重鎮として、重きをなす人にして、時局下村政の伸展に厚き念慮を拂ひつゝある。

高知、香美、槇山村

槇山 信用販賣組合

電話大橋二三番

本村には明治四十二年以來、先覺者公文義親氏の唱導により、庄谷相部落に庄谷相勤儉貯蓄組合が設立され、部落民の圓滑な金融に資し、相當の成績を収めてきたが、大正八年十二月存立期限の十ヶ年が満了を告げて一先解散することとなつた。所が適々當時庄谷相出身にして、農會技手を勤むる公文清重氏は時代の趨勢に刺戟され、本村産業の向上發展と村民の生活の安定の保障は一つに産業組合設置にありとの信念に燃え、凡ゆる困難を克服して村長公文義親氏を始め、村内有力者の協力を得て、遂に大正九年六月十七日、本組合設立の認可を受けたのである。

今や縣下の産業組合數二百五十餘を數ふる中、名實共に屈指の組合として堅實

な發展を遂げつつある。

信用部は組合員の協賛を得てますます好調を示し、販賣購買の兩事業は農家經濟の圓滑な向上を圖り、利用部は完全な設備を以て組合の福利進展に多大の寄與をなし、自他共に許す有力組合として前途は洋々たるものがある。

役員は組合長に公淵照吉氏が當り、理事に公文清重、山崎兼鶴、坂本長太郎、谷淵靜一、小南寅之助、小松正實、小松辨藏、監事に山崎政三、森田健次、谷桐源龍の諸氏が就任してゐる。

組 合 長

氏は先代中内又次氏の次男として、明治十八年七月二十四

日に誕生した。のち谷淵家の養嗣子として家督を受継ぎ、夙に愛郷心厚き徳望家と謳はれて村民の信望があつた。

曩に野戦砲兵聯隊に入營、明治四十二年十一月砲兵曹長に任ぜられて除隊し、歸郷後専ら村治公共に盡瘁し、當組合長となるや堅實の手腕を揮つて組合員の支

持を聚め今日に至つた。

高知、長岡、介良村

介良村 信用販賣組合

當村の金融經濟の中樞として且つ亦産業の促進に資すべく、本組合に縣當局の指導に基いて大正十一年十二月、信用組合として設立、爾來組合精神の徹底普及を圖ると共に、組合員の増加を見て購買部、販賣部、利用部の各部門を整備するに至り、今や戦時下農村の發展に全機能を發揮しつつある。

事業の概況は、事變の長期戦に入るに伴ひ、産業組合の使命益々重大にして、なほ一層整備擴充を必要とする秋、役員諸氏の健闘により豫期以上の好成績を収めてゐる。

現役員は富永秀吉、中島虎義、竹内正吉、田内地久之助、錦織重喜、藤本頼馬、竹内東稻、野村銀次、中島壽太郎、鍋島鼎の諸氏である。

昭和十六年 三月廿八日印刷
昭和十六年 三月卅一日發行

(非賣品)

東京市本郷區駒込富士前町一

著作兼發行 兼印刷人 株式會社 國際通信社

佐藤公彦

東京市本郷區駒込富士前町一

印刷所 株式會社 國際通信社印刷部

不許
複製

發行所 東京市本郷區駒込富士前町一 株式會社 國際通信社

電話(代表)大塚八〇七〇番
振替口座東京三四四七〇番

411
40

終

